

社会のニーズにこたえる効果的な情報発信の推進 報告書

職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進

2018年3月

MRI 株式会社三菱総合研究所
科学・安全事業本部

目次

1. 目的と概要	1
1.1 背景及び目的	1
1.2 検討体制	1
1.3 実施概要	3
2. 情報発信上の課題に関する調査	4
2.1 卒業生アンケート調査.....	4
2.1.1 調査概要.....	4
2.1.2 調査結果.....	5
2.2 卒業生グループインタビュー調査	24
2.2.1 調査概要.....	24
2.2.2 調査結果.....	25
2.3 既存調査を活用した情報発信上の課題に関する調査	29
2.3.1 調査概要.....	29
2.3.2 調査結果.....	30
2.3.3 考察	68
2.4 都道府県協会における情報発信状況の調査.....	70
2.4.1 アンケート調査概要.....	70
2.4.2 アンケート調査結果.....	71
2.4.3 インタビュー調査概要.....	87
2.4.4 インタビュー調査結果.....	88
3. 情報発信の戦略及びアクションプランの検討	93
4. 情報発信素材の収集及び広報ツールの作成・評価	94
4.1 広報ツールの作成方針.....	94
4.2 広報ツールの内容.....	95
4.3 広報ツールの評価.....	103
5. 参考資料	104
5.1 専修学校の魅力を訴求する戦略とアクションプラン（別添）	104
5.2 プロフェッショナルを育てる未来につながる専門学校（別添）	104
5.3 卒業生アンケート調査データ集（別添）	104
5.4 都道府県協会調査票	105
5.5 卒業生アンケート調査票.....	111

1. 目的と概要

1.1 背景及び目的

専修学校教育の理解・認知度向上に向けて、専修学校から高等学校や中学校、企業等への情報発信の在り方等について検討を行うとともに、その検討結果を踏まえて、実態調査や事例収集、広報ツールの開発等を実施した。

1.2 検討体制

有識者から構成される「平成 29 年度 社会のニーズにこたえる効果的な情報発信の推進検討会議」（以下、検討会議という）を開催して検討を行った。

表 1-1 「平成 29 年度 社会のニーズにこたえる効果的な情報発信の推進検討会議」委員一覧（順不同、敬称略）

区分	所属・役職	氏名
委員長	NPO 法人 私立専門学校等評価研究機構 理事 東京スポーツ・レクリエーション専門学校 学校長	関口 正雄
委員	福岡大学 人文学部 教育・臨床心理学科 准教授	植上 一希
	国立教育政策研究所 生徒指導・進路指導研究センター 総括研究官、教育課程研究センター 教育課程調査官	長田 徹
	全国専修学校各種学校総連合会、一般財団法人職業教育・キャリア教育財団 事務局長	菊田 薫
	株式会社リクルートマーケティングパートナーズ リクルート進学総研所長	小林 浩
	学校法人武蔵野東学園 常務理事	清水 信一
	独立行政法人労働政策研究・研修機構 主任研究員	堀 有喜衣
	東京都立多摩高等学校 進路指導部主任（主幹教諭）	本間 恒男
	学校法人西野学園 理事長	前鼻 英蔵

表 1-2 「平成 29 年度 社会のニーズにこたえる効果的な情報発信の推進検討会議」
開催日程及び検討内容

回	日程	検討内容
1	平成 29 年 10 月 5 日	<ul style="list-style-type: none"> • 本事業の概要及び年間の進め方について • 情報発信の実態及び今後実施する調査について • 戦略及びアクションプランの構成について • 広報ツール作成方針について
2	平成 29 年 11 月 21 日	<ul style="list-style-type: none"> • アクションプランの更新及び各委員からの意見発表 • 卒業生を対象とする調査について • 広報ツールについて • 都道府県協会における情報発信状況の調査
3	平成 29 年 12 月 21 日	<ul style="list-style-type: none"> • 卒業生調査結果概要 • 都道府県協会調査結果概要 • アクションプランについて • 広報ツールについて
4	平成 30 年 2 月 21 日	<ul style="list-style-type: none"> • 卒業生グループインタビュー調査 • 都道府県協会調査結果 • アクションプラン及び次年度実施事項について • 広報ツールについて

1.3 実施概要

(1) 検討会議の設置・運営

情報発信の戦略及びアクションプラン及び広報ツールの検討のため、検討会議を設置した。期間中に4回対面での会議を開催するとともに、必要に応じて個別に相談し、助言を得た。

(2) 情報発信上の課題に関する調査

検討会議において戦略及びアクションプランを検討する際の材料とするため、情報発信によって解決すべき課題や解決策の選択肢を明らかにするための主要関係者への実態把握調査を実施した。実施した調査は以下のとおりである。

- ・ 卒業生アンケート調査
- ・ 卒業生グループインタビュー調査
- ・ 高等学校教員アンケート（既存調査の追加分析）
- ・ 社会人学生アンケート（既存調査の追加分析）
- ・ 専修学校アンケート
- ・ 都道府県協会における情報発信状況の調査

(3) 情報発信の戦略及びアクションプランの検討

(2) を通じて明らかになった課題を解決するため、どのような情報発信を行うか、検討会議において検討し、戦略とアクションプランとしてとりまとめた。

(4) 情報発信素材の収集及び広報ツールの作成・評価

(1)～(3) の方向性を踏まえて広報ツールを作成するため、素材を収集・整理した。平成29年度は、高校生・高校教員向け広報ツールを作成し、関係機関に配布した。

(5) 報告書の作成

以上の活動履歴等を取りまとめた報告書を作成した。

2. 情報発信上の課題に関する調査

2.1 卒業生アンケート調査

2.1.1 調査概要

(1) 目的

専門学校卒業生及び大学卒業生各 1,500 名を対象として、高等学校在学時の状況、進路選択等を調査することにより、専門学校卒業生の進路志向や進路決定プロセス等を明らかにするとともに、大学卒業生との差異を分析した。併せて、広報ツールの素材として、専門学校の魅力に関する情報を収集した。

(2) 調査方法・結果

1) 調査件名

専修学校（専門学校）卒業生、大学卒業生アンケート

2) 調査対象

40 歳以下の専門学校卒業生、大学卒業生各 1,500 名

3) 調査方法

Web アンケート（Web モニター調査）

4) 調査期間

平成 29 年 12 月 8 日 ～ 平成 29 年 12 月 14 日

5) 回収結果

回収数：3,105（大学卒 N=1,573 専門学校卒 N=1,532）

2.1.2 調査結果

(1) 基本属性

- 現在の就労形態は大学卒業者と比較して、専門学校卒業者は自営業／経営者、非正規社員での雇用、就労していない割合が高い。
- 現在の職業の業種は、大学卒業者では専門学校卒業者と比較して「製造業」「金融業、保険業」「教育、学習支援業」「公務」の割合が高く、専門学校卒業者は大学卒業者と比較して「医療、福祉」「サービス業」の割合が高い。
- 現在（直近）の職種については、専門学校卒と比較して、大学卒業者は事務職の割合が高い。

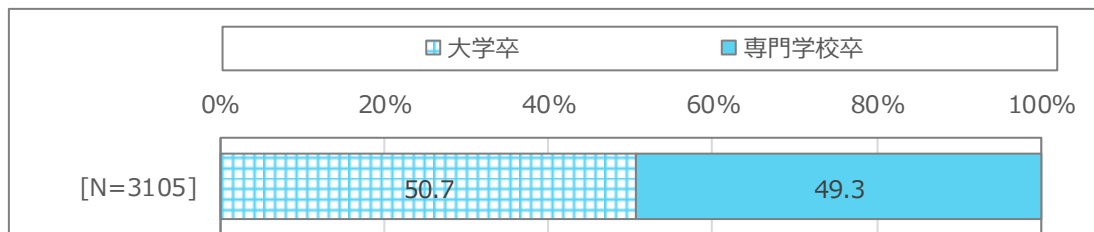


図 2-1 最終学歴

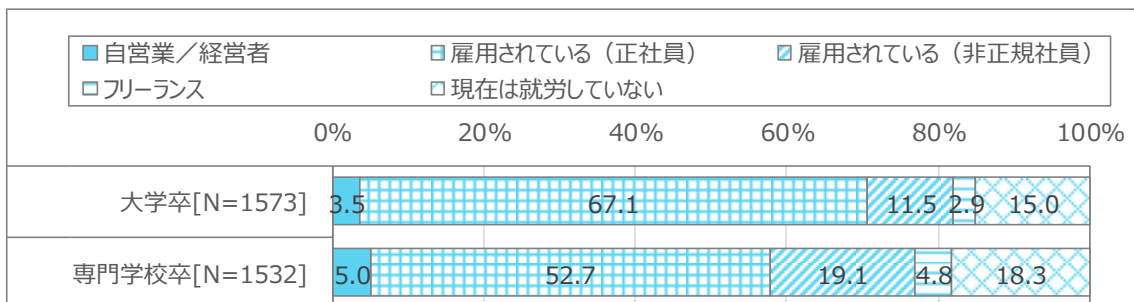


図 2-2 現在の就労形態（最終学歴別）

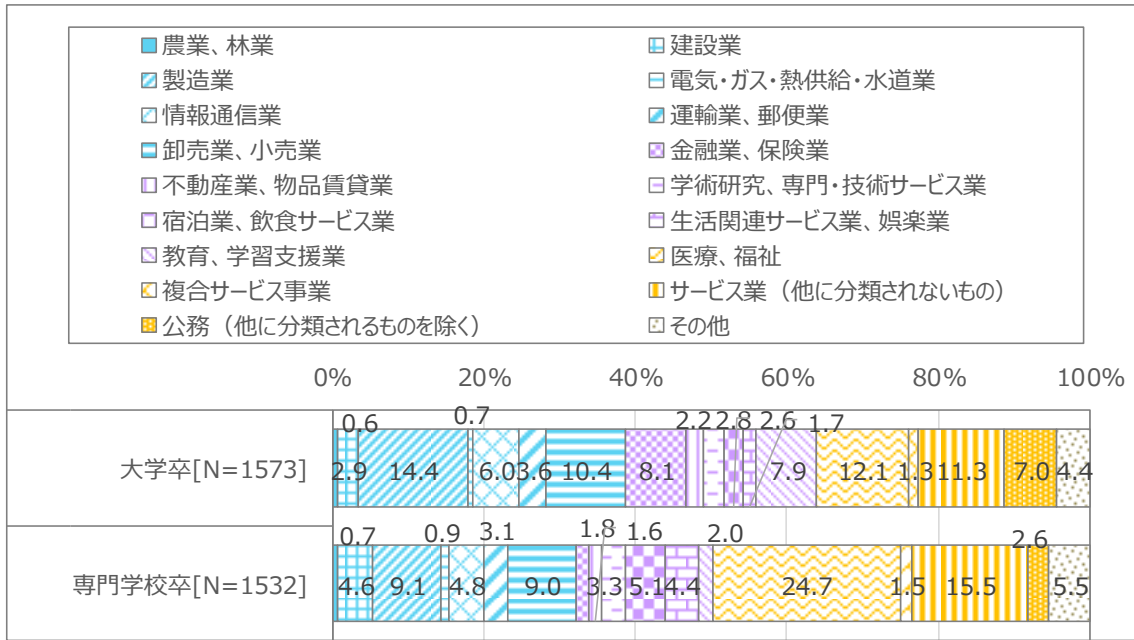


図 2-3 現在の職業の業種（最終学歴別）

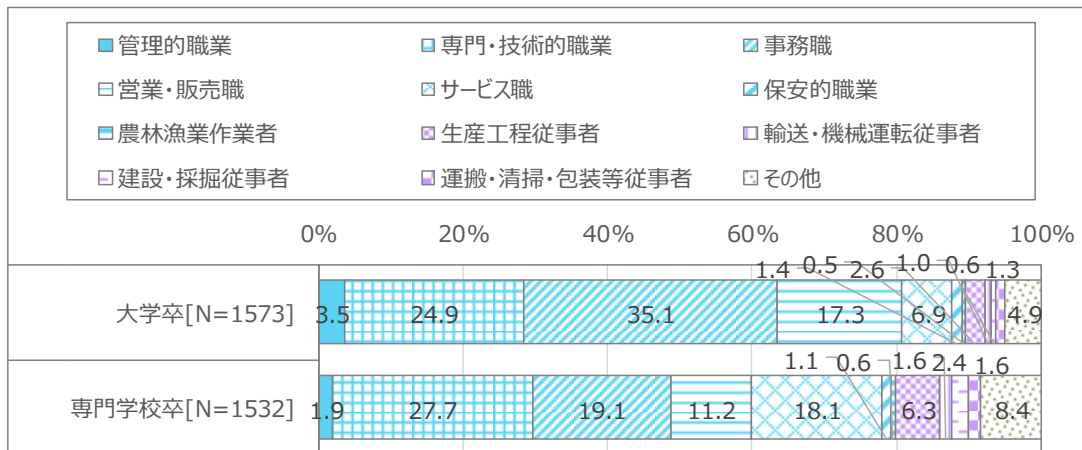


図 2-4 現在の職業の職種（最終学歴別）

(2) 学習歴及び現在の仕事内容

- 専門学校卒業者は、大学卒業者よりも国家資格、業界・民間資格の取得者が多い。
- 現在までに所属した組織の数は、専門学校卒業者は大学卒業者よりも多い。
- 現在（直近）の職業と大学／専門学校で学んだ内容の関連性については、「日々の業務で専門性を発揮している」と回答した割合が、専門学校卒の方が多い。

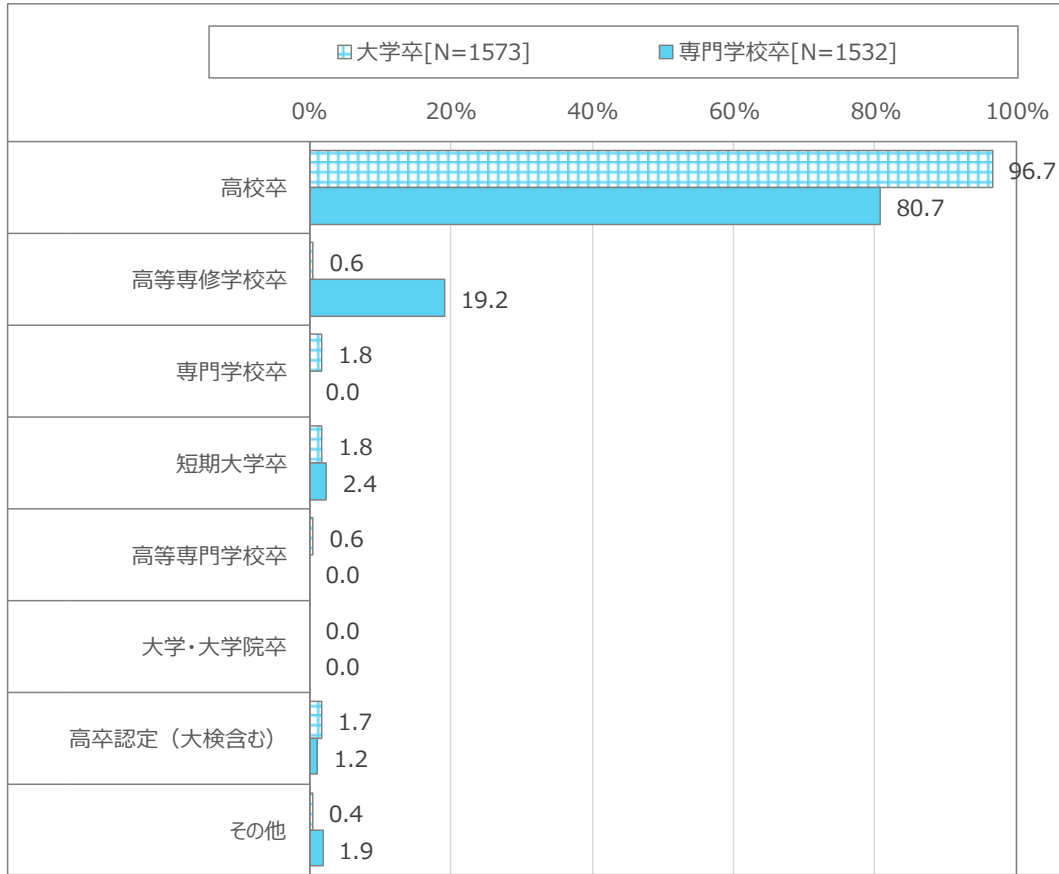


図 2-5 入学するまでの全ての学歴（最終学歴別）

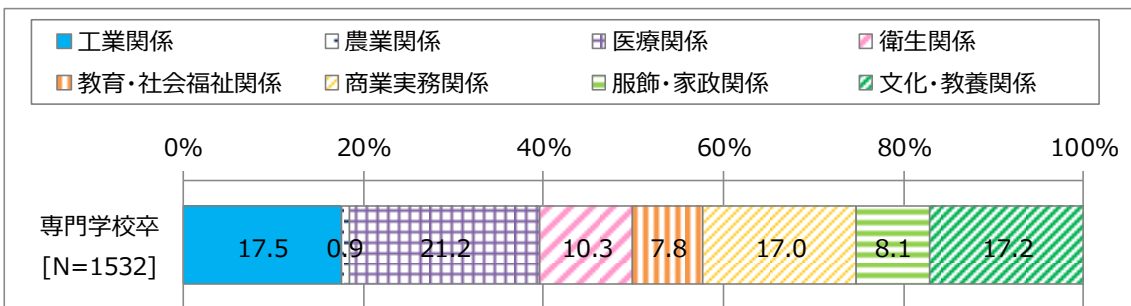


図 2-6 修了した専門学校での専攻分野（専門学校卒）

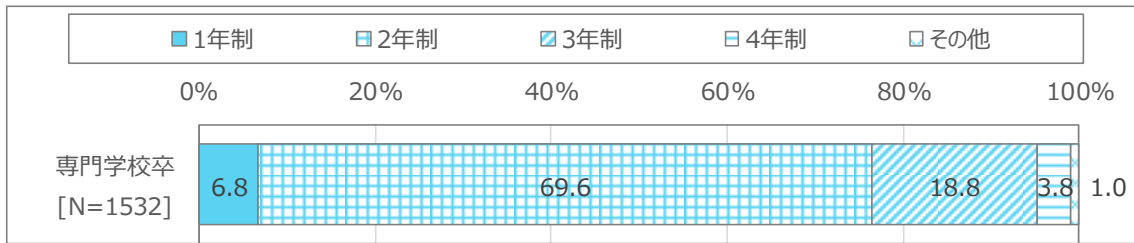


図 2-7 卒業した専門学校の修業年限（専門学校卒）

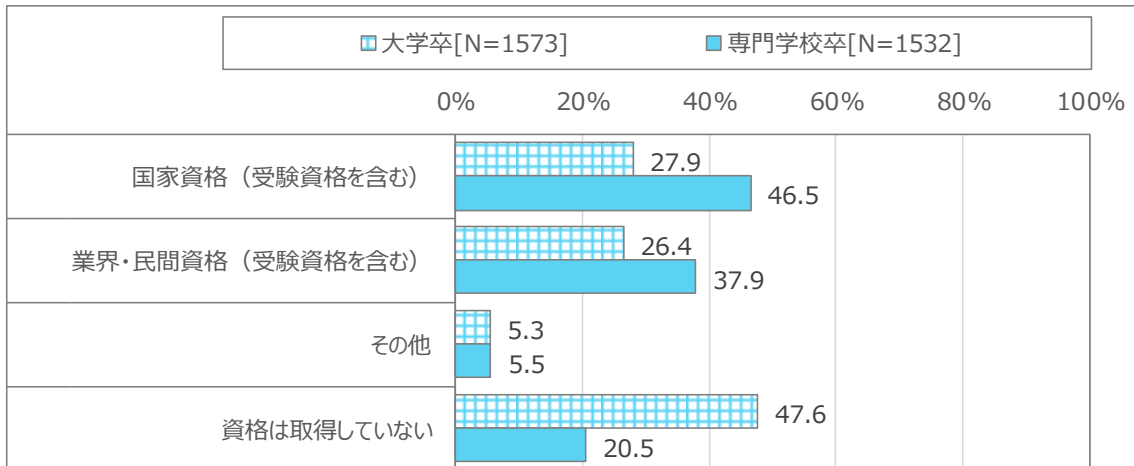


図 2-8 卒業学校で在学中に取得した資格（最終学歴別）

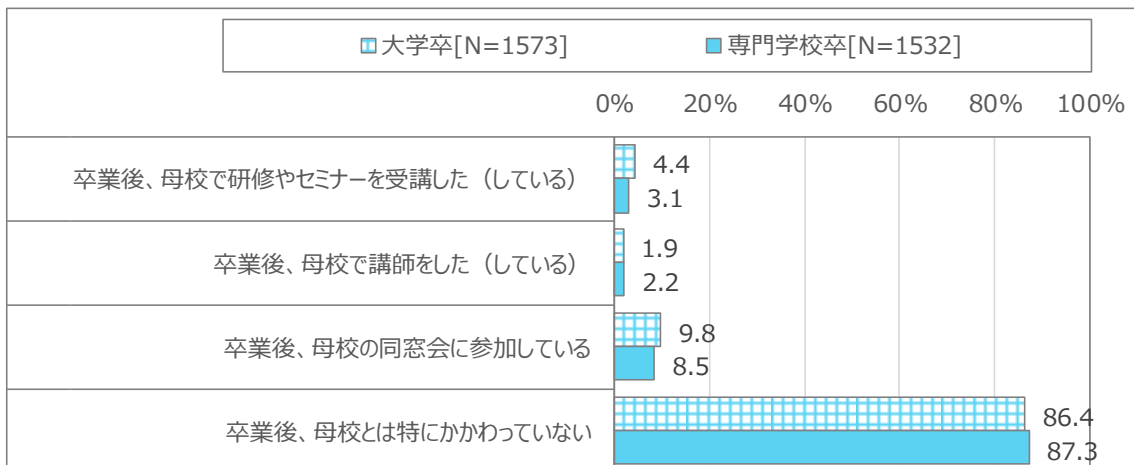


図 2-9 母校との関わり（最終学歴別）

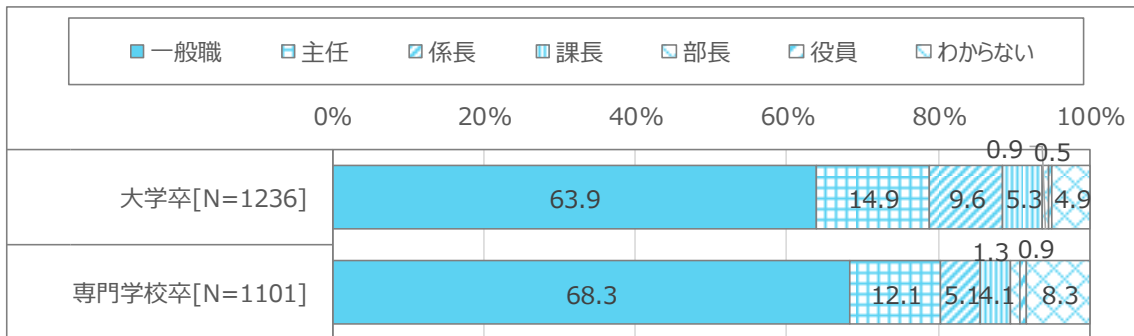


図 2-10 現在のキャリアパス（職位）（最終学歴別）

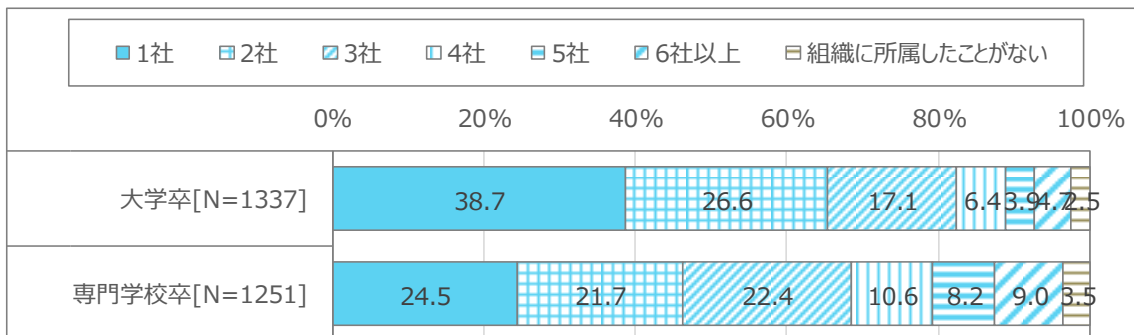


図 2-11 現在までに所属した組織の数（最終学歴別）

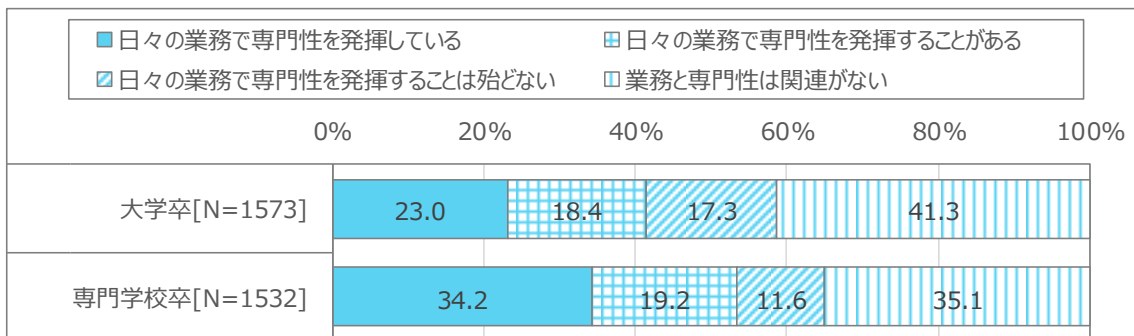


図 2-12 現在の職業と学んだ内容との関連性（最終学歴別）

(3) 進路希望

- 現在（直近）の職業に就くことを意識した時期については、大学卒業者は「卒業学校（大学）卒業後」との回答が最も多い一方で、専門学校卒業者は、「高等学校／高等専修学校在学中」と回答した者が最も多い。
- 高校時代の進路希望については、大学卒業者の7割が高校進学時から4年制大学を志望していた。専門学校卒業者のうち、高校進学時に専門学校進学を希望していた者は21.3%であった。専門学校卒業者の専門学校進学希望については、高校2年4月時点も25.8%に留まる一方で、高校3年4月時に46.3%、高校3年9月時に66.4%と増加した。
- 高校入学時点の進路希望別に見ると、「就職」あるいは「決まっていない」と回答している者が、高校2年4月、高校3年4月、高校3年9月と徐々に専門学校希望に移行していた。4年生大学希望者から専門学校への入学、専門学校希望者からの大学への入学の割合は低い。
- 専門学校卒業者に高等学校等における進路指導を聞いた結果、「専門学校の選択について指導はなかった」と回答した者が最も多かった。

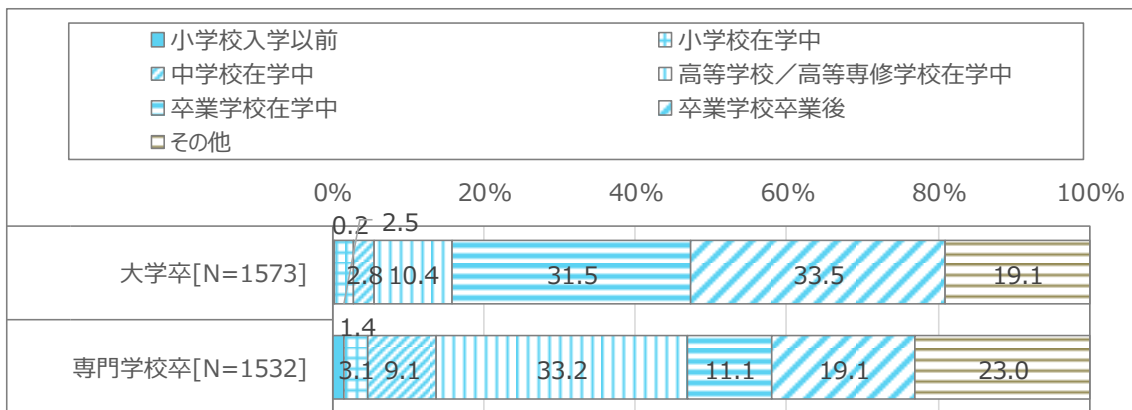


図 2-13 現在の職業に就くことを意識した時期（最終学歴別）

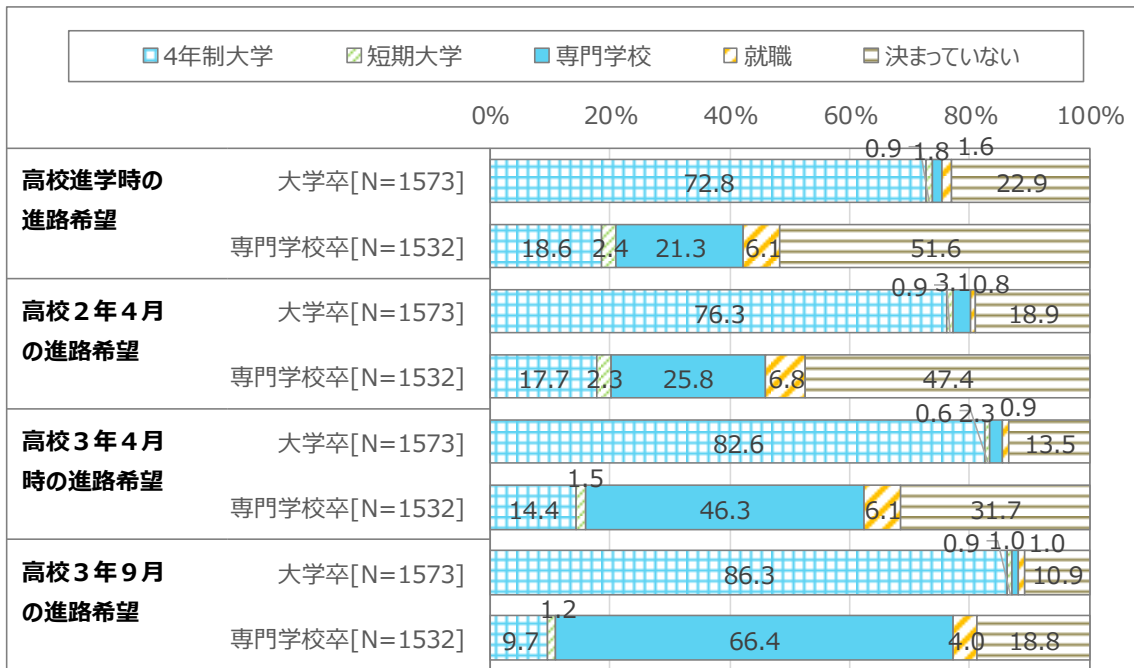


図 2-14 進路希望（最終学歴別）

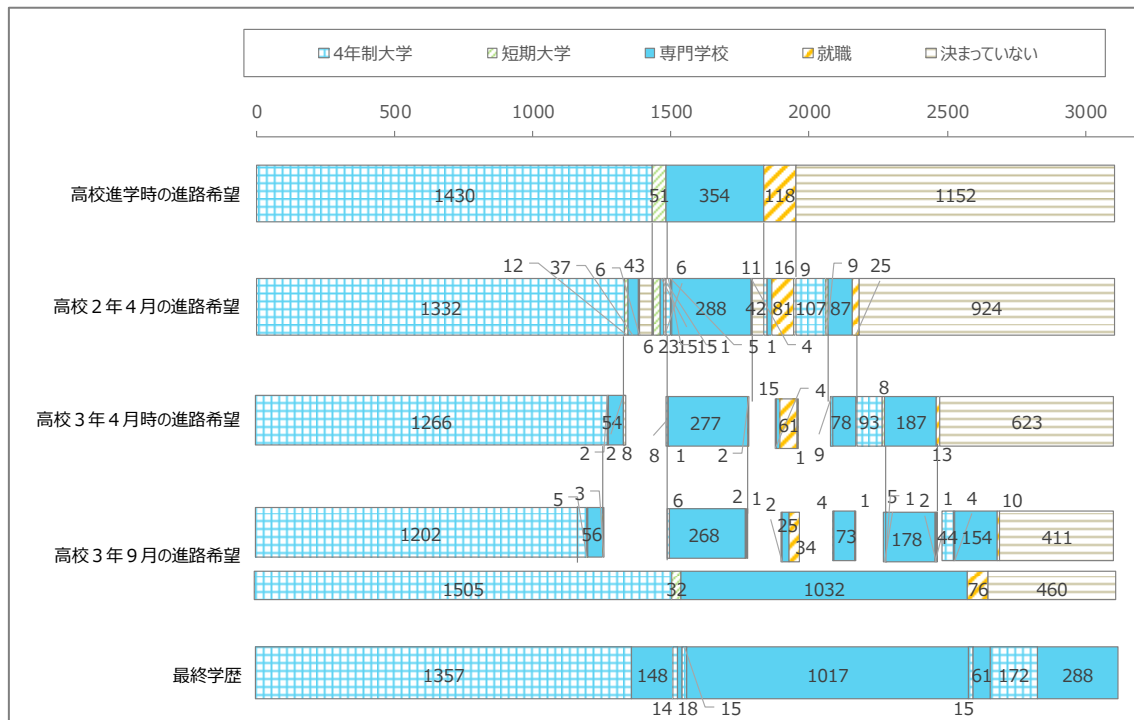


図 2-15 進路希望（当初希望別）

※高校3年4月時と高校3年9月時は主な層のみ掲載

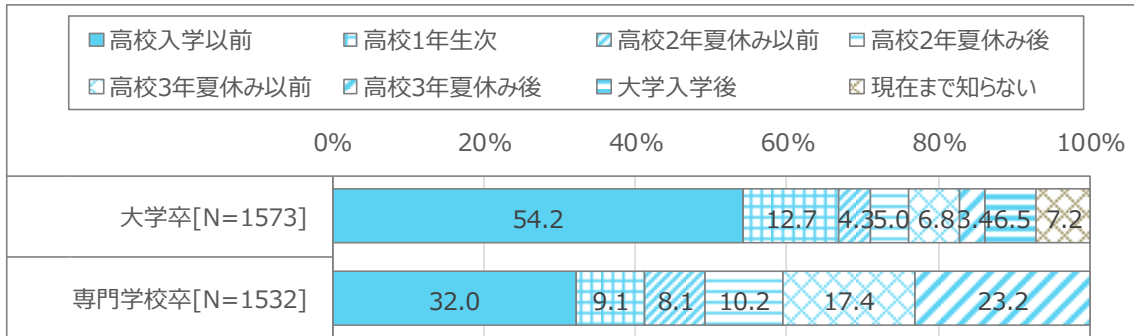


図 2-16 学校種を知った時期（最終学歴別）

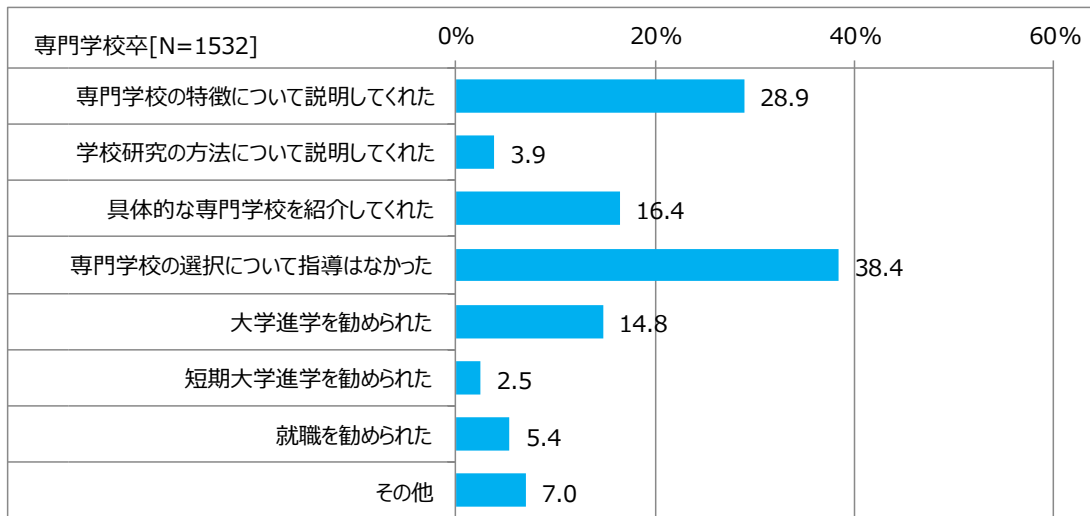


図 2-17 専門学校を希望する選択に関する高等学校等における進路指導（専門学校卒）

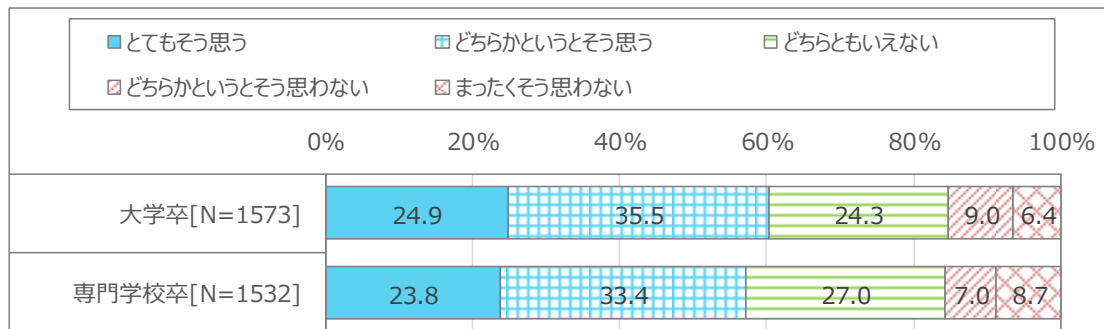


図 2-18 よい大学/専門学校を選択して進学できたと思うか（最終学歴別）

(4) 関係者属性

● 高校等の在学時におけるクラスメイトの専門学校進学者の割合を聞いた結果、大学卒業者の52.2%が「ほとんどいない」と回答した一方で、専門学校卒業者で「ほとんどいない」と回答した割合は24.8%であった。

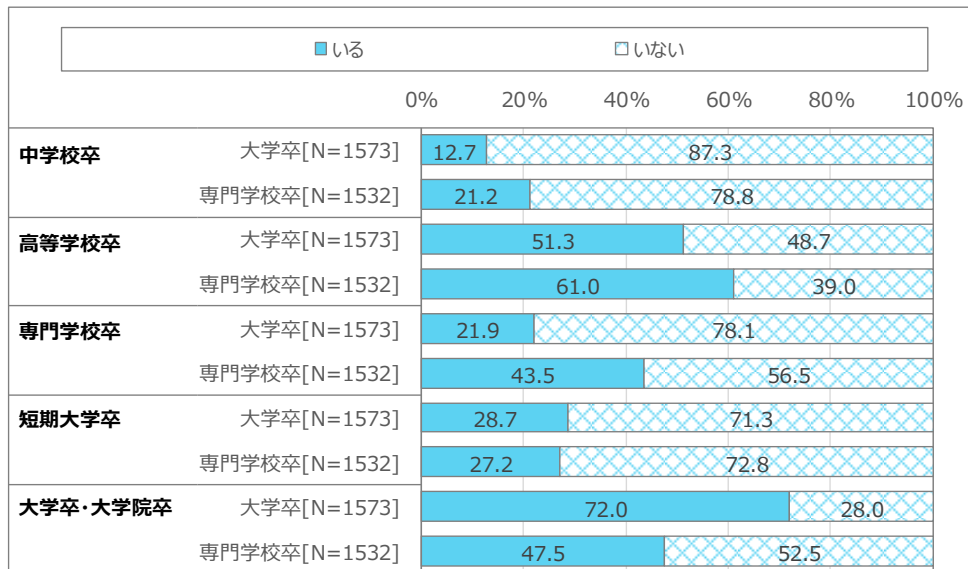


図 2-19 家族の最終学歴（最終学歴別）

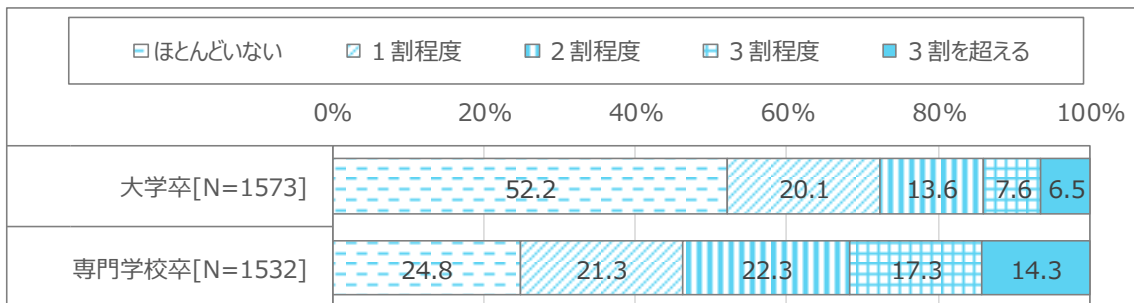


図 2-20 高校等の在学時クラスメイトの専門学校進学者の割合（最終学歴別）

(5) 進路決定及び情報入手経路

- 進路決定の理由については、大学卒業者は「就職に有利だと思ったから」「就職先の選択肢が広がると感じたから」「幅広い教養を身につけたいと思ったから」の順で回答が多かった。専門学校卒業者は、「専門性を身につけることができるから」「就職に有利だと思ったから」「好きなことを集中的に学修できるから」の順で回答が多かった。
- 進路選択の進学先及び進学分野選択時に参考にした媒体は、大学卒業者・専門学校卒業者ともに「大学／専門学校が出している学校案内」が最も多かった。専門学校卒業者は、進学先選択については、次いで「オープンキャンパスなどでの対面でのコミュニケーション」「一般的な進学情報誌」の回答が多く、進学分野の選択については次いで「オープンキャンパスなどでの対面でのコミュニケーション」「インターネット等のウェブ情報」の回答が多かった。
- 専門学校卒業者が進学先選択及び進学分野選択時に重視した情報は、「就職率」「資格取得率」「課外活動／実習内容」の順で回答が多かった。

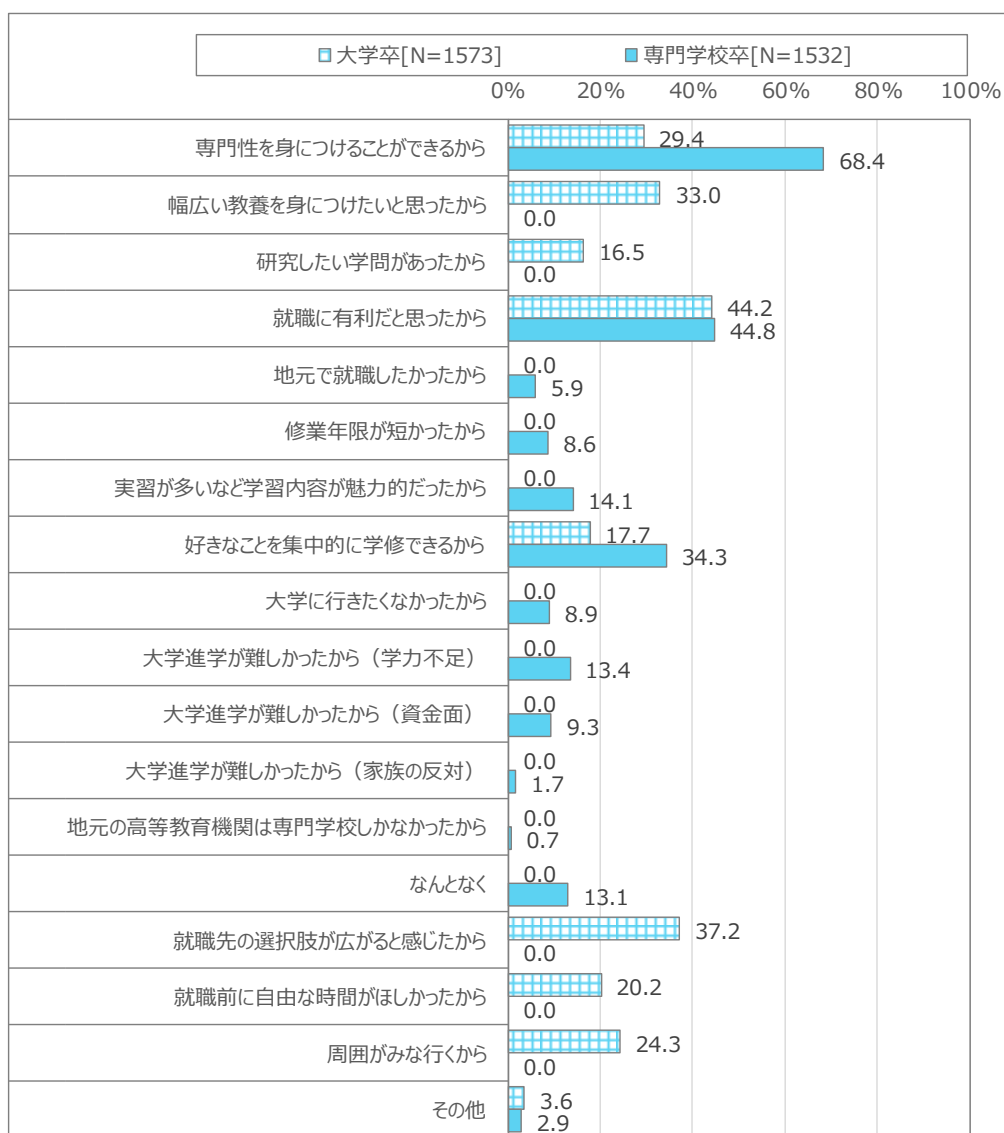


図 2-21 進路に決定した理由（最終学歴別）

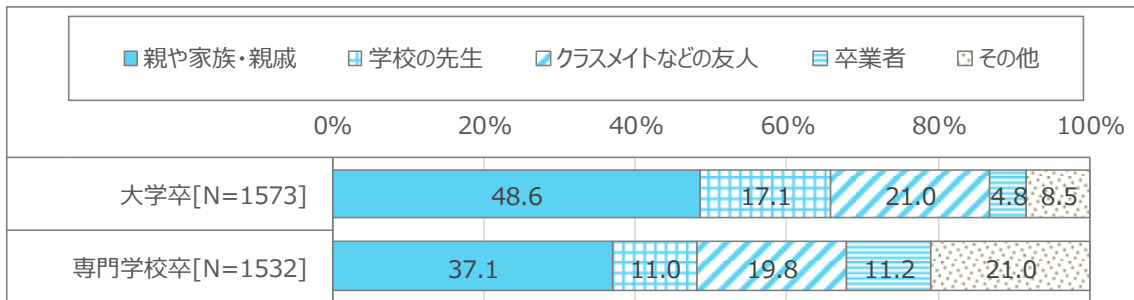


図 2-22 進路決定において一番影響を受けた存在（最終学歴別）

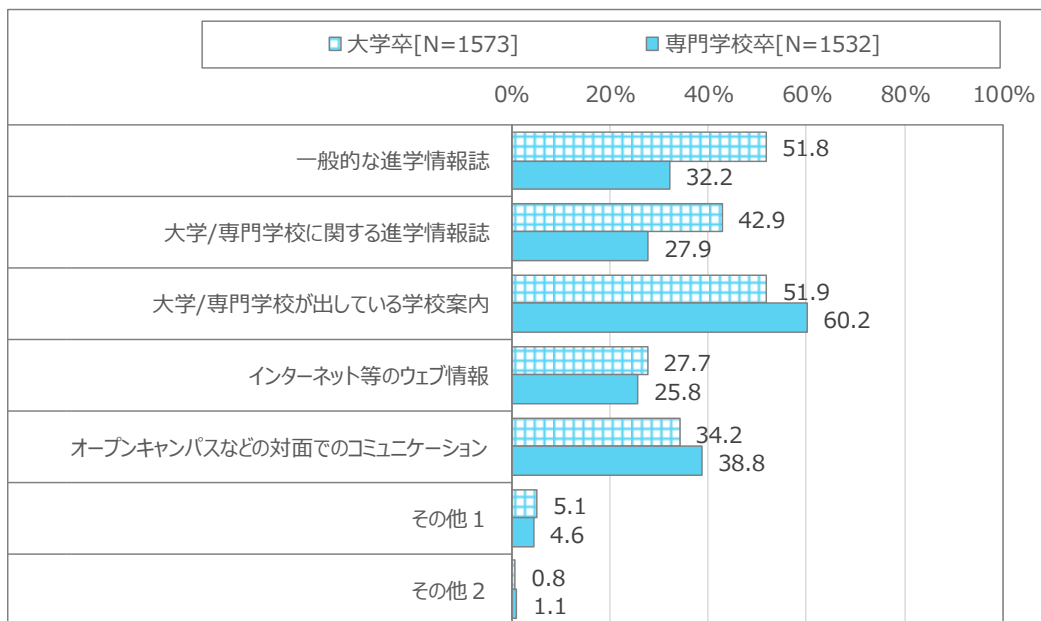


図 2-23 進路選択において、進学先を選ぶ際に参考にした媒体（最終学歴別）

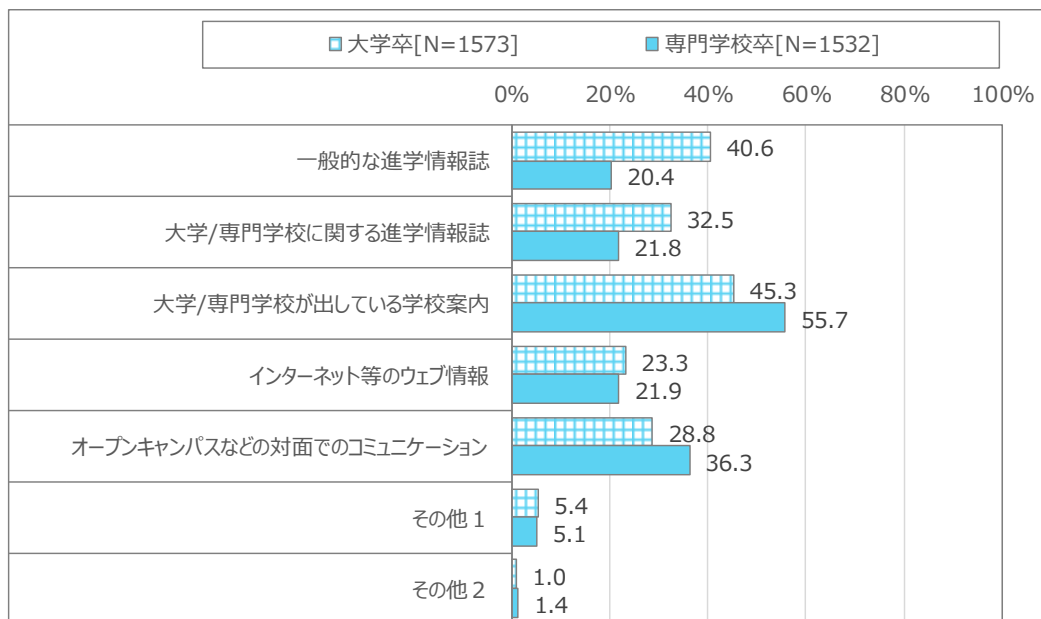


図 2-24 進学において、進学分野を選ぶ際に参考にした媒体（最終学歴別）

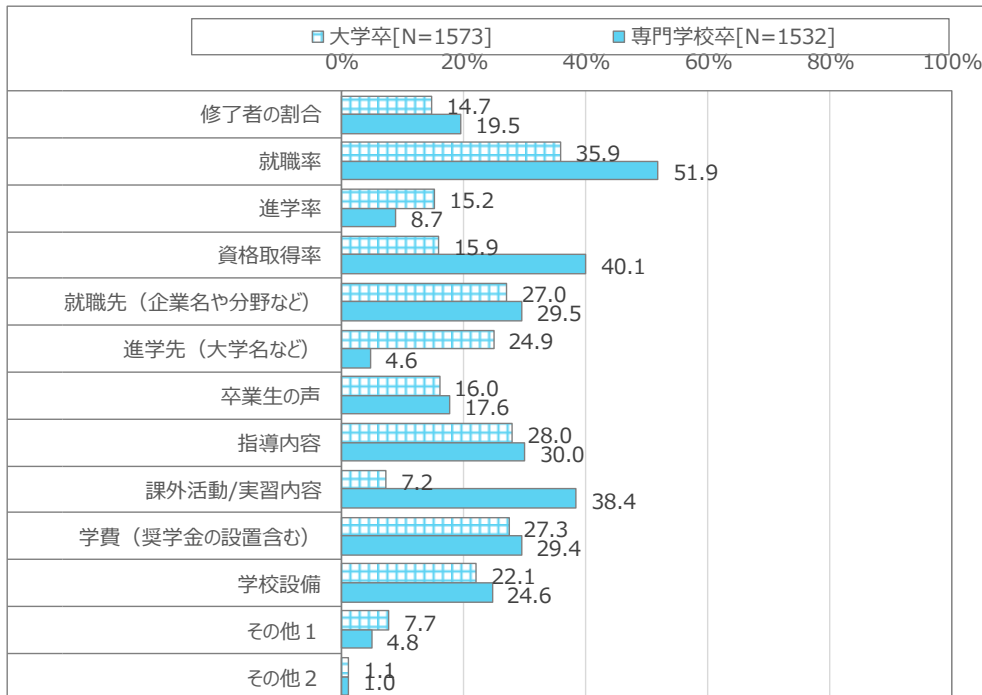


図 2-25 進学先を選ぶ際に重視した情報（最終学歴別）

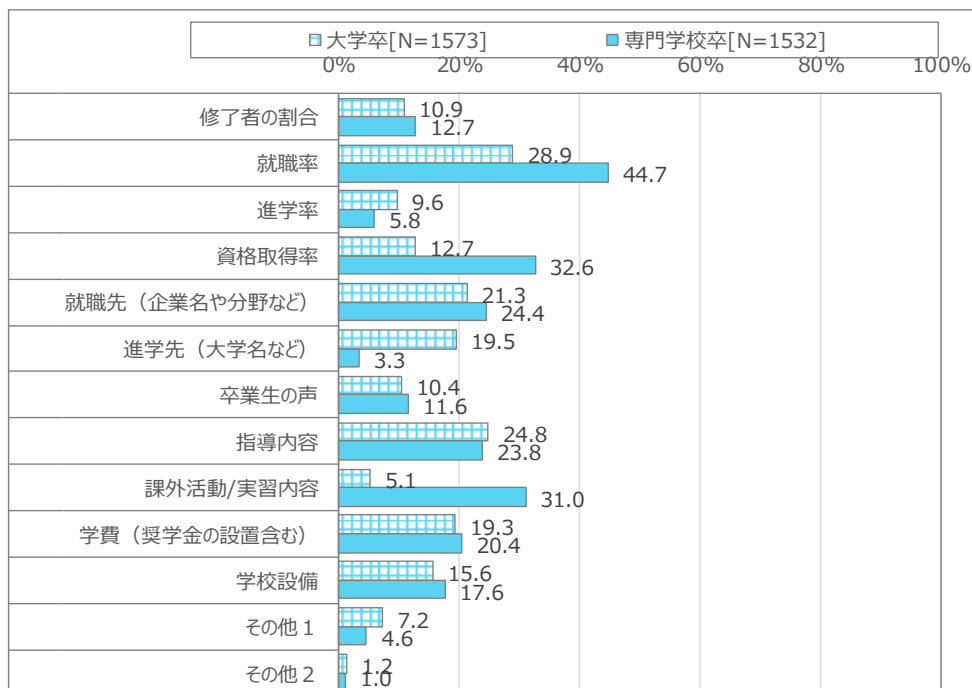


図 2-26 進学分野を選ぶ際に重視した情報（最終学歴別）

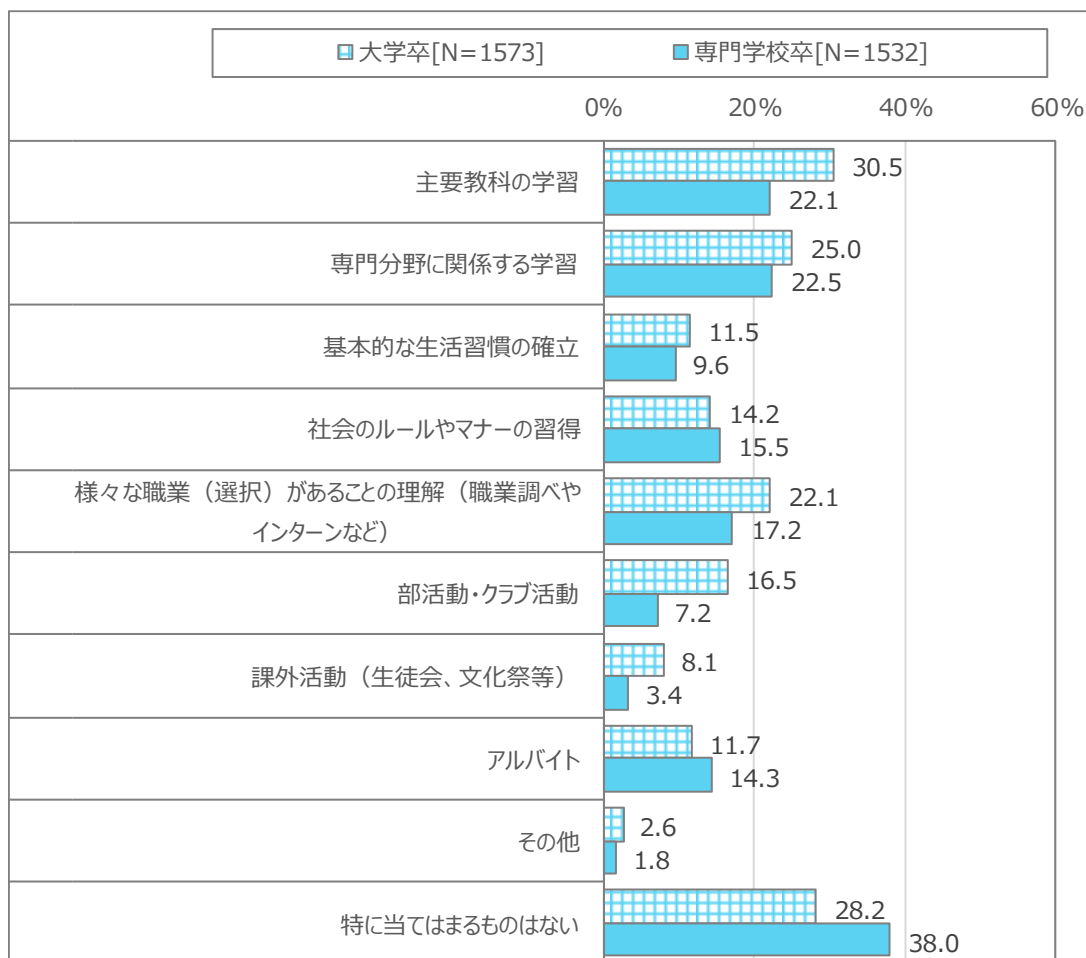


図 2-27 進学後、高校等に在籍時に取り組んでおけばよかったと思うこと（最終学歴別）

(6) 卒業後の状況

- 就職後の他学校種卒業者と比較した際の強みについては、専門学校卒業者は専攻分野に関する専門知識や技能に強みを感じる傾向があった。

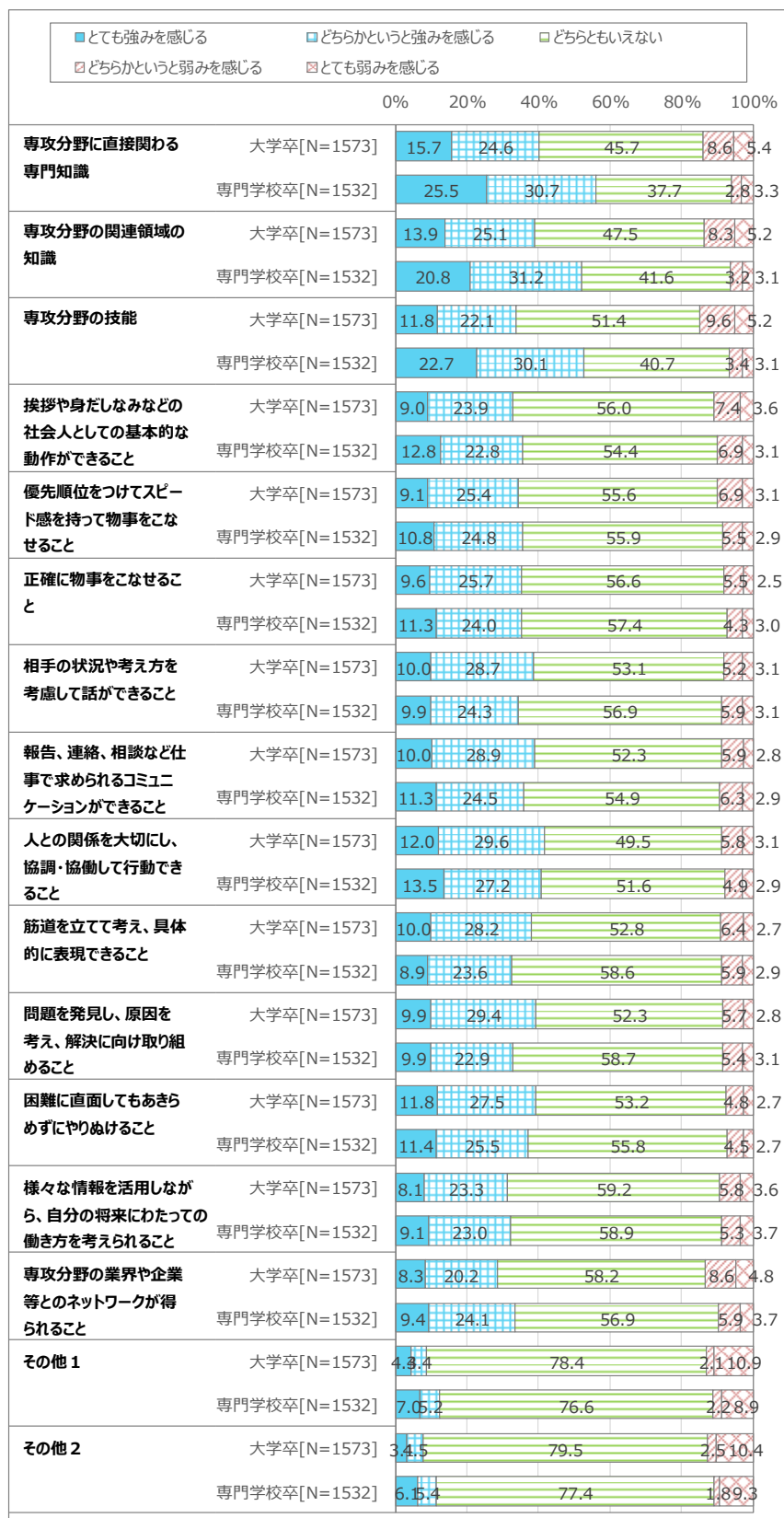


図 2-28 就職した後、他の学校種を卒業した人と比較して強みを感じたこと（最終学歴別）

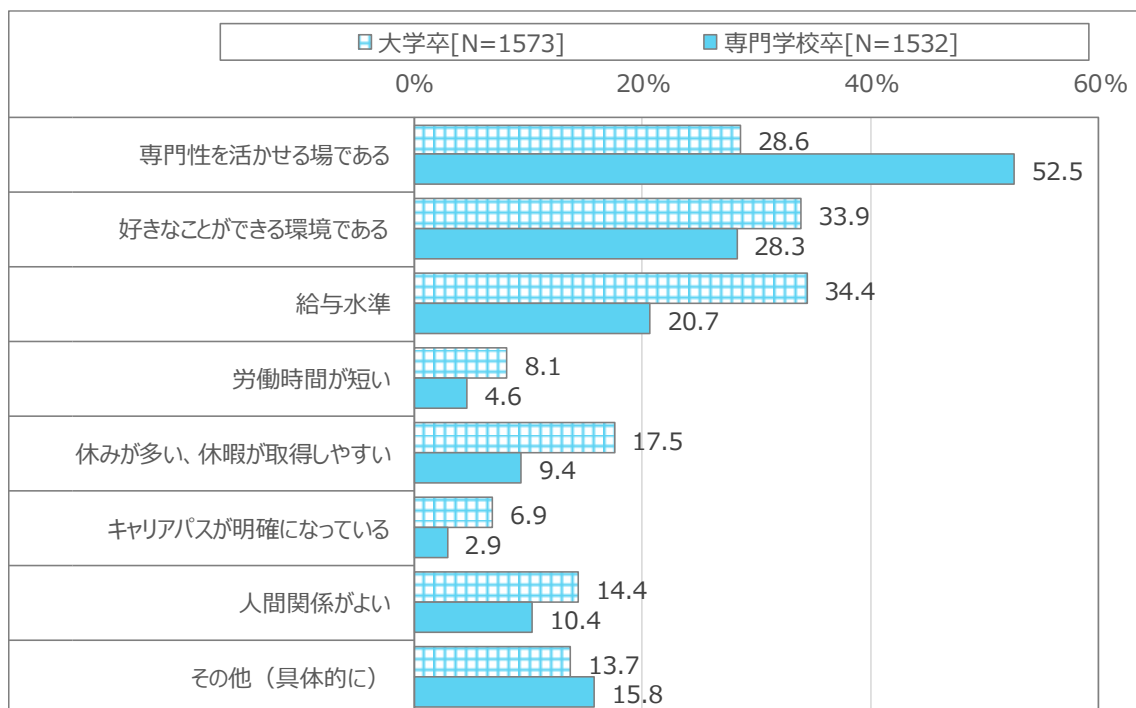


図 2-29 卒業時の就職先の決定理由（最終学歴別）

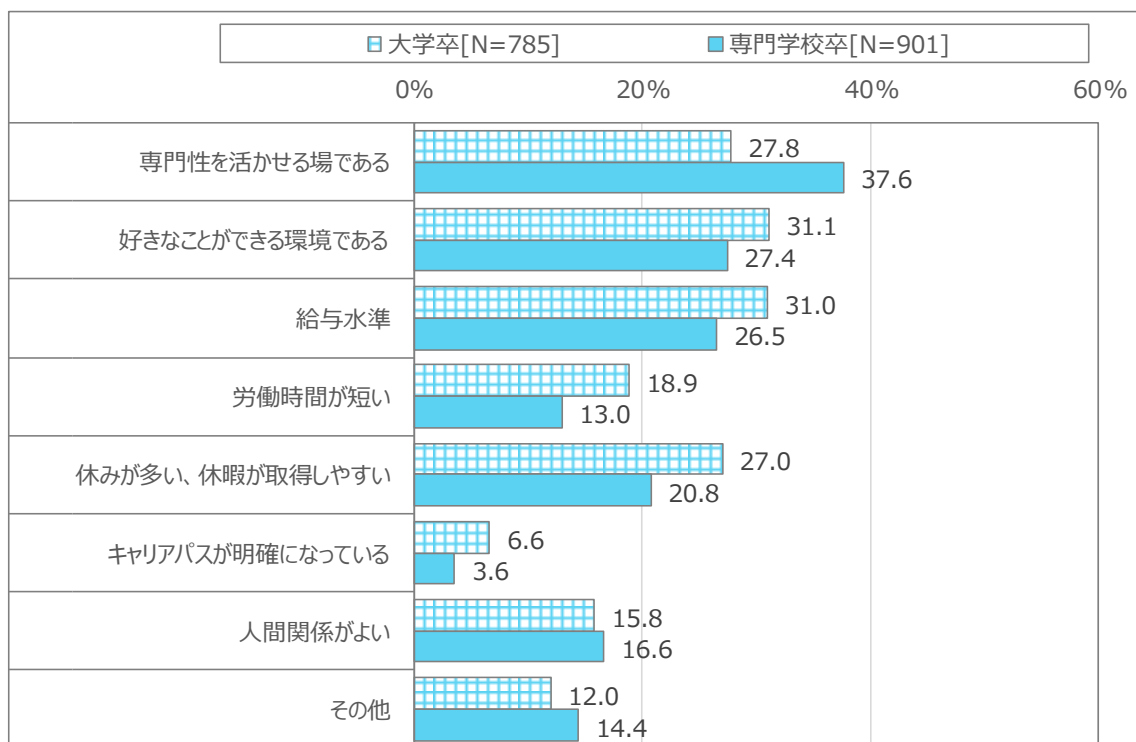


図 2-30 現在の勤務先の決定理由（最終学歴別）

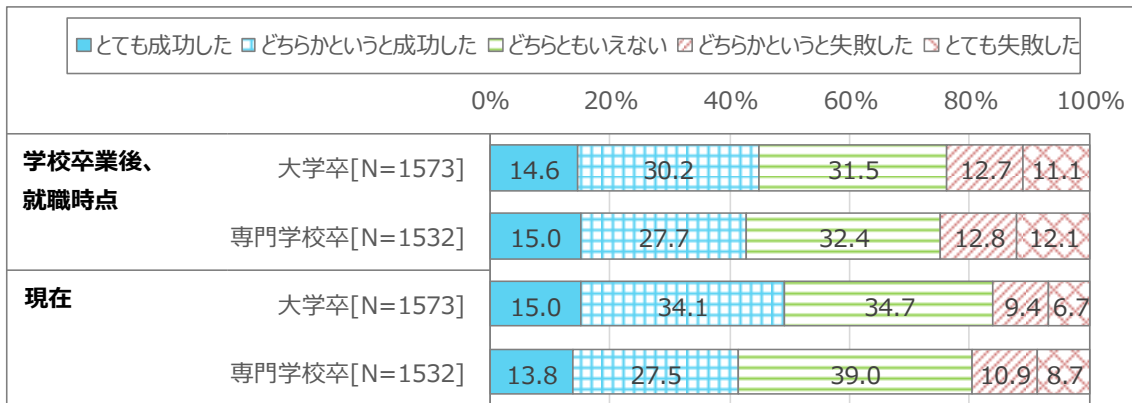


図 2-31 就職時点と現在での進学先選択状況（最終学歴別）

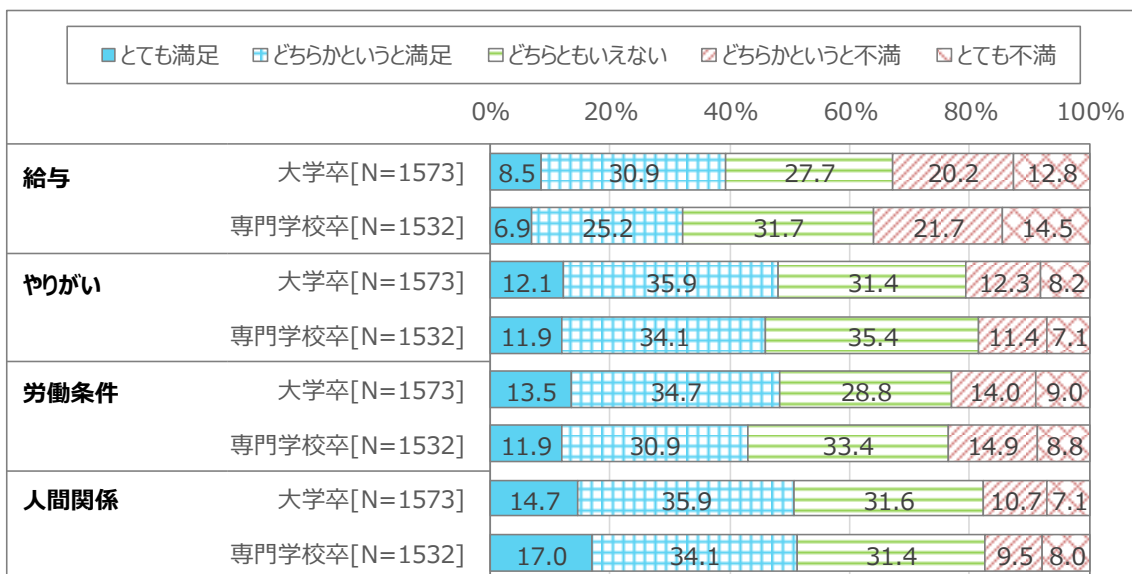


図 2-32 現在の勤務先の満足度（最終学歴別）

(7) 専門学校の魅力等

- 専門学校卒の 51.9%が「大学に進学すればよかった」と思うことがある、と回答した。回答した方の理由としては、大卒者との処遇の差や他職種への転職を挙げる方が多かった。
- 専門学校の魅力について、専門学校卒業者の回答は「専門性が身につく」「好きなことを集中的に学修できる」「資格が取得できる」の順で多かった。
- 専門学校の特徴を判断するために発信すべき情報について、専門学校卒業者の回答は「就職率」「資格取得率」「就職先（企業名や分野など）」の順で多かった。
- 専門学校の魅力を発信すべき対象者については、専門学校卒業生の 81.3%が「高校生」と回答した。
- 専門学校卒業者が高校等在学時に発信してほしかった専門学校に関する情報については、「実習内容」「就職先（企業名や分野など）」「就職率」の順で回答が多かった。

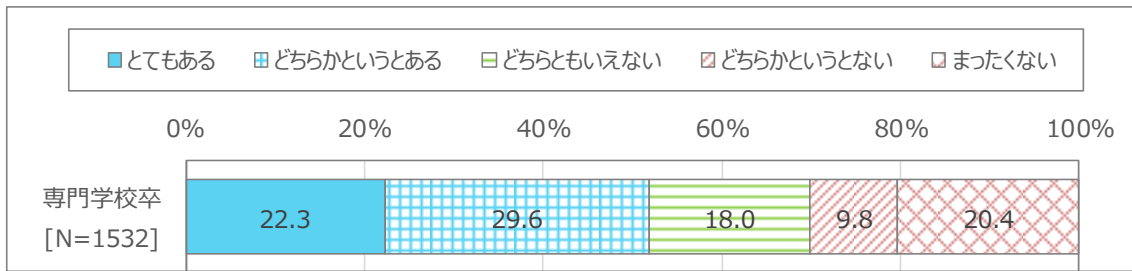


図 2-33 大学に進学すればよかったと思うこと（専門学校卒）

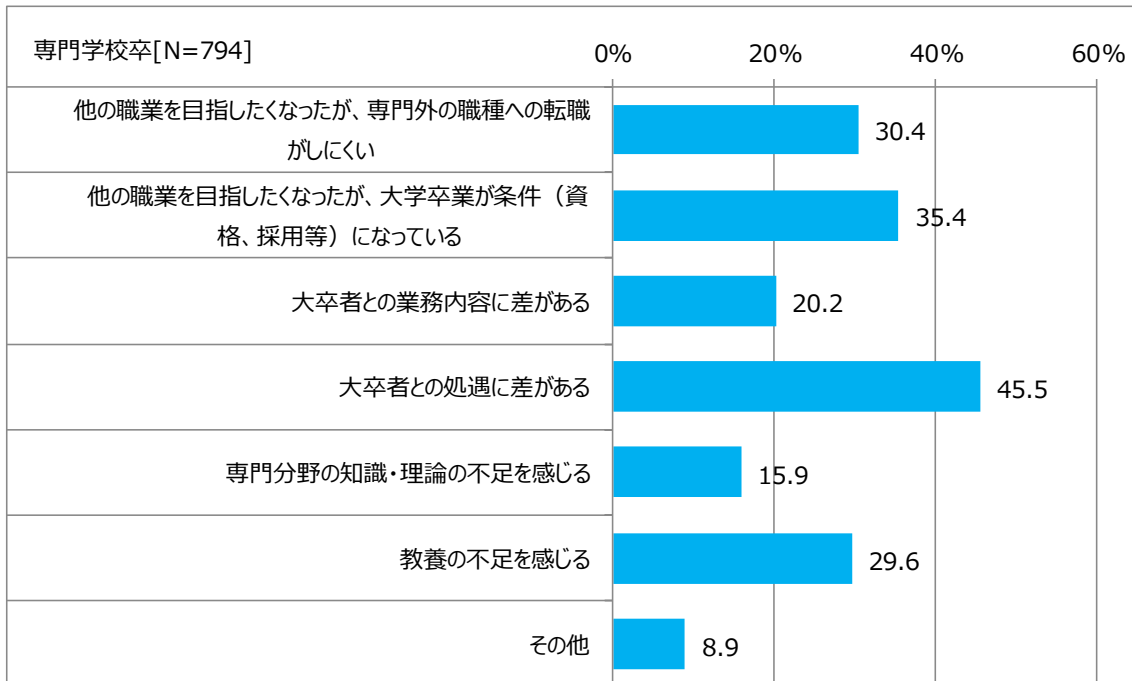


図 2-34 大学に進学すればよかったと思うとき（専門学校卒）

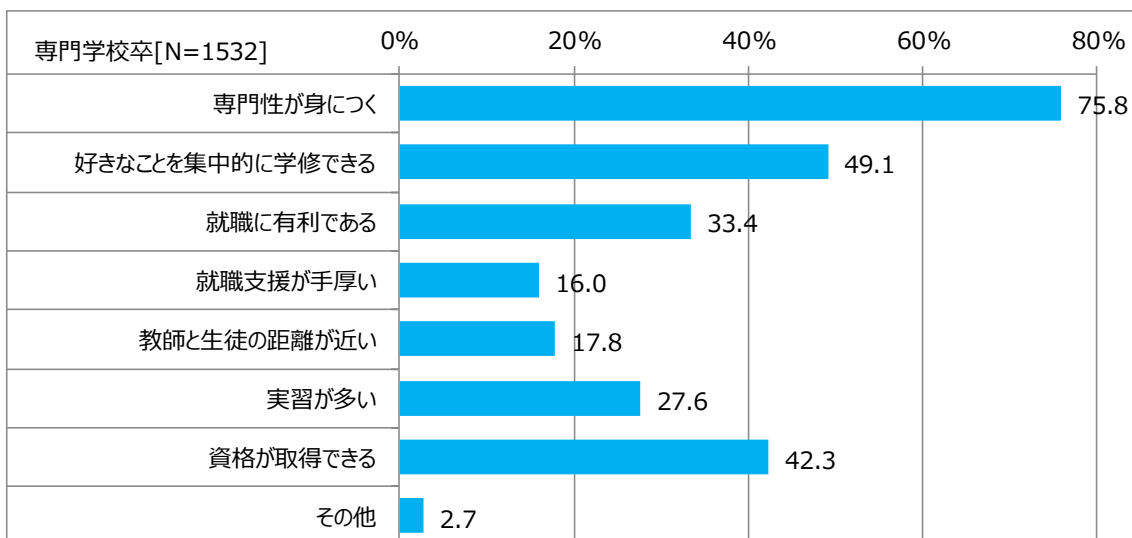


図 2-35 専門学校の魅力（専門学校卒）

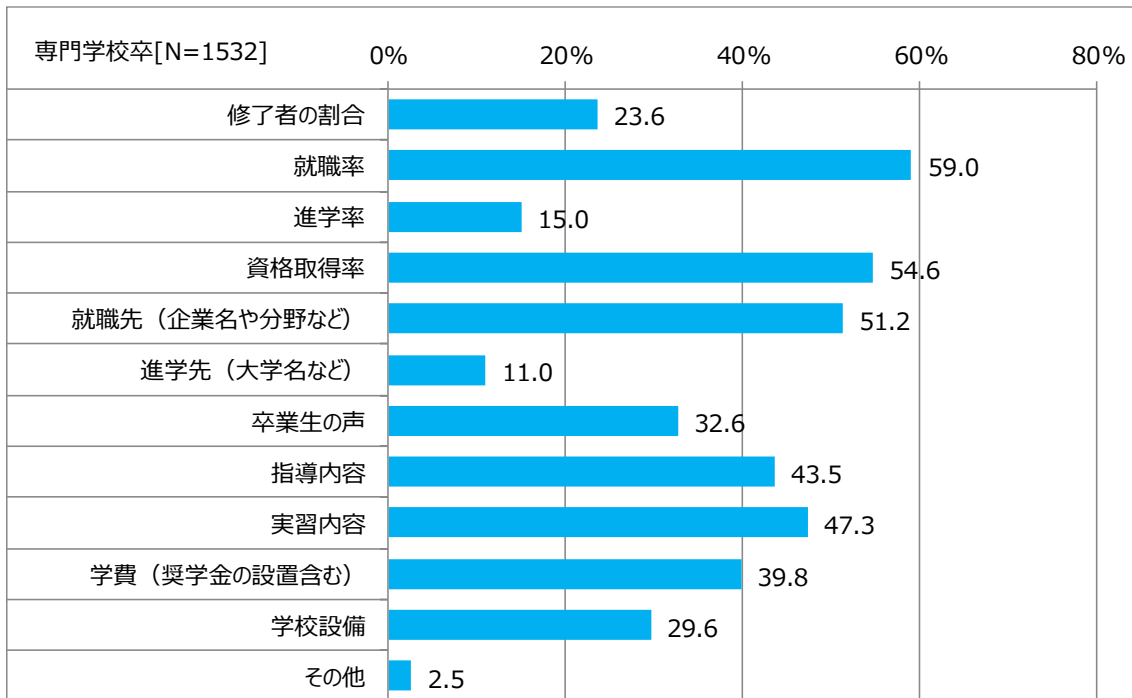


図 2-36 専門学校各校の特徴を判断するために必要な情報（専門学校卒）

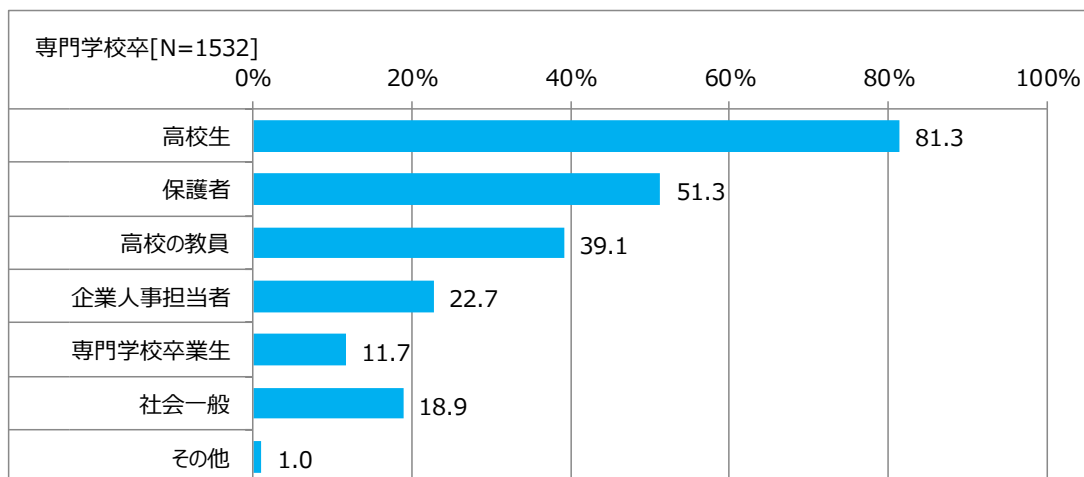


図 2-37 専門学校の魅力として発信すべき情報の対象者（専門学校卒）

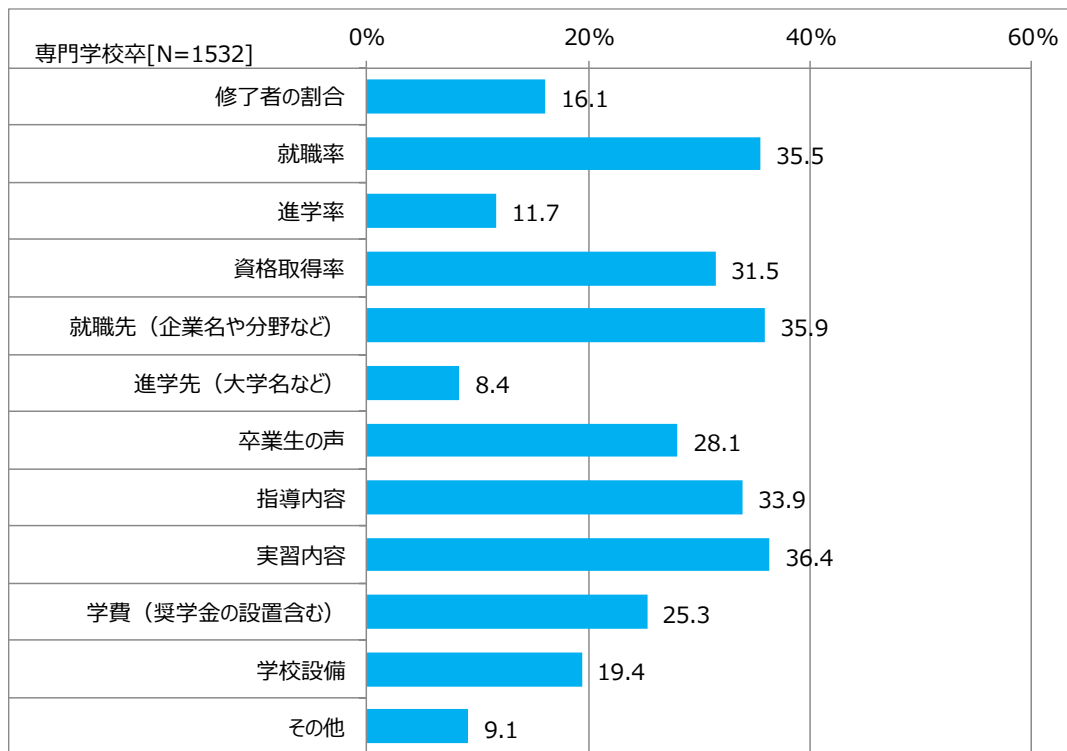


図 2-38 高校等在学時に発信してほしかった専門学校に関する情報（専門学校卒）

2.2 卒業生グループインタビュー調査

2.1 に示した卒業生アンケート調査に加えて、広報ツール・事例集等の開発、及び今後の情報発信方法の検討を行うにあたり参考となる定性的な情報収集を行うために、卒業生へのインタビュー調査を実施した。

インタビュー調査は個人間の違いと学校・分野間の違いを区別して分析するために、学校単位のグループインタビュー形式で実施した。

2.2.1 調査概要

実施したグループインタビューを表 2-1 に示す。

表 2-1 グループインタビュー実施一覧

実施日	訪問学校	対応人数	対応者の卒業学科と現在の職業
平成 30 年 2 月 2 日	学校法人西野学園 札幌リハビリテーション専門学校	9 名 ・先生 2 名 (同校卒業) ・卒業生 7 名	・作業療法士学科 ・理学療法士学科
平成 30 年 2 月 11 日	学校法人滋慶学園 東京メディカル・スポーツ専門学校	4 名 ・卒業生	・理学療法士科
平成 30 年 3 月 3 日	学校法人鶴学園 広島工業大学専門学校	5 名 ・卒業生	・IT スペシャリスト学科 ・電気工学科 ・機械工学科 ・建築士専攻科 ・土木工学科
平成 30 年 3 月 4 日	学校法人富山国際職藝学園 職藝学院	10 名 ・卒業生	・建築職藝科 (建築コース (建築大工)、家具・建具コース) ・環境職藝科 (造園・ガーデニングコース)

インタビュー項目は以下である。

- インタビューをさせていただき卒業生自身について
 - ✓ 卒業生のプロフィール
 - ✓ 年齢、キャリア (勤務年数)
 - ✓ 現在の就職先及び業務内容
- 進路選択について
 - ✓ 高校時代の進路希望

(高校入学時、高校 2 年 4 月、高校 3 年 4 月、高校 3 年 12 月)

- ✓ 専修学校進学を決定した理由、きっかけ、大学との比較
 - ✓ 卒業学校を選択した理由
 - ✓ 進路選択時に利用した媒体について
- 専修学校の魅力アピールについて
 - ✓ 卒業生から見た専修学校の魅力
 - ✓ 専修学校在籍時の印象に残った授業
 - ✓ 卒業生から見て、現在の魅力アピールに足りない部分

インタビュー結果と得られた示唆を以降に示す。

2.2.2 調査結果

(1) 進路選択について

1) きっかけ・タイミング

高校入学段階から職業を意識していた場合もあれば、高校 2 年生から考え始めた場合もある。職業高校からの延長で進学する場合もあれば、そこから進路転換を図る例もある。職業を決めた上で、そこに至る道筋として専門学校への進学を考えたという意見は多い。

理学療法士については、自身のけがや、テレビ番組で当該職業を知ったことがきっかけとなったとの意見があった。建築・造園分野では、専門学校・大学・大学院卒業時に、将来のキャリアや進路を改めて考えて専門学校に進学した例もあった。

- 進路について、高校入学段階から職業を意識していた。
- 高校 2 年生まで漠然と大学進学を考えていて方針転換した。
- 高校 2 年生後半～高校 3 年の初め頃から進路として職業を意識した。
- 工業高校の電気科から電気工学科へ、工業高校の建築学科から建築士専攻科へ、農業高校から実習で興味を持って機械工学科へとそれぞれ進学した。
- 高校までの延長ではなく、社会的動向を考えて情報スペシャリスト学科を選択した。
- 自身の経験（けが等）、テレビ番組の影響などが明確なきっかけとなった。
- 高校を卒業してすぐに就職は考えていなかったが、将来の職業を目指すためには大学より専門学校の方が適していると考えた。
- 就きたい職業が明確であれば大学よりも専門学校が良いと高校の先生にアドバイスを受けた。
- 就きたい職業を決めた結果、専門学校への進学に決めた。
- 大学生で就職活動をしていた際に、望む職業に就くには技術だと感じて専門学校への進学を決めた。

2) 影響を与える人

進路決定に際して、保護者、高校教員が肯定的あるいは否定的な影響を与えている。親戚や知り合いの紹介まで拡大して、応援してくれる人、関連の職業経験がある人を見つけながら、否定的な人を説得していく、というプロセスもあった。また、特徴的な教育を実施し、類似の学校がない場合には、高校教員が個別の学校を薦めている例もあった。

- 家庭の事情で進学が難しく、就職予定で、高校教員も進路変更に否定的だったが、親戚にも相談しつつ、説得して専門学校に進学した。
- 親や親戚が関連した職業に就いていた。
- 兄弟が通っていたため、興味を持った。
- 高校教員に「とりあえず、ではなく具体的な職業一本で考えているのであれば、大学よりも専門学校が良い」というアドバイスをされた。
- 分野の希望を話したら、高校教員が学校を薦めてくれた。
- 高校教員が応援してくれ、一緒に調べてくれた。
- 実家の事業との関係で土木工学科に進んだ。
- 就職活動中に、企業から学校を紹介された。

3) 学校選択

職種に対する志望度が学校選定時に見る情報に影響している可能性がある。類似分野の学校が複数ある場合、「なりたい職業」が先に決まっていた卒業生については、学校の授業内容や実習期間等の情報を比較検討する、という意見が複数名より得られた。一方で、「専修学校への進学」が先に決まっていた卒業生からは、「学校の雰囲気や先生・先輩の印象」を考慮した、という意見が出た。また、学校選択の際に考慮する要素として、「学生間の仲の良さ（含むオープンキャンパス参加者同士）」、「訪問した際の先生の話しやすさ・対応」、「通学時間」を考慮するケースもあった。さらに、選択に際して、授業料には差があり、それによって研修を重視しているか、教科書等の費用が含まれているか、などが違うので確認すべきとの意見があった。特徴的な教育を実施している場合には、類似分野の他校との比較はせずに決めたという例もあった。

- 「なりたい職業」が先に決まっていたので、学校の授業内容や実習期間等の情報を比較検討した。
- 専修学校への進学を先に決まっていて、学校の雰囲気や先生・先輩の印象を考慮要素とした。
- 地元には希望する分野の学校がなかったので県外に進学した。
- 希望する資格を取得できる学校を選択した。
- 学校推薦があった。
- 友人が進学していた。
- 希望する分野に関する技術を学べる学校は他になかった。

4) 進路決定に活用した媒体

専門学校一覧等を見て学校を知り、各学校の Web サイトを見て資料請求し、オープンキ

キャンパスに参加して決定するという流れが見られる。オープンキャンパスはいくつも行って比較検討するというよりも、希望する学校のものに参加して最終決定するという意見が見られる。また、遠方の場合はいくつも参加することは難しい。

さらに、オープンキャンパスについては最終決定に重要だったという意見と、確認程度の意味であるとの意見があり、志望動機、あるいはオープンキャンパスの内容の違いが影響を与えている可能性がある。高校からの直接入学ではない場合には、広く Web サイトで当該分野の学校を検索し、比較検討したという例もあった。

- Web サイトや冊子で学校の候補を絞り込み、資料請求し、オープンキャンパスで決めた。
- 卒業後 1 年目の世代だが、専修学校への進学段階では、紙パンフレットとオープンキャンパスが情報収集の中心であった。スマートフォンは在学中以後、メインで活用するようになった。
- 学校の Web サイト、専門学校を一覧した資料、進路指導の教員、オープンキャンパス、学校推薦など。
- 事前に情報誌や他の情報収集で絞り込みを行った上で、オープンキャンパスの訪問先を決めた。
- オープンキャンパスは 3・4 件訪問した。
- 遠方からの進学だったのでオープンキャンパスへの参加が困難だった。
- オープンキャンパスには行かなかった。
- 学校選択時に比較サイト、評判サイトの利用経験はない。ネガティブな意見が多く、学校選択の参考にはならないのではないか。
- Web サイトで当該分野の学校を検索し、学校の Web サイトを見た。

(2) 専修学校の魅力アピールについて

大学との比較で、専門学校は、座学より実習が多い、学力より実践重視、カリキュラムの自由度はない、クラスがあって同級生や教員との関係が密であるという意見があった。良い悪いというよりも、そちらに向いている人がいるということであり、そこをアピールしていけば良いという意見が多かった。

既存の専門学校の情報発信に対する明確なニーズや不満はあまり聞かれなかったが、高校の先生などに知られておらず学校を知るまでに時間がかかった、学校により実習による技術修得の重視、資格取得重視などの特徴があるのに、その差が外からは見えにくいなどの意見もあった。

1) 魅力アピールについて

- 教員との距離の近さ、生徒へのフォローの細かさ、個別カリキュラムの自由度の低さなど、大学と比較して高校に似ている印象を受けた。そのような環境の方が向いている学生もいると思う。
- カリキュラムが自由ではなく決められているので、職業に就くための内容を無駄なく学ぶことができる。
- 自己管理できていれば自由に学べる大学だが、全員がそうではないのではないか。

- 職場で専修学校での実技実習の経験は生かされているが、レポート作成能力では大学出身者との差がある。大学は研究を行うが、専門学校は研究を行わず、臨床に強い。そもそも大学と専門学校は重点が異なるので、レポートを書かない・研究をしないという点も含めてアピールした方が選びやすいのではないか。
- 卒業してからの同じ職種に就いているので集まって情報交換できる関係が続いていることがメリットである。
- グループで取り組む実習が良い経験になった。
- 個人で取り組む製図の実習が良かった。
- 試験、実験などの実習が就職しても役に立っている。
- 授業が実践的で役に立つ。
- 座学より実習が多いことが魅力で、手を動かして覚えられる。
- 魅力は実習であり、その点で大学と差別化した方が良い。実習の経験が就職してスタートから生きる。大学で得た学力は職業において直ちに使うものではない。

2) 情報発信について

- どのような授業かは入って見ないとわからないので、動画サイトで授業の風景を発信すると良いのではないか。
- 特徴あるよい学校なのに、高校教員にも、社会的にも知られていない。より広域の高校への広報が必要ではないか。
- 学校の Web サイトやパンフレットを見ても実習の時間数やカリキュラムの特徴などがわからない学校があり、オープンキャンパスで直接話を聞かないと、比較検討ができなかった。

2.3 既存調査を活用した情報発信上の課題に関する調査

2.3.1 調査概要

(1) 調査目的

効果的な情報発信の方法を検討する上で、どのような情報をどのように発信するのか、すなわち、発信する情報の内容と、発信する情報の方法を検討する必要がある。2.1 節では卒業生へのアンケート調査の結果を示したが、高校生の進路選択やその決定プロセスには、進路選択をする本人以外にも、本人をとりまく様々な環境が影響を及ぼしていると考えられる。

そこで、本調査では、高校生をとりまく各ステークホルダーを対象として過去に実施されている調査を整理・再分析することで、専門学校に関する情報発信上の実態・課題や、専門学校の魅力を明らかにし、今後発信する情報の内容・方法の検討に活用する。

(2) 調査方法

高校生をとりまくステークホルダーとして、以下のような機関・人物を想定し、過去に実施されている調査結果の整理・再分析を行う。データとしては、文部科学省『『職業実践専門課程』の実態等に関する調査研究』で実施した高等教員、在学生（社会人学生）、専修学校アンケートの結果について再分析を行っているが、必要に応じてその他の調査データを参照、引用した。

- 高校生（意思決定者本人）
- 専修学校
- 高等学校教員
- 保護者
- 実習等において連携している企業（以下、連携企業）
- 専修学校在学生
- 専修学校卒業生

2.3.2 調査結果

(1) 情報発信上の実態・課題

1) 専修学校が発信している情報

本項目では、情報発信上の課題を整理する前提として、現在、専修学校がどのような情報を発信しているのかを把握した。

【専修学校調査】

- 専修学校がホームページで提供している情報について、「学校の教育・人材養成の目標及び教育指導計画、経営方針、特色」「学校の沿革、歴史」「入学者に関する受入れ方針・入試結果」「就職支援等への取組支援」「学校行事への取組状況」「学校行事・イベント情報」は、認定課程・非認定課程ともに 90%を超えており、積極的に発信されている。
- 認定有無別では、全般的に認定課程の方が多くの項目で相対的に高い結果となり、特に「事業報告書」「貸借対照表」「収支計算書」「監査報告書」といった財務・経営状況、「自己評価・学校関係者評価の結果」「評価結果を踏まえた改善方策」といった学校評価に関する情報提供状況で差が大きい。

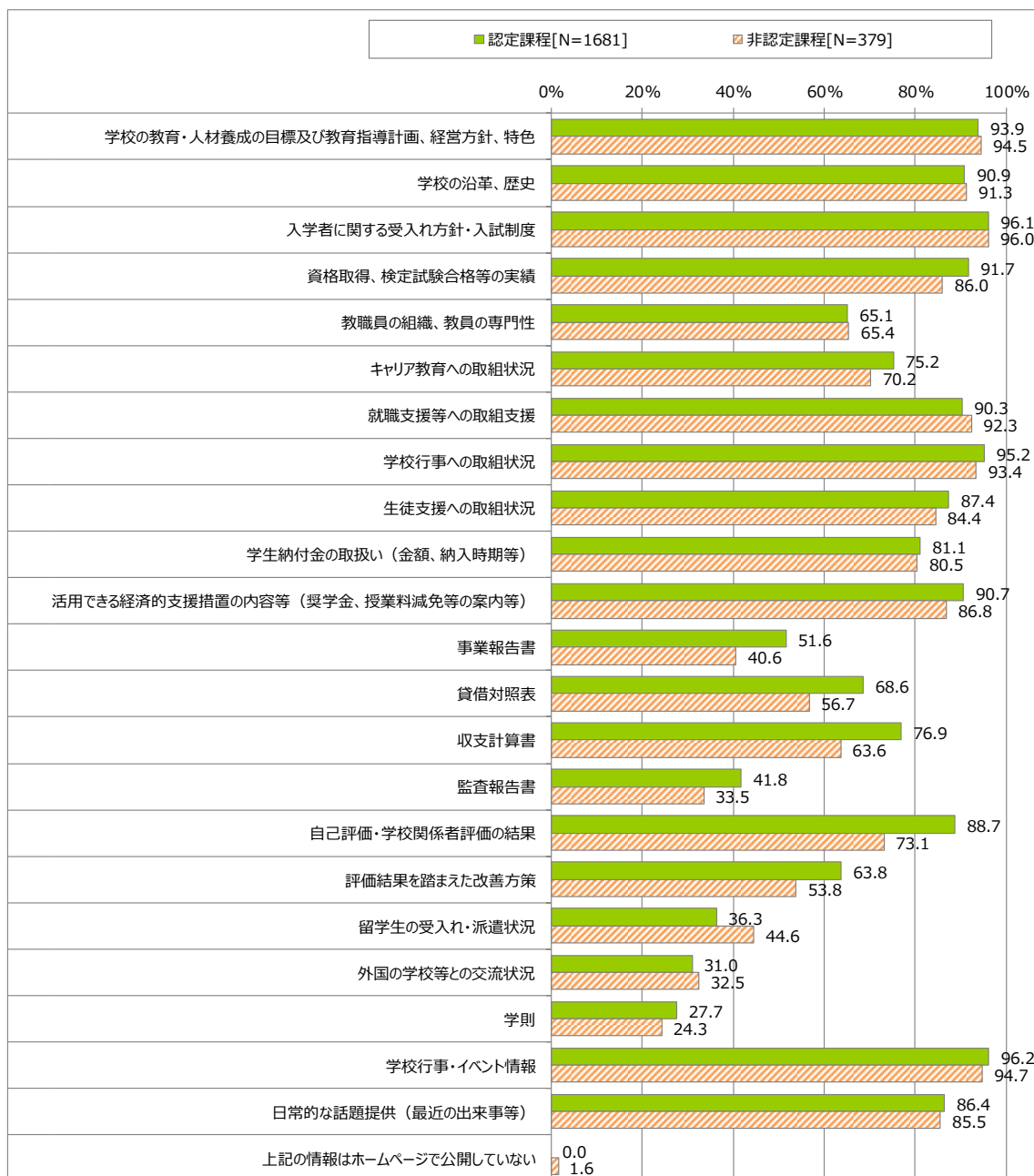


図 2-39 ホームページで提供している情報（複数選択）（認定有無別）【専修学校調査】

（出所）文部科学省『『職業実践専門課程』の実態等に関する調査研究』（平成 28 年度）を基に作成。

2) 専修学校が提供する情報への評価

前項目では、専修学校が提供している情報を把握した。本項目では、それに対し、高等学校教員がどのような評価をしているのかを把握した。

【高等学校教員調査】

- 専修学校が提供する情報について、「情報量」や「情報の種類」は多いものの、「情報の信頼性」への評価が相対的に低い。
- 専門学校が提供する情報が不十分と考える理由について、「基本的な情報がない」「教育内容等に関する情報がない」等、求めている情報がないことや、データの根拠やデータの統一性がないことが挙げられた。



図 2-40 情報への評価（各単数選択）及び専門学校が提供する情報が不十分と考える理由（自由回答）【高等学校教員調査】

（出所）文部科学省『『職業実践専門課程』の実態等に関する調査研究』中間報告資料（平成28年度）

3) 情報提供における課題・負担

前項目では、専修学校が提供する情報の量・質に対して、必ずしも全ての学校が評価しているという結果ではなかった。それを踏まえ、本項目では、専修学校が情報を提供する際、どのような点に課題・負担を感じているのかを把握した。

【専修学校調査】

- 専修学校によるホームページでの情報提供上の課題・負担として「高校生に魅力あるコンテンツの作成」「在學生に魅力あるコンテンツの作成」「企業に魅力あるコンテンツの作成」等、各ステークホルダーにとって魅力あるコンテンツを作成すること、「作成・運営費用負担」「教職員の対応時間の確保」等の情報発信そのものに割リソース不足、も課題として挙げられる。
- 「あてはまる」「ややあてはまる」に着目すると、各ステークホルダーに魅力のあるコンテンツを作成することや「作成・運用費用の負担」は、在校生数が「81人以上」よりも「80人以下」の学校の方が負担を感じている。
- 各ステークホルダーに魅力あるコンテンツの作成に関して、分野別では、全てのステークホルダーについて、教育・社会福祉関係、商業実務関係が、他分野よりも負担を感じている傾向が見られた。

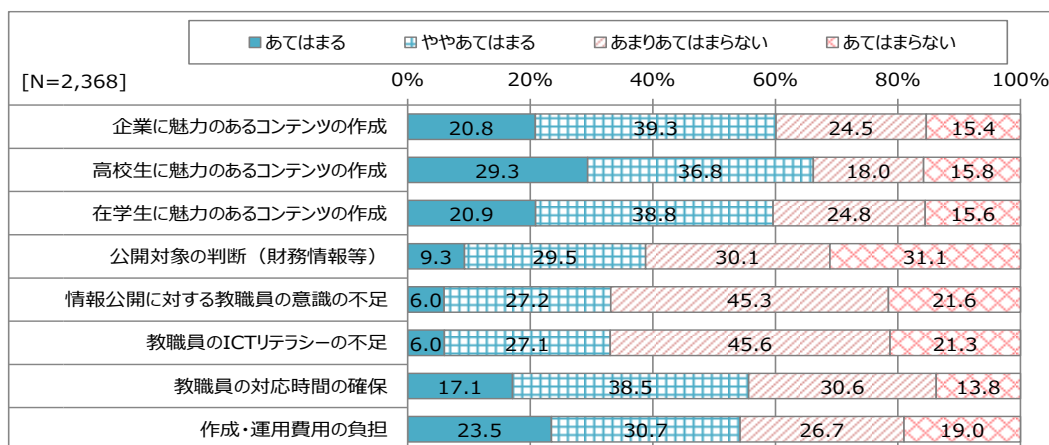


図 2-41 ホームページによる情報提供上の課題・負担（各単数選択）【専修学校調査】

(出所) 文部科学省『『職業実践専門課程』の実態等に関する調査研究』（平成 28 年度）

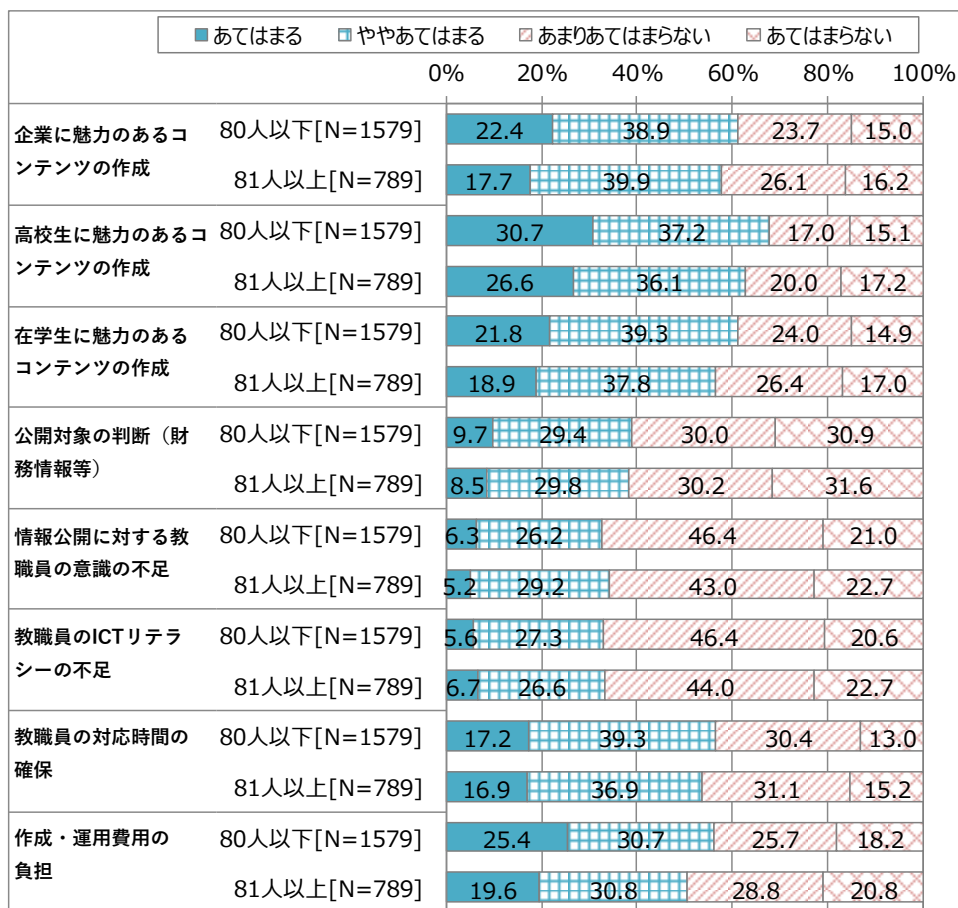


図 2-42 ホームページによる情報提供上の課題・負担（各単数選択）（在学生数別）【専修学校調査】

（出所）文部科学省『『職業実践専門課程』の実態等に関する調査研究』参考資料（平成28年度）

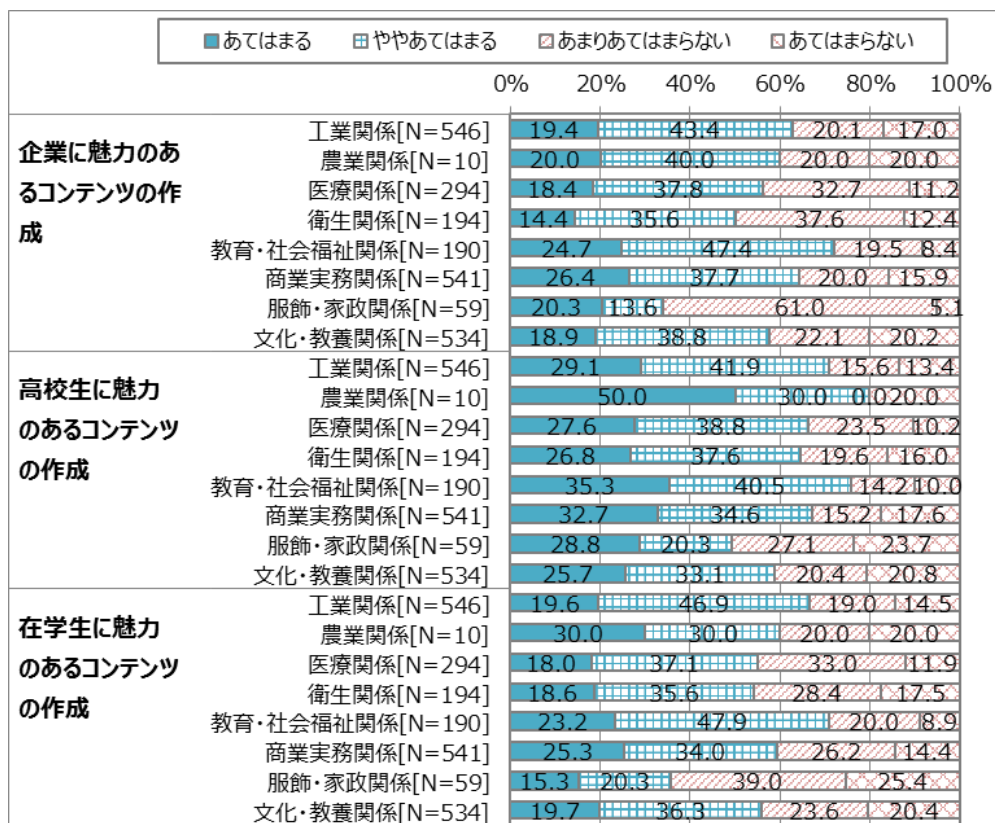


図 2-43 ホームページによる情報提供上の課題・負担（各単数選択）（分野別）【専修学校調査】

（出所）文部科学省『『職業実践専門課程』の実態等に関する調査研究』参考資料（平成 28 年度）

4) 「職業実践専門課程」の認知状況

専修学校の魅力を社会に発信するためには、専攻分野における実務に関する知識、技術及び技能について組織的な教育を実施している「職業実践専門課程」に関する情報発信も重要である。本項目では「職業実践専門課程」に関する情報発信状況を、主に情報の受け手側の立場から整理・把握した。

【高等学校教員調査】

- 高等学校における調査以前の認知状況は、「初めて聞いた」が51.4%である。
- 専修学校進学者数別では、「初めて聞いた」の割合は進学者数が多いほど小さくなるが、進学者数が「30名以上」の高等学校でも49.0%は「初めて聞いた」と回答している。
- 進学相談・指導において認定制度が役に立つかについては、「役に立つ」が32.9%、「やや役に立つ」が51.1%である。
- 専修学校進学者数別では、進学者数に関わらず「役に立つ」が30.0%である。

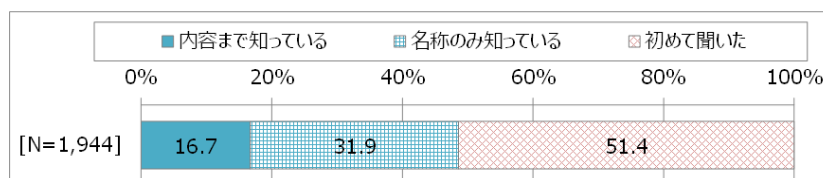


図 2-44 「職業実践専門課程」の認知状況（単数選択）【高等学校教員調査】

(出所) 文部科学省『「職業実践専門課程」の実態等に関する調査研究』（平成28年度）

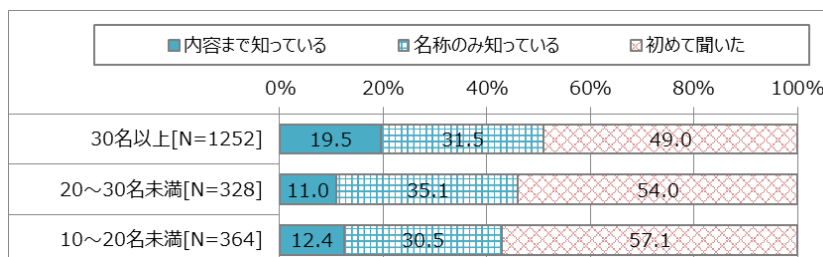


図 2-45 「職業実践専門課程」の認知状況（単数選択）
（専修学校進学者数別）【高等学校教員調査】

(出所) 文部科学省『「職業実践専門課程」の実態等に関する調査研究」参考資料（平成28年度）

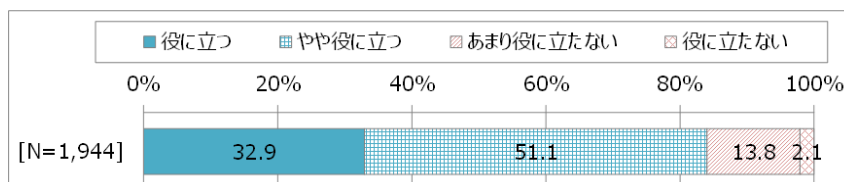


図 2-46 進学相談・指導における認定制度の有用度（単数選択）【高等学校教員調査】

(出所) 文部科学省『「職業実践専門課程」の実態等に関する調査研究』（平成28年度）

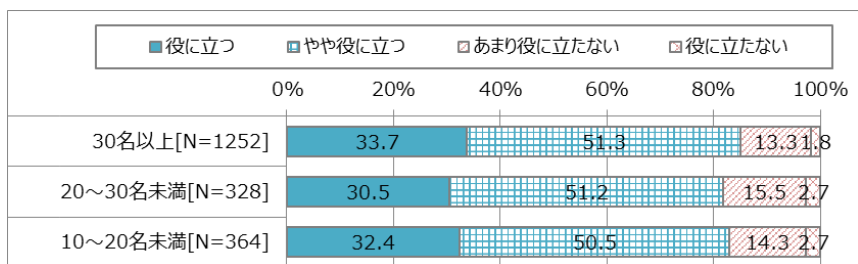


図 2-47 進学相談・指導における認定制度の有用度（単数選択）
（専修学校進学者数別）【高等学校教員調査】

（出所）文部科学省『『職業実践専門課程』の実態等に関する調査研究』参考資料（平成 28 年度）

【高等学校教員調査】

- 「職業実践専門課程」を知っている高校の認知機会として、「専門学校の教職員からの説明」「専門学校の案内資料」「自治体又は教育委員会からの連絡」が上位であった。
- 「職業実践専門課程」の認知機会として、「専門学校のウェブサイト」は 8.8%、「『職業実践専門課程』のウェブサイト」は 6.0%に留まった一方、「文部科学省ウェブサイト」は 14.1%であった。

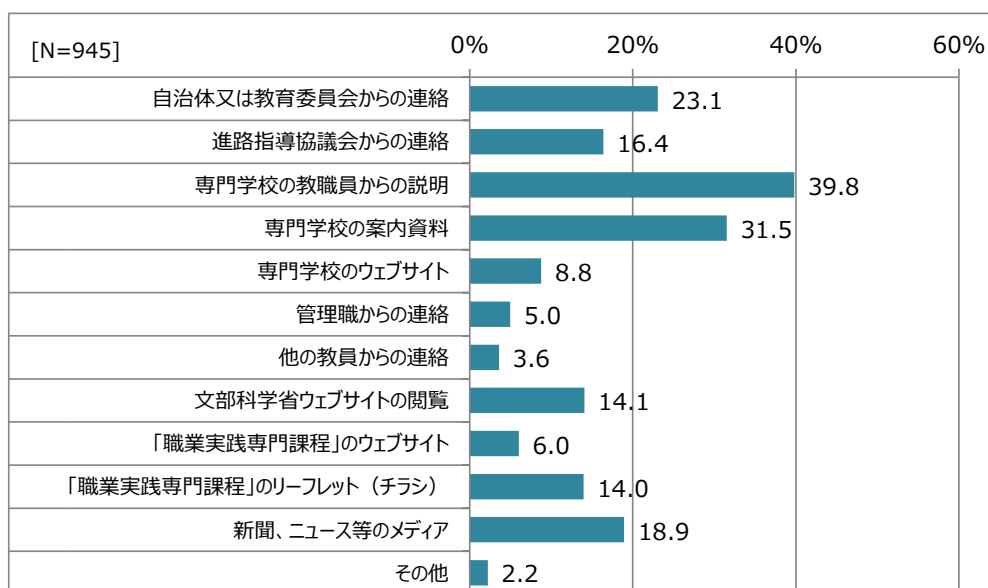


図 2-48 「職業実践専門課程」の認知機会（複数選択）【高等学校教員調査】

（出所）文部科学省『『職業実践専門課程』の実態等に関する調査研究』（平成 28 年度）

(2) 情報提供に関する各ステークホルダーからのニーズ

1) 専修学校に関する情報収集の方法

情報提供に関する各ステークホルダーからのニーズを把握する前提として、専修学校に関する情報をどのような媒体で収集しているのか、高等学校教員調査をもとに、本項目で把握した。

【高等学校教員調査】

- 高等学校における専門学校に関する情報収集における活用媒体は、「専門学校の案内資料」「専門学校の教職員からの説明」が上位であった。
- 一方、ウェブサイトでの情報収集をしている高等学校は、全体の 52.4%程度であった。

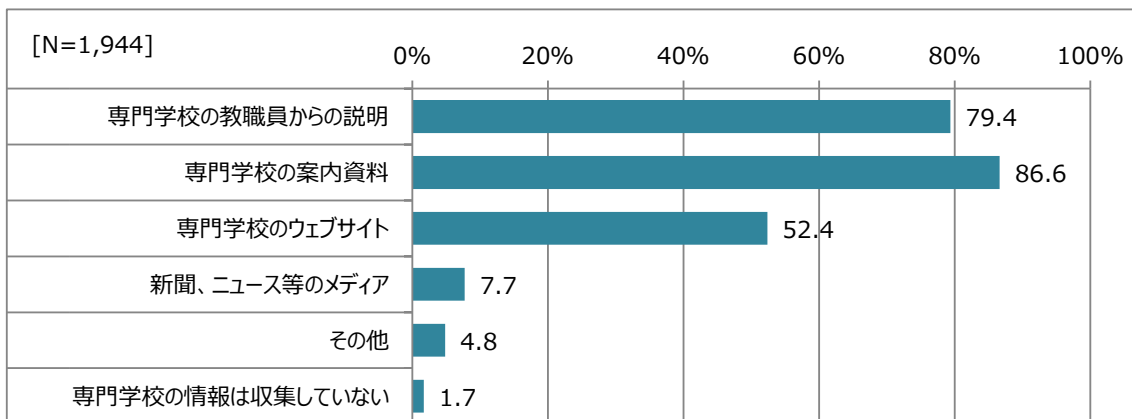


図 2-49 専門学校に関する情報収集における活用媒体（複数選択）【高等学校教員調査】

(出所) 文部科学省『『職業実践専門課程』の実態等に関する調査研究』（平成 28 年度）

2) 専門学校に関する高等学校教員のニーズ

本項目では、高校生の進路選択に大きな影響を与えていると考えられる高等学校教員のニーズを把握した。

【高等学校調査】

- 高等学校における進学相談・指導における専門学校への期待は、「就職実績」「資格・検定の取得実績」が上位であった。

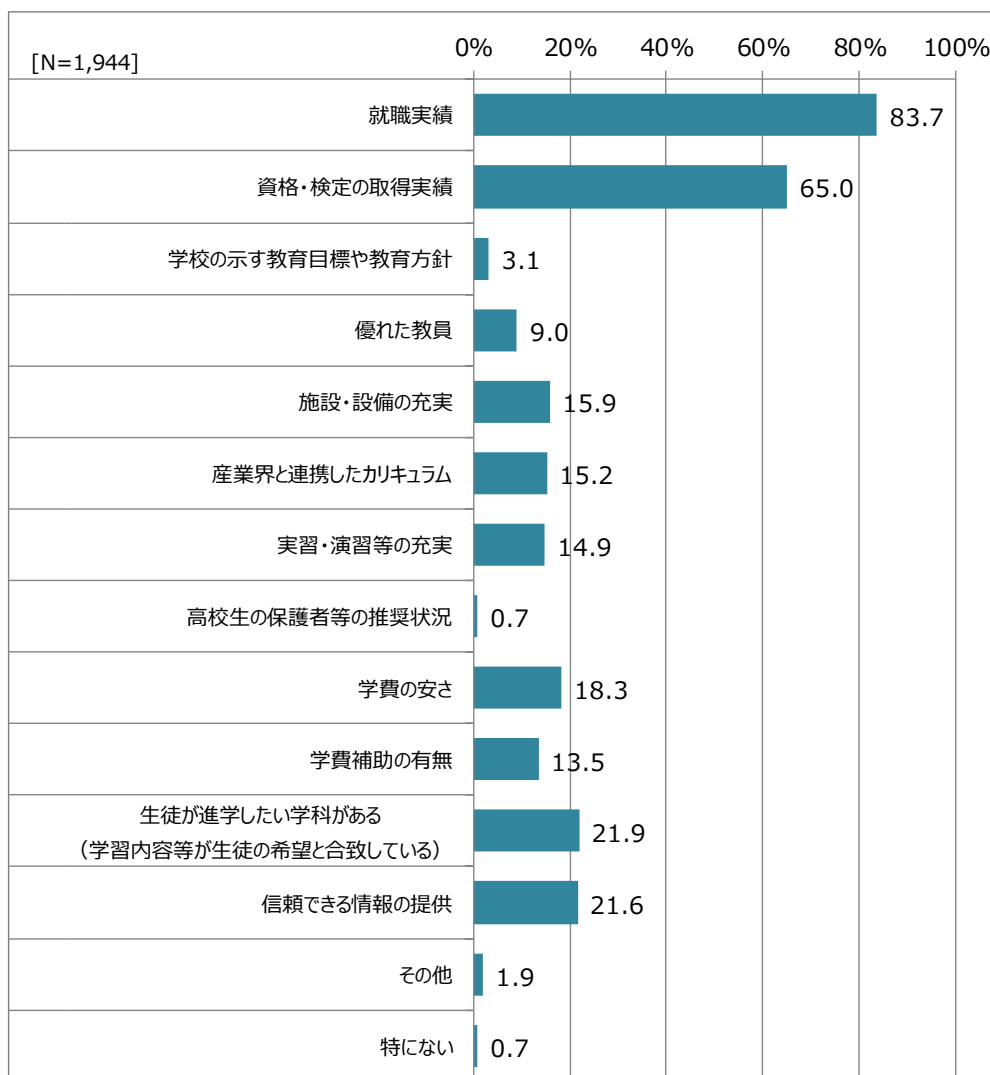


図 2-50 専門学校への進学相談・指導における専門学校への期待（複数選択：3つまで）【高等学校調査】

（出所）文部科学省『『職業実践専門課程』の実態等に関する調査研究』（平成 28 年度）

【高等学校教員調査】

- 高等学校教員が、専門学校への進学相談・指導時に不足していると感じている情報は、ウェブサイトを活用している高校のうち過半数が「就職支援等への取組支援」の情報が不足していると回答していた。
- しかしながら、図 2-39 で示したとおり、「就職支援等への取組支援」は、90%以上の専修学校がホームページで提供している。

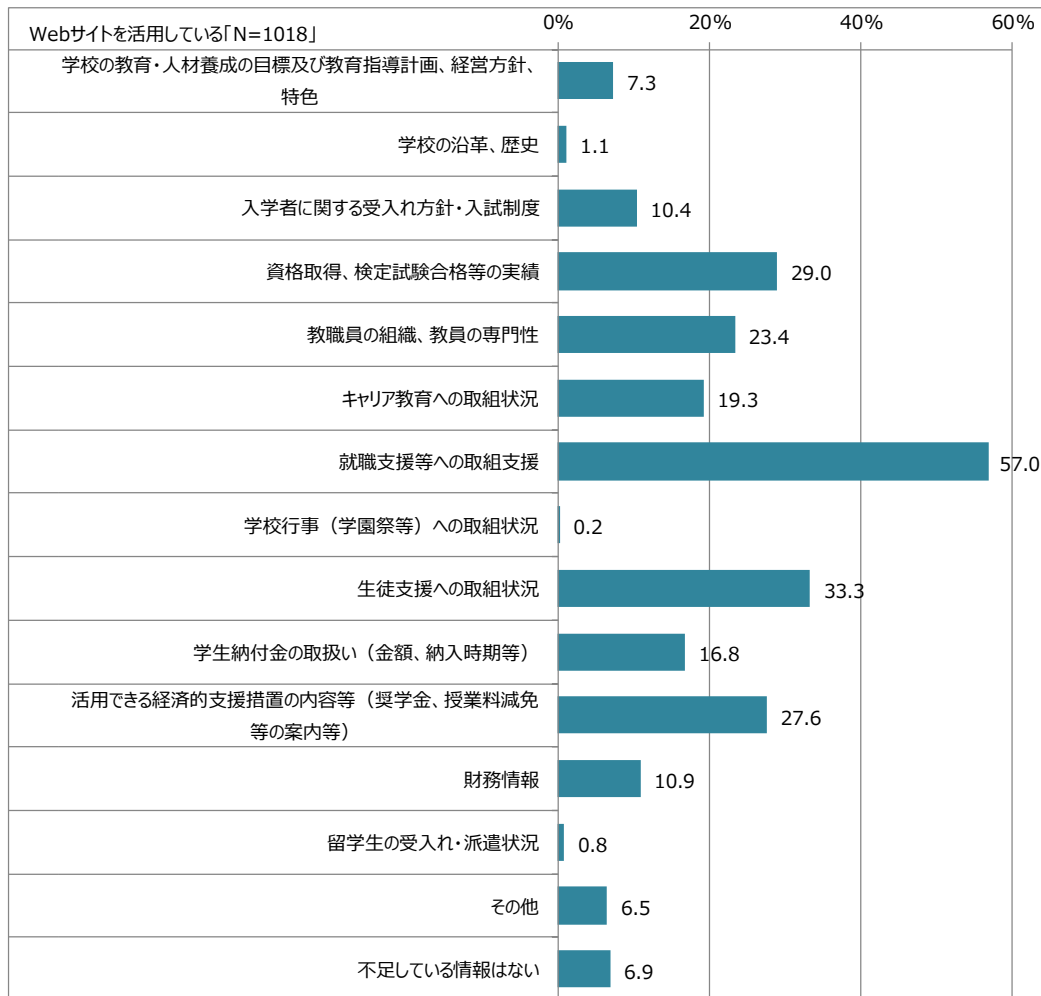


図 2-51 専門学校への進学相談・指導時に不足している情報（複数選択：3つまで）
（ウェブサイトで情報収集をしている高等学校のみ）【高等学校教員調査】

（出所）文部科学省『『職業実践専門課程』の実態等に関する調査研究』（平成 28 年度）を基に作成。

3) 専門学校に関する企業のニーズ

高校生が専門学校への進学を検討する上で、就職実績が重要な検討材料の一つであることがわかった(2.3.2 (2) 2))。高校生にアピールできるような就職実績を得るためには、企業への情報発信も非常に重要である。そこで、本項では企業が専門学校や行政に対して、どのようなニーズを持っているのかを把握した。

【連携企業調査】

- 企業が専門学校卒業生に期待する能力と実際の修得能力は、企業が「重視」している項目について「当てはまる」に着目すると、「専攻分野に直接関わる専門知識」よりも「相手の状況や考え方を考慮して話ができること」「報告、連絡、相談など仕事で求められるコミュニケーションができること」「人との関係を大切に、協調・協働して行動できること」等のコミュニケーションや協調性に関わる能力が重視されている。
- 一方、これらのコミュニケーションや協調性に関わる能力の「修得」に関して、「当てはまる」と回答した企業は、18.4%に留まっている。

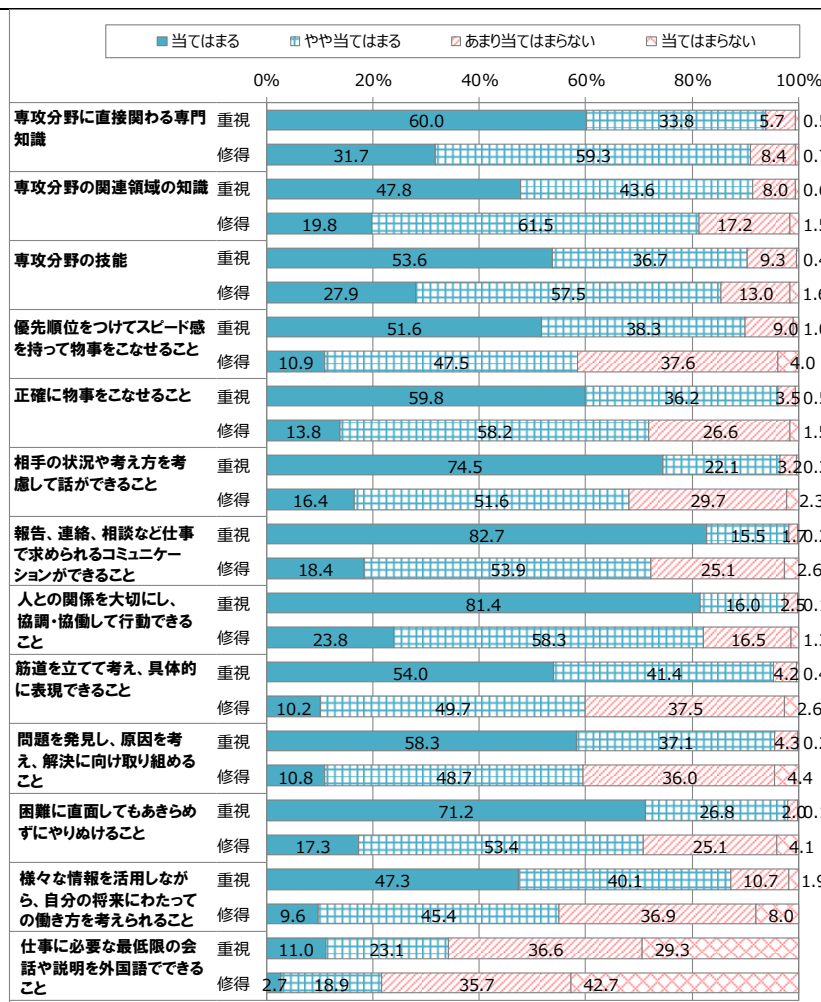


図 2-52 専門学校の卒業生に期待する能力等で重視するもの（各単数選択）、専門学校の卒業生が身につけていると思われる能力等（各単数選択）【連携企業調査】

(出所) 文部科学省『『職業実践専門課程』の実態等に関する調査研究』参考資料(平成27年度)を基に作成。

【連携企業調査】

- 企業が専門学校との連携を図るにあたって行政等に対する要望は、「『職業実践専門課程』の認知度向上」が63.5%、「連携企業への経済的支援」が47.7%であった。

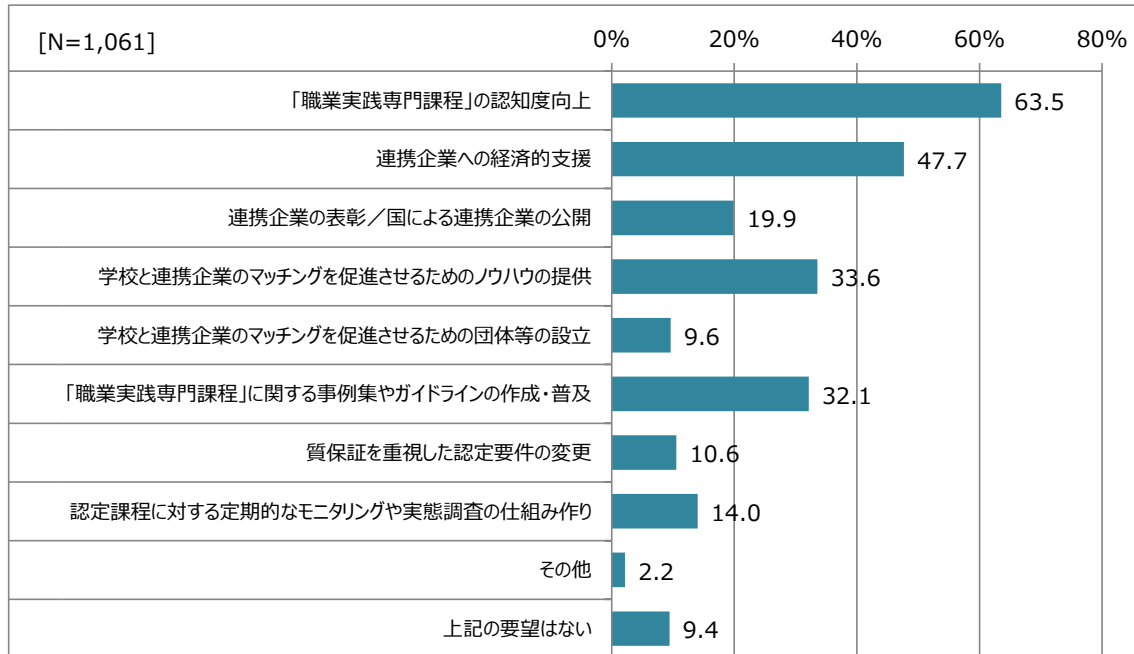


図 2-53 専門学校との連携を図るにあたっての行政等に対する要望（複数選択）【連携企業調査】

（出所）文部科学省「『職業実践専門課程』の実態等に関する調査研究」（平成27年度）を基に作成。

4) 専門学校に関する社会人学生のニーズ

昨今、専門学校に対する「社会人の学び直し」機能への期待が高まる中で、社会人学生のニーズを把握することも重要である。そこで、本項目では社会人学生のニーズを整理した。

【在学生調査】

- 学校・学科への改善要望（今よりも良くすべきだと思うこと）は、社会人学生とその他学生ともに、「働く上で必要となる能力等を明確に示す」「学科で学ぶ内容と実際に働くこととの結びつきについて理解できるように説明する」「学科の卒業生等、OB・OGとの交流の場を増やす」が上位である。
- 社会人学生の方が、その他学生に比べ、改善要望のある項目が多くなっている。

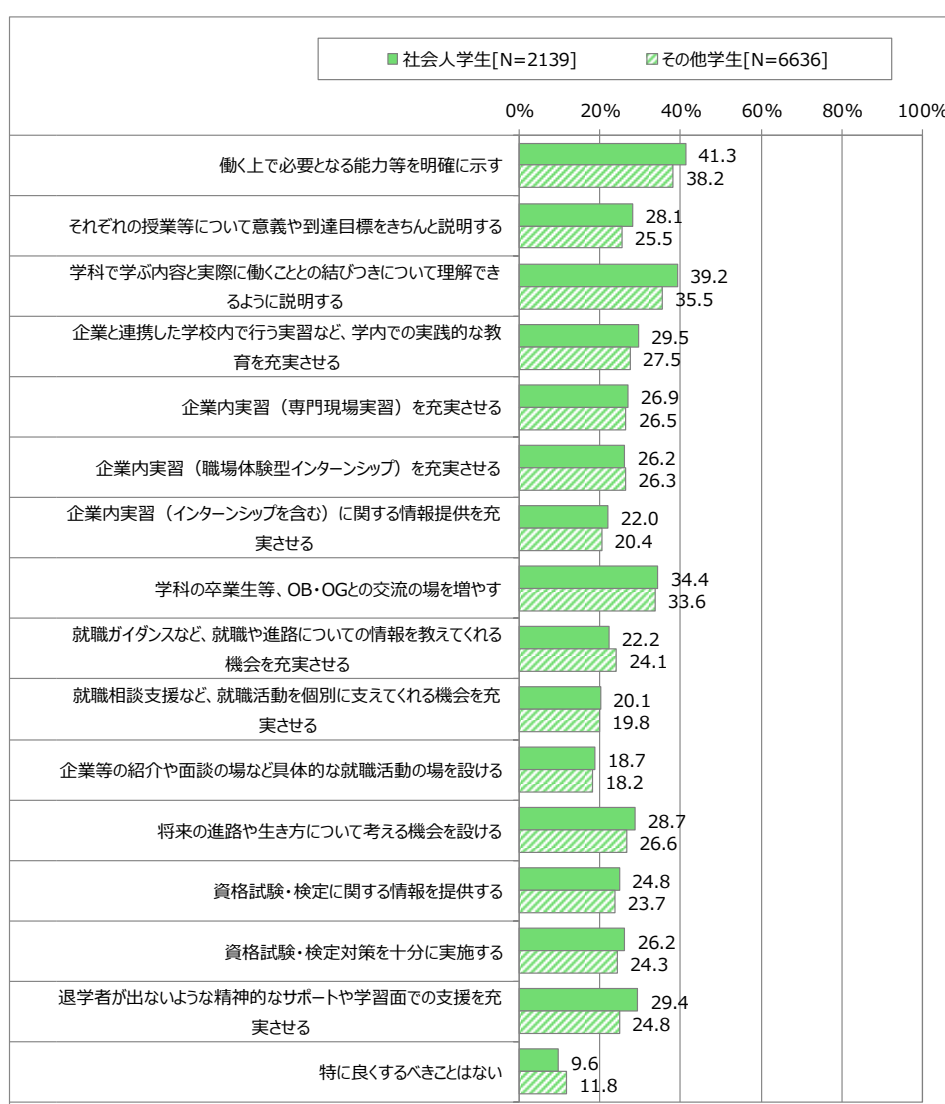


図 2-54 社会人学生の学校・学科への改善要望（今よりも良くすべきだと思うこと）（複数選択）（社会人学生とその他学生別）【在学生調査】

（出所）文部科学省『『職業実践専門課程』の実態等に関する調査研究』参考資料（平成 28 年度）

(3) 専門学校への進学に関する実態

1) 進路希望に関する実態

専門学校が進学先として選ばれるための情報提供方法を検討する際の前提として、高校生やその保護者が、現状、どのような進学先を希望しているのかを整理した。

【在学生調査】

- 高校生の進路希望の変化について、「私立大学」は男女ともに「受験予定」を「高校1～2年時の希望」が上回っており、「専門学校」を含むその他の学校では、「受験予定」を「高校1～2年時の希望」が下回っている。
- 「高校1～2年時の希望」「受験予定」「第一志望」として「専門学校」を選択している割合は、全て女子の方が高い。

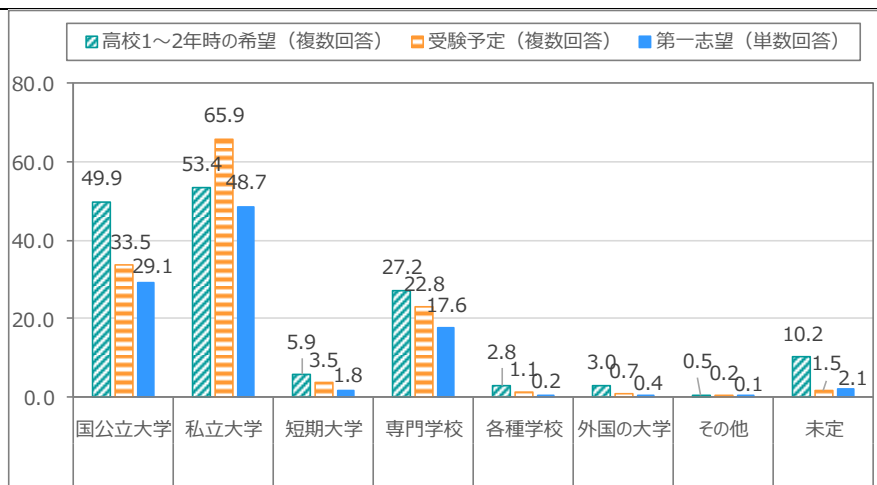


図 2-55 希望する進学先 (男子) (高校3年時の調査、無回答を除く)

(出所) 東京大学大学院教育学研究科大学経営・政策研究センター「高校生の進路追跡調査 第1次報告書」(平成19年)を基に作成。

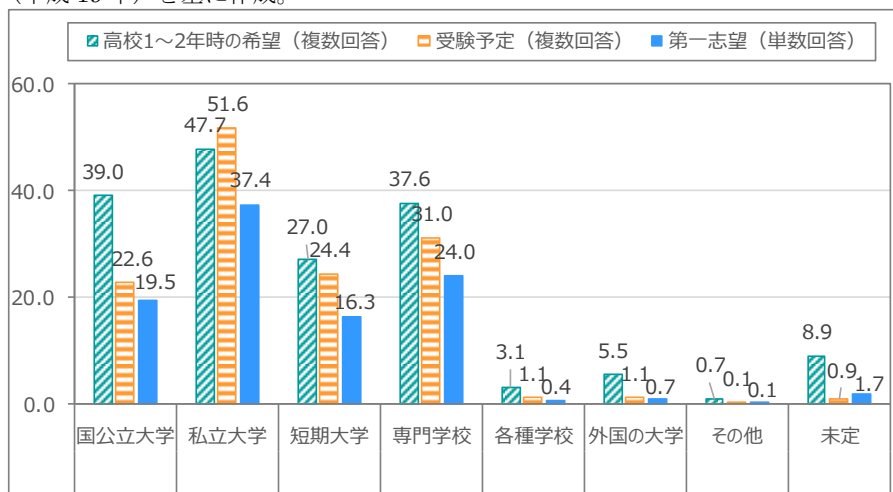


図 2-56 希望する進学先 (女子) (高校3年時の調査、無回答を除く)

(出所) 東京大学大学院教育学研究科大学経営・政策研究センター「高校生の進路追跡調査 第1次報告書」(平成19年)を基に作成。

【保護者調査】

- 高校生の保護者が希望する高校卒業後の進路として「専門学校」を希望する保護者は、「子どもが女子」の方が多かった。
- 「子どもが男子」の場合、「専門学校」は「大学（文系）」「大学（理系）」に次いで3番目に多く、「子どもが女子」の場合、「専門学校」は「大学（文系）」に次いで2番目に多かった。
- 学校の設置者・通学方法では、子どもの性別に関わらず「国公立（自宅）」「私立（自宅）」「国公立（自宅外）」「私立（自宅外）」の順に多かったが、「子どもが女子」の場合は、「国公立（自宅）」と「私立（自宅）」、また「国公立（自宅外）」と「私立（自宅外）」間の差が、あまり見られなかった。

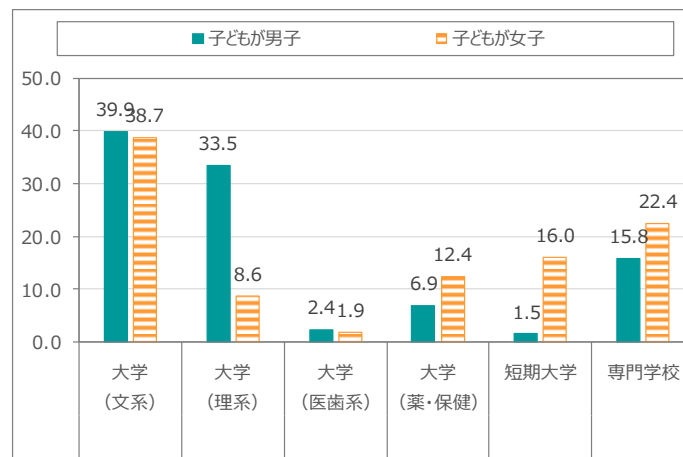


図 2-57 保護者の希望する学校の種類及び通学方法（学校の種類）（無回答を除く）

（出所）東京大学大学院教育学研究科大学経営・政策研究センター「高校生の進路追跡調査 第1次報告書」（平成19年）を基に作成。

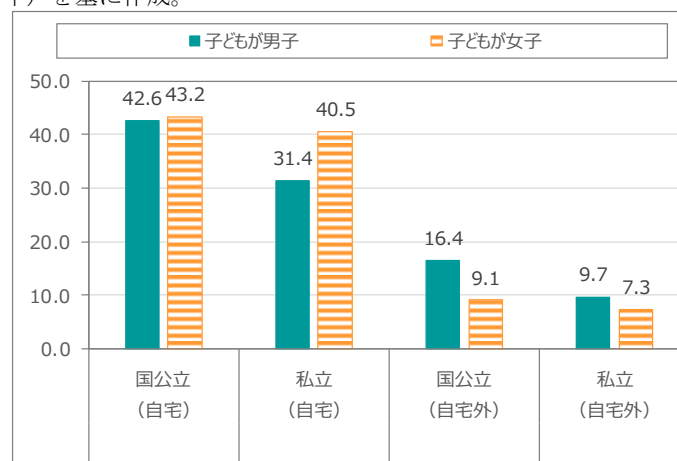


図 2-58 保護者の希望する学校の種類及び通学方法（学校の設置者・通学方法）（無回答を除く）

（出所）東京大学大学院教育学研究科大学経営・政策研究センター「高校生の進路追跡調査 第1次報告書」（平成19年）を基に作成。

【高校生調査】

- 進路についての満足度について、一般に、進学した方が満足度が高く、「専門学校」「短期大学」「4年制大学」の全ての進路において、「非常に満足している」「やや満足している」の合計値の割合は80.0%を超えている。
- その中でも「専門学校」は、「非常に満足している」「やや満足している」の合計値の割合が最も高い。

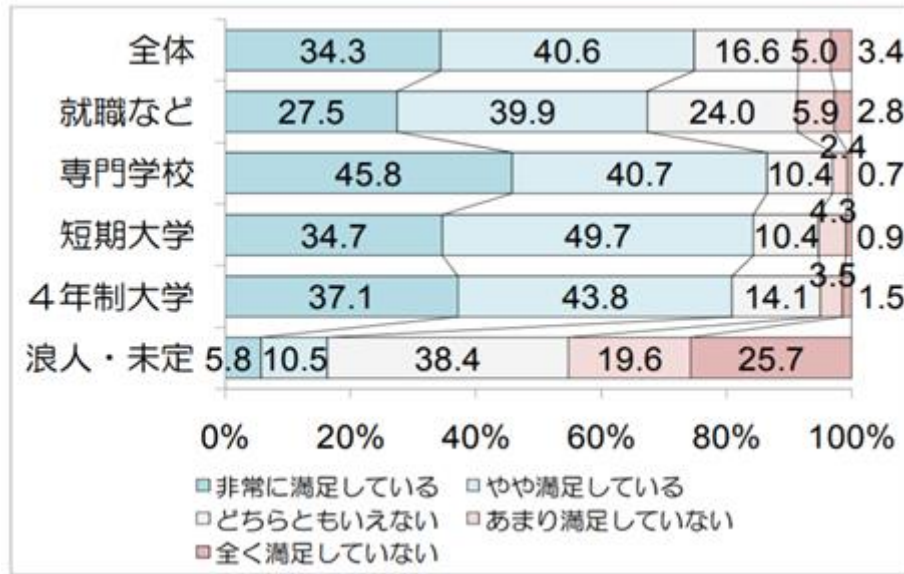


図 2-59 進路についての満足度（予定進路別）（N=3,493）（高校3年時の調査、無回答を除く）【高校生調査】

（出所）東京大学大学院教育学研究科大学経営・政策研究センター「高校生の進路追跡調査 第1次報告書」（平成19年）

【高校生・保護者調査】

- 高校卒業後の予定進路を両親年収別に見ると、「専門学校」は、両親年収が多いほど割合が低くなり、一方「4年制大学」は、両親年収が多いほど高くなる傾向にあった。

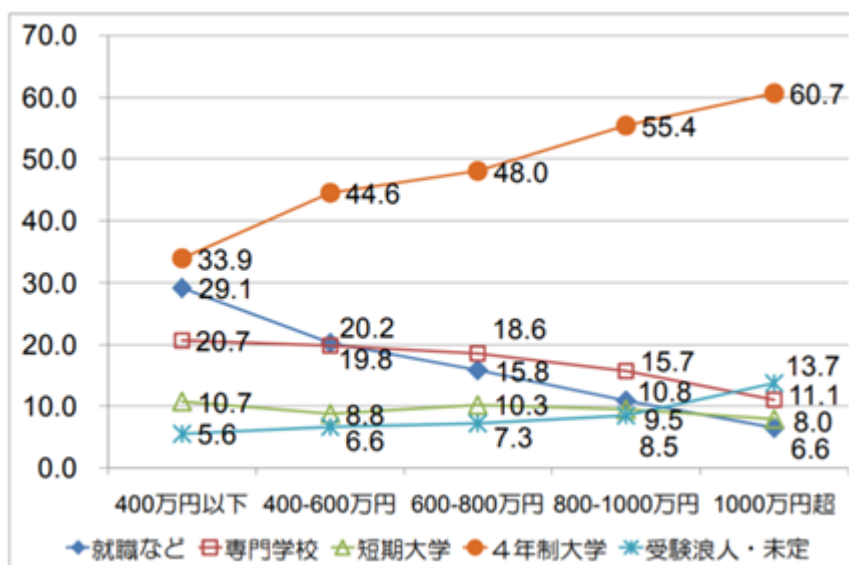


図 2-60 高校卒業後の予定進路（両親年収別¹）（N=3,493）（高校3年3月時点、無回答を除く）【高校生・保護者調査】

（出所）東京大学大学院教育学研究科大学経営・政策研究センター「高校生の進路追跡調査 第1次報告書」（平成19年）

¹ 「両親年収」は、父母それぞれの税込年収に中央値を割り当て、合計したものである。無回答は欠損値として扱った。ただし、父親（または母親）の年齢・職業・学歴・年収のすべてが無回答という回答者については「父親（または母親）がない」とみなし、父親（または母親）の年収はゼロ円とした。

2) 進学先を選択するときに重視する事柄

専門学校が進学先として選ばれるための情報提供方法を検討する際、高校生がどのような情報を重視して進学先を選択しているのかを把握することは非常に重要である。そこで、本項目では、高校生が進学先を選択するときに重視する事柄を把握した。

【在学生調査】

- 在学生調査によると、進学先選択時の重視項目は、「資格・検定の取得実績」「就職実績」が上位となっている。
- 社会人学生は、その他学生に比べて「自宅からの通いやすさ」「学費の安さ」「学費補助の有無」を重視している。
- その他学生は、社会人学生に比べて「就職実績」「オープンキャンパスや在学生の印象」を重視している。

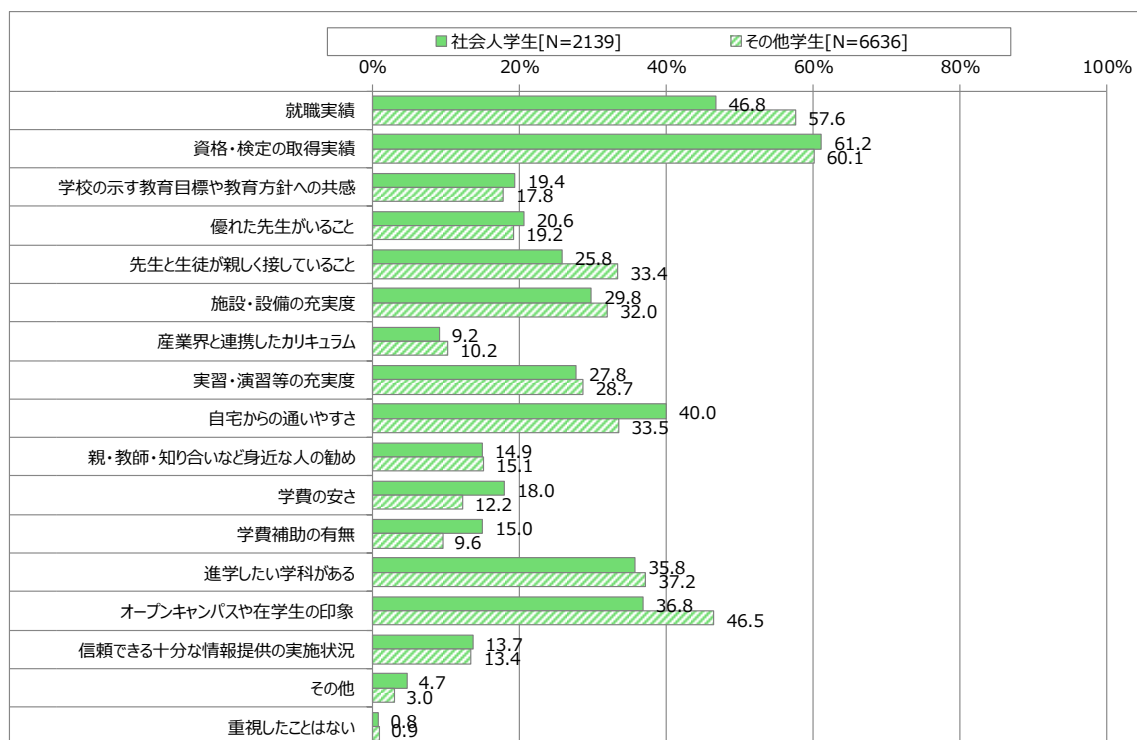
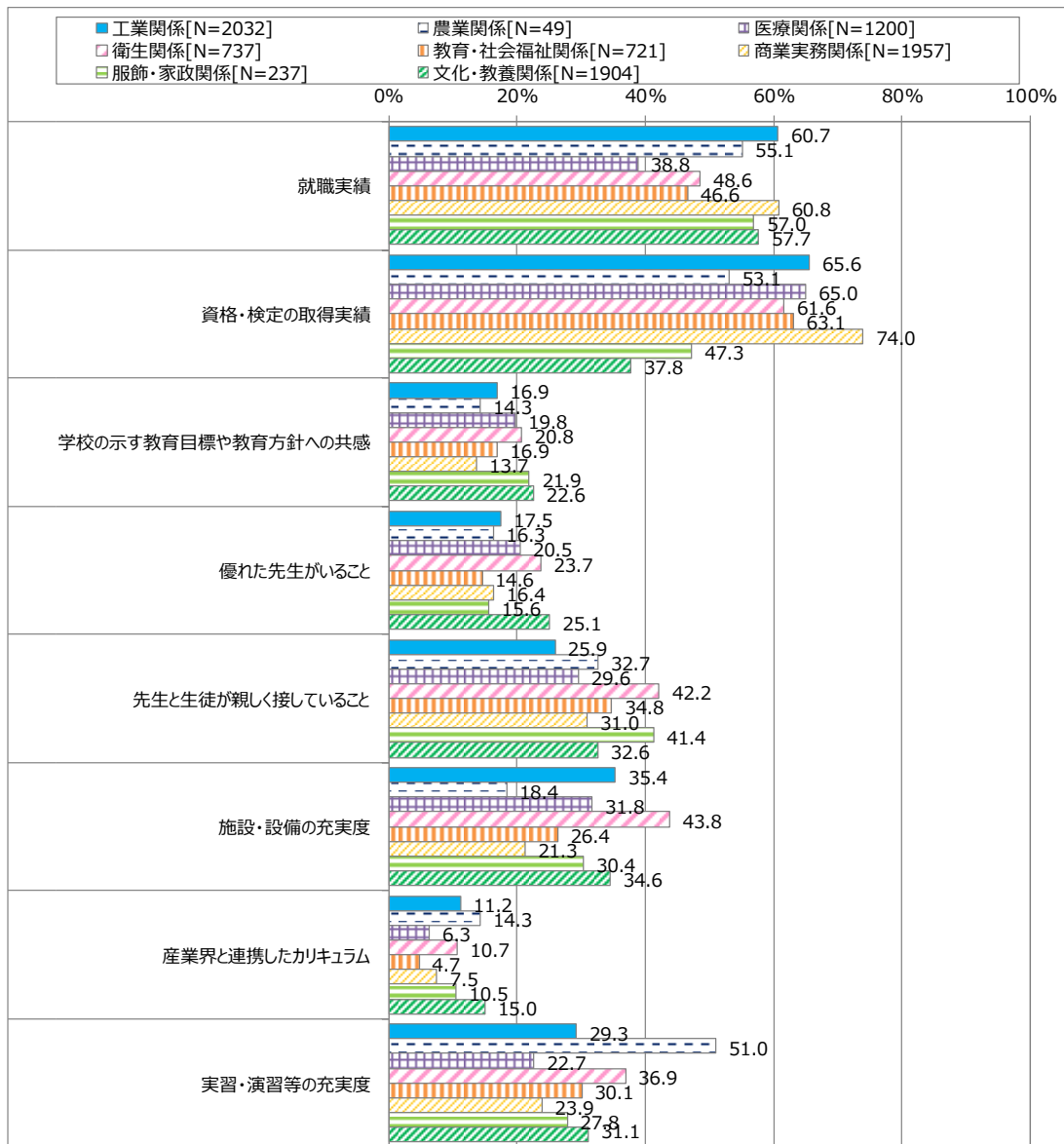


図 2-61 進学先選択時の重視項目（複数選択）（社会人学生とその他学生別）【在学生調査】

（出所）文部科学省『『職業実践専門課程』の実態等に関する調査研究』参考資料（平成 28 年度）

【在学生調査】

- 在学生調査によると進学先選択時に重視する項目は、分野ごとに差異が見られた。特に「就職実績」「資格・検定の取得実績」は、各分野の差異が大きい。



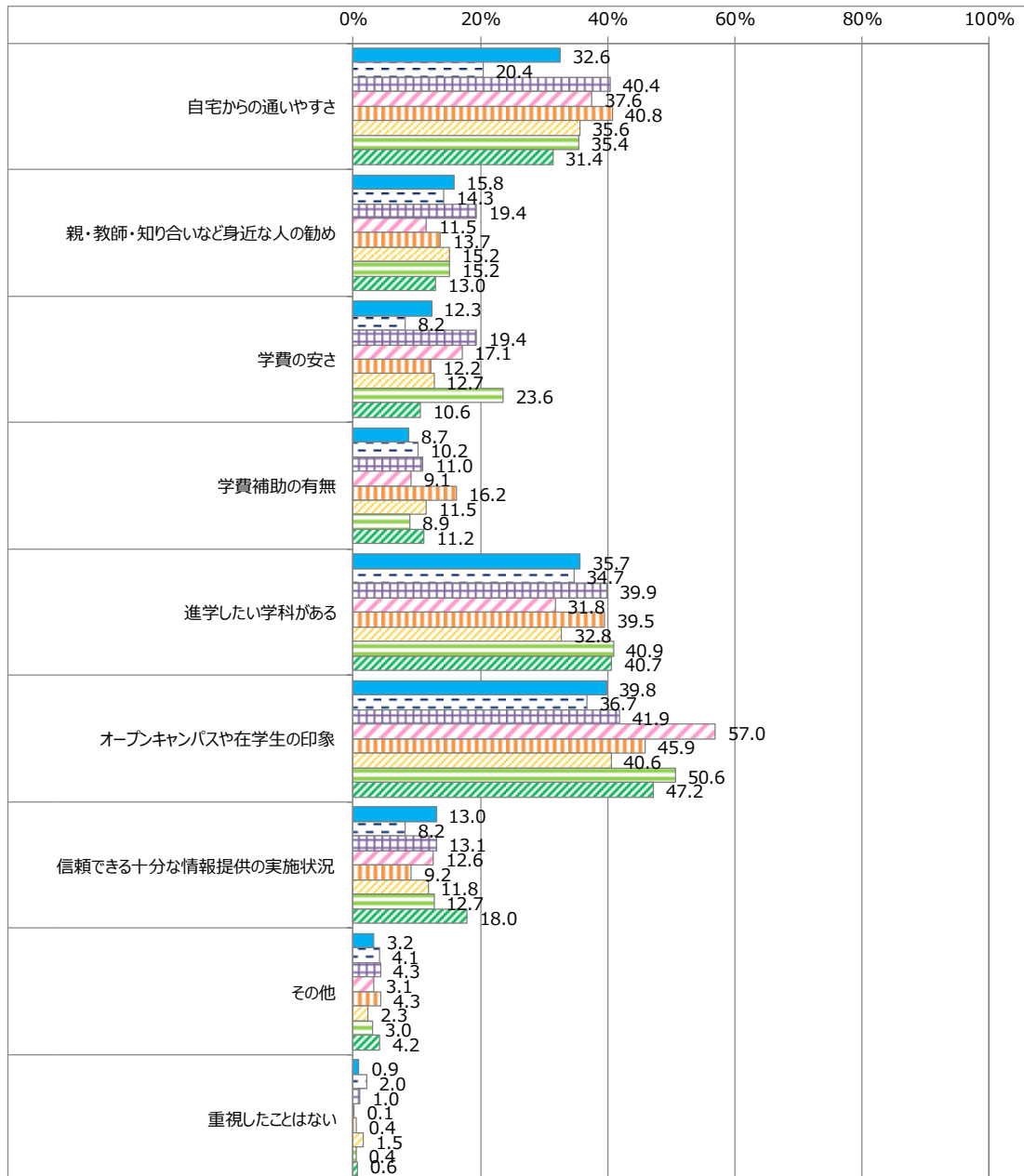


図 2-62 進学先選択時の重視項目（複数選択）（分野別）【在学生調査】

（出所）文部科学省『『職業実践専門課程』の実態等に関する調査研究』参考資料（平成 28 年度）

【高校生調査】

- 予定進路を「専門学校」とした要因として、最も多かったものは「地理的条件」であった。
- 「専門学校」の「地理的条件」「経済的条件」の割合と、「4年制大学」の「地理的条件」「経済的条件」の割合は、同程度であった。一方、「成績」を進路の決定要因として挙げる高校生の人数割合は、「専門学校」と「4年制大学」で43.7ポイントの差が見られた。

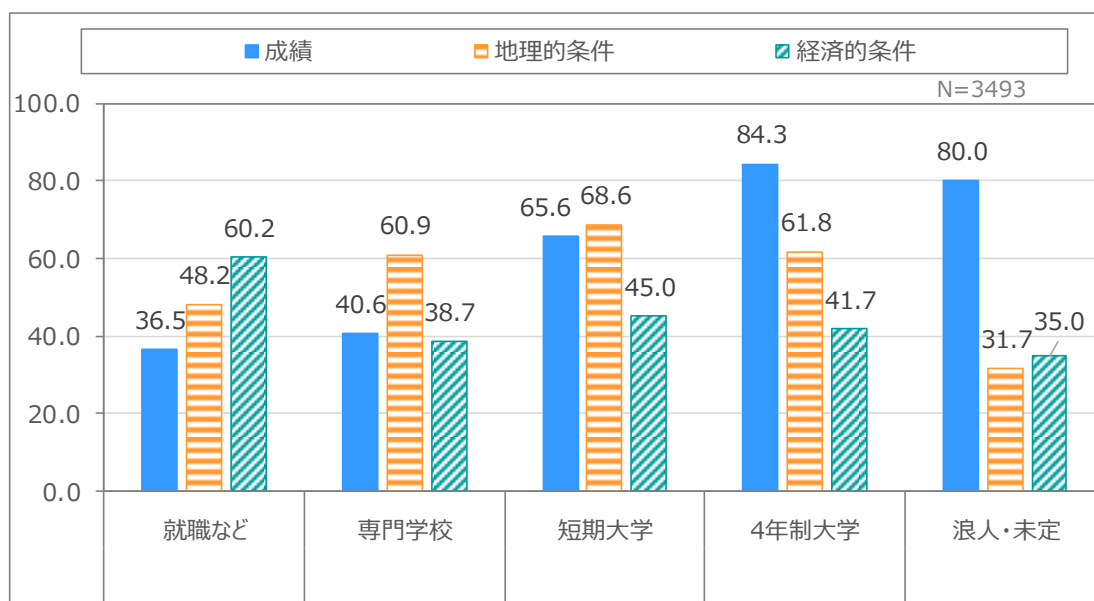


図 2-63 進路を決めた要因²（予定進路別）（高校3年時の調査、無回答を除く）【高校生調査】

（出所）東京大学大学院教育学研究科大学経営・政策研究センター「高校生の進路追跡調査 第1次報告書」（平成19年）を基に作成。

² 各要因について、「とてもあてはまる」～「全くあてはまらない」の4段階評価での回答のうち、「とてもあてはまる」「あてはまる」を回答した合計値の割合を記載している。

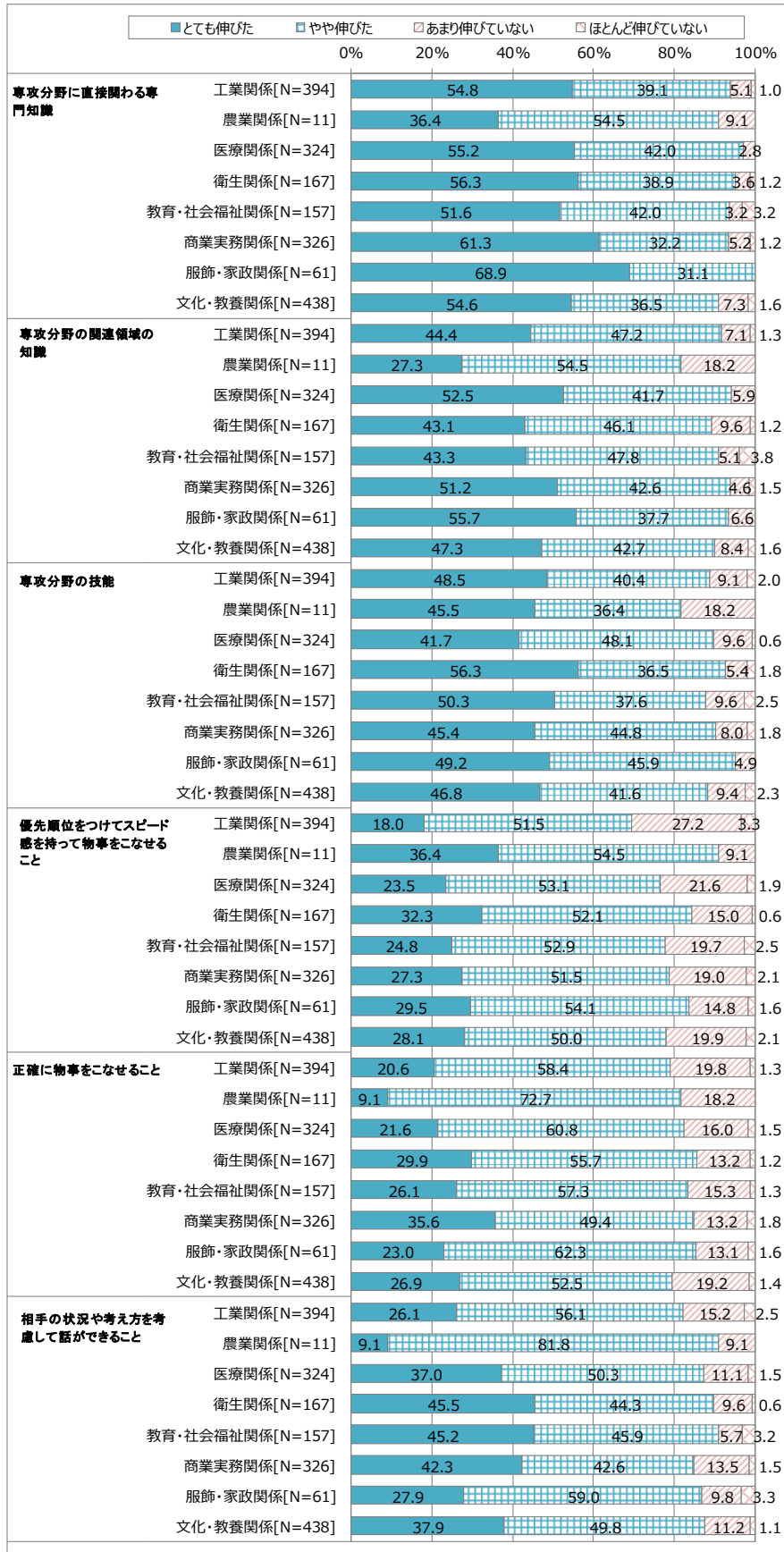
(4) 専門学校教育の魅力

1) 専門学校教育の効果

専門学校魅力を社会に発信するためには、まず専門学校教育の魅力を明確にする必要がある。そこで、本項目では、主に既存の卒業生調査・在学生調査をもとに専門学校教育の効果把握した。

【卒業生調査】

- 分野別に専門学校の効果を見ると、企業が重視しているコミュニケーションや協調性に関する能力（「相手の状況や考え方を考慮して話ができること」「報告、連絡、相談など仕事で求められるコミュニケーションができること」）の教育効果は、分野ごとの差異が大きい。



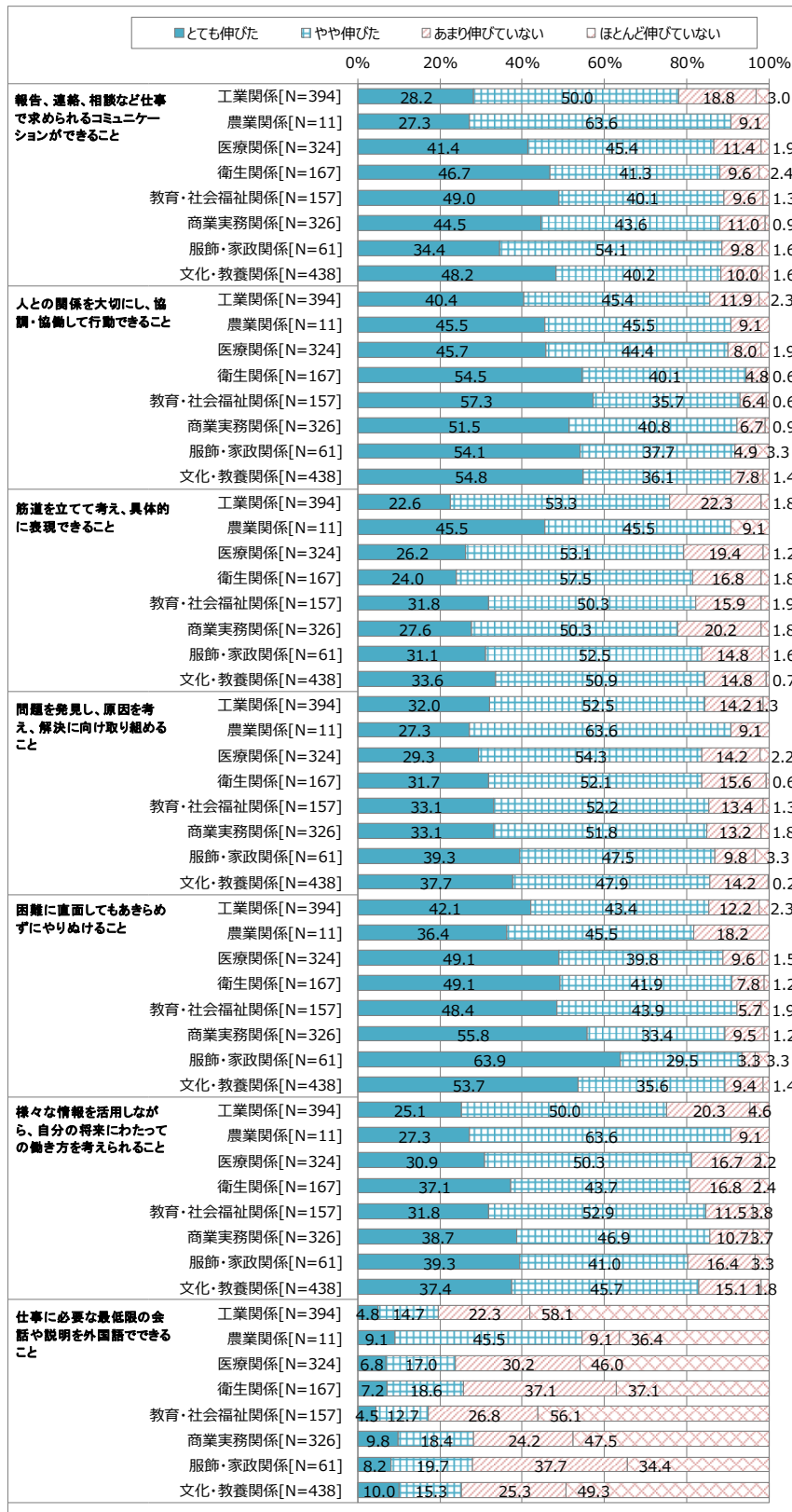


図 2-64 在学期間中の教育効果（各単数選択）（分野別）【卒業生調査】

（出所）文部科学省『『職業実践専門課程』の実態等に関する調査研究』参考資料（平成 28 年度）

【卒業生調査】

- 「とても伸びた」に着目して、専修学校卒業生の在学期間中の教育効果を在学学生人数別に見ると、「81人以上」が全ての項目で「80人以下」と同等、あるいは上回っている。

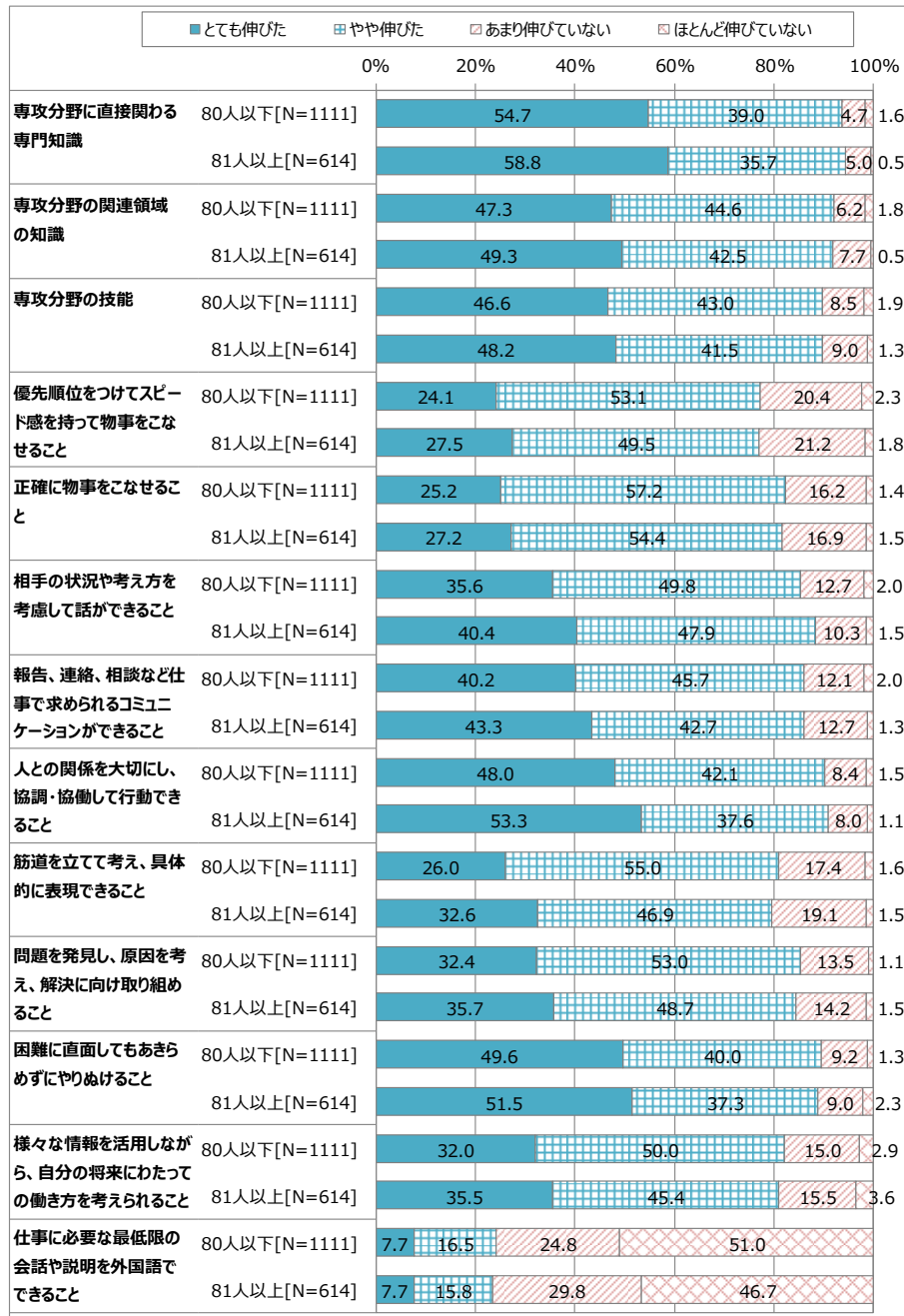


図 2-65 在学期間中の教育効果（各単数選択）（在学学生人数別）【卒業生調査】

（出所）文部科学省『『職業実践専門課程』の実態等に関する調査研究』（平成 28 年度）を基に作成。

【卒業生調査】

- 専修学校教育の効果について、連携企業別に見ると、企業が重視しているコミュニケーションに関する能力（「相手の状況や考え方を考慮して話ができること」「報告、連絡、相談など仕事で求められるコミュニケーションができること」「人との関係を大切に、協調・協働して行動できること」）については、連携企業が多い学科の卒業生の方が、教育効果が高かったと感じている卒業生が多い。

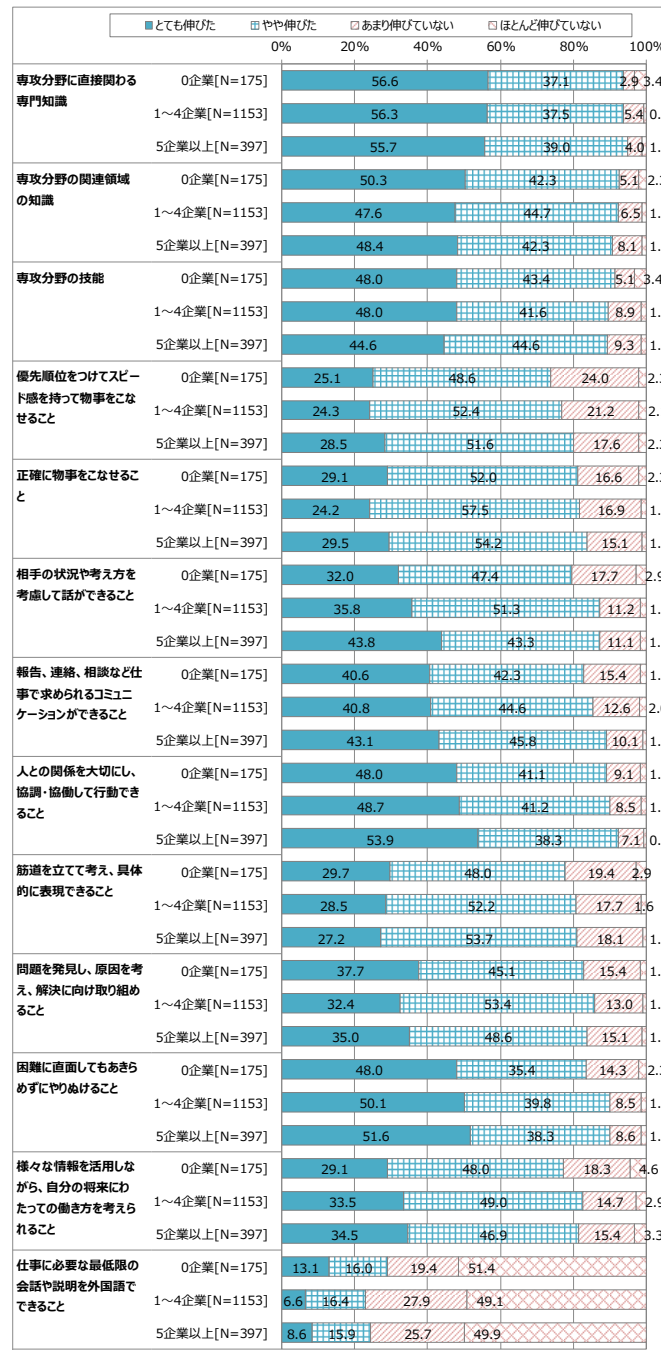
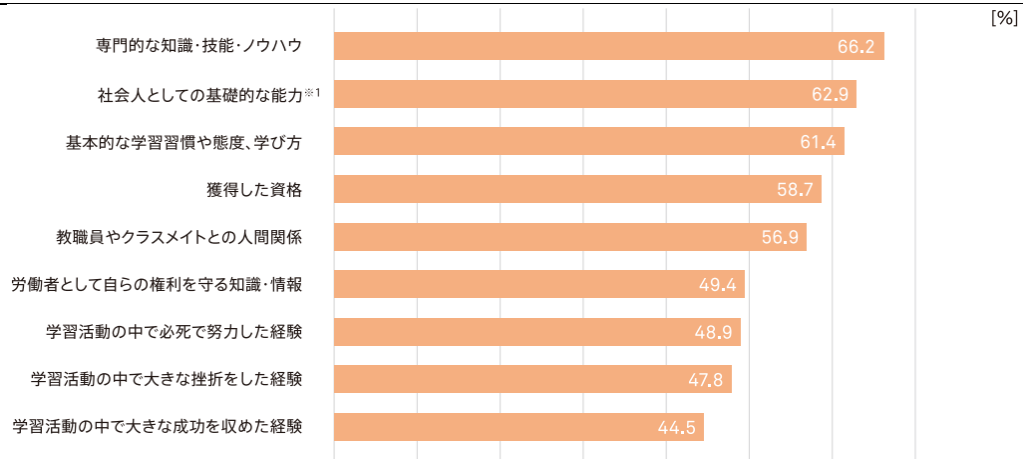


図 2-66 在学期間中の教育効果（各単数選択）（連携企業数別）【卒業生調査】

（出所）文部科学省『「職業実践専門課程」の実態等に関する調査研究』（平成28年度）を基に作成。

【卒業生調査】

- 在学期間中に身につけた能力・スキルや経験の、現在の職業生活への有用度は、分野全体においては「専門的な知識・技能・ノウハウ」が最も高かった。次いで「社会人としての基礎的な能力」「基本的な学習習慣や態度、学び方」の順に高かった。
- 「資格系」の分野では、全ての分野で「専門的な知識・技能・ノウハウ」が最も高かった。一方「非資格系」では、「農業分野」を除き、「基本的な学習習慣や態度、学び方」が最も高かった。
- 全分野の中で「医療分野」は、全ての項目において、割合が最も高かった。



	資格系				非資格系			
	医療分野	衛生分野	教育・社会福祉分野	工業分野	農業分野	商業実務分野	服飾・家政分野	文化・教養分野
専門的な知識・技能・ノウハウ	83.3	66.2	67.0	59.0	57.7	58.5	57.8	63.7
社会人としての基礎的な能力 ^{※1}	72.3	61.3	62.8	53.8	56.4	57.7	58.7	65.1
基本的な学習習慣や態度、学び方	75.1	61.5	62.2	56.3	55.1	59.2	60.6	65.1
獲得した資格	83.1	55.9	62.8	46.9	48.7	47.8	31.2	32.2
教職員やクラスメイトとの人間関係	56.9	50.9	53.1	41.9	51.3	47.1	45.9	48.6
労働者として自らの権利を守る知識・情報	54.7	44.9	46.3	38.3	38.5	42.8	33.0	38.4
学習活動の中で必死で努力した経験	73.3	57.1	57.2	49.8	51.3	53.6	59.6	60.3
学習活動の中で大きな挫折をした経験	60.5	48.5	44.5	39.6	47.4	45.2	44.0	47.3
学習活動の中で大きな成功を収めた経験	59.4	49.6	49.3	39.7	48.7	47.8	45.9	50.0
	N=763	N=387	N=297	N=738	N=74	N=539	N=110	N=370

図 2-67 在学期間中に身につけた能力・スキルや経験の、現在の職業生活への有用度³
(上：全体 (N=3,771)、下：分野別) 【卒業生調査】

(出所) ベネッセ教育総合研究所「専門学校での学びと社会への移行に関するふりかえり調査」(平成 28 年度)を基に作成。

³ (※1) 「社会人としての基礎的な能力」は、論理的思考力やコミュニケーション力などを指す。
(※) 数値は、「とても役立っている」「まあ役立っている」の合計の百分率で表示している。

【卒業生調査】

- 「専門学校」における、在学期間中の教育効果上位 5 項目は、全て「大卒 B 群（おおむね偏差値 44 以下）」を上回っていた。一方、「大卒全体」と比較すると、全て下回っていた。
- 「専門学校」の「人と協力しながらものごとを進める」「なにごとにも粘り強く取り組む姿勢を持つ」「学び続ける姿勢を持つ」は、「大卒 A 群（おおむね偏差値 45～54）」の教育効果と同程度であった。

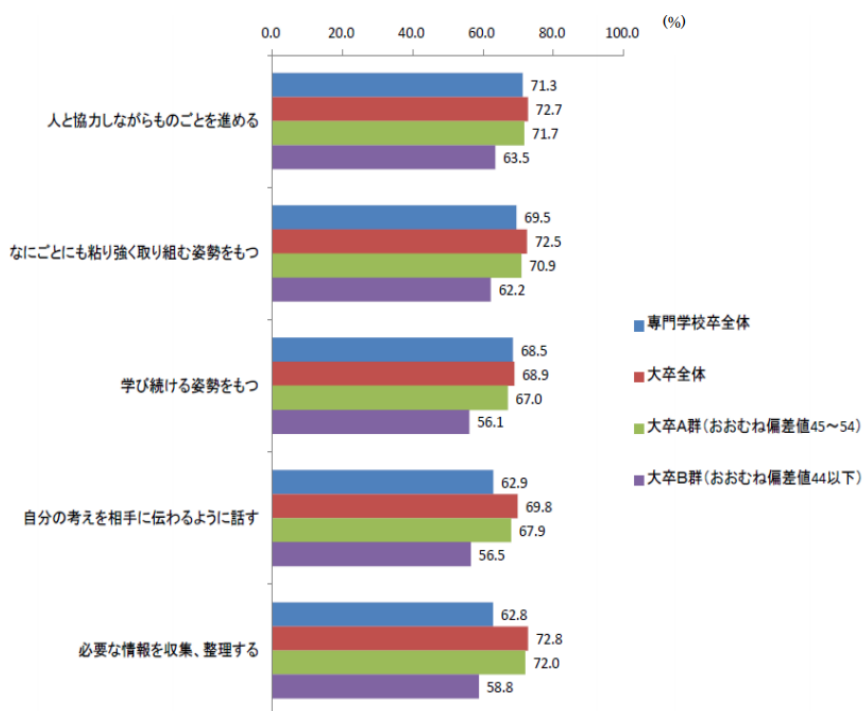


図 2-68 在学期間中の教育効果⁴（上位 5 項目、大学との比較）（N=3,771）【卒業生調査】

（出所）ベネッセ教育総合研究所「専門学校での学びと社会への移行に関するふりかえり調査」プレスリリース資料

⁴ 数値は「かなり身についた」「ある程度身についた」の合計の百分率を記載している。

	医療分野	衛生分野	教育・社会福祉 分野	工業分野
人と協力しながらものごとを進める	83.6	80.1	79.8	65.6
なにごとにも粘り強く取り組む姿勢をもつ	78.2	73.1	74.1	63.8
学び続ける姿勢をもつ	79.8	74.7	74.7	59.5
現状を分析し、問題点や課題を発見する	75.1	64.3	68.4	58.3
必要な情報を収集、整理する	75.2	-	-	57.0
自分の考えを相手に伝えるように話す	74.4	-	70.0	55.7
自分自身の強み弱みを把握する	70.6	62.8	-	52.3
自分で目標を設定し、計画的に行動する	-	64.3	-	-
グループの中で責任を持って行動する	-	62.8	70.0	-
異なる意見や立場をふまえて、考えをまとめる	-	-	69.7	-
社会や文化の多様性を理解し、尊重する	-	-	68.4	-

	農業分野	商業実務分野	服飾・家政分野	文化・教養分野
人と協力しながらものごとを進める	64.9	61.4	66.4	71.1
なにごとにも粘り強く取り組む姿勢をもつ	67.6	66.2	71.8	71.4
学び続ける姿勢をもつ	58.1	66.8	70.9	71.1
現状を分析し、問題点や課題を発見する	-	-	-	64.1
必要な情報を収集、整理する	-	61.4	-	64.3
自分の考えを相手に伝えるように話す	62.2	57.1	62.7	66.5
自分自身の強み弱みを把握する	-	58.3	-	-
自分で目標を設定し、計画的に行動する	-	55.8	63.6	-
グループの中で責任を持って行動する	59.5	-	-	-
社会や文化の多様性を理解し、尊重する	-	-	66.4	62.2
自分の感情を上手にコントロールする	63.5	-	-	-
ものごとを批判的・多面的に考える	60.8	-	-	-
既存の枠にとらわれず、新しい発想やアイデアを出す	-	-	66.4	-

図 2-69 在学期間中の教育効果⁵（分野別）（N=3,771）【卒業生調査】

（出所）ベネッセ教育総合研究所「専門学校での学びと社会への移行に関するふりかえり調査」（平成 28 年度）

⁵（注 1）数値は「かなり身についた」「ある程度身についた」の合計の百分率を記載している。
（注 2）全 20 項目のうち、上位 7 項目の数値のみ掲載している。

【卒業生調査】専門学校卒業生の各種労働条件

- 定着率は、「非資格系」よりも「資格系」の方が高い傾向が見られた。また「資格系」の中でも、「医療分野」の定着率は高く、「衛生分野」の定着率は低かった。
- 全体の正規雇用率は「衛生分野」を除き、「非資格系」よりも「資格系」の方が高い傾向が見られた。また「非資格系」の中でも「商業実務分野」の全体の正規雇用率は高かった。
- 平均年収は、「資格系」「非資格系」で一定の傾向は見られず、「工業分野」が最も高く、「衛生分野」が最も低かった。
- 専門学校卒業生全体の平均年収（316万円）は、卒業大の偏差値がおおむね44以下の大学卒業生の平均年収（356万円）を下回っていた。

	現在の職業領域										
	医療分野	衛生分野	教育・社会福祉分野	工業分野	農業分野	商業実務分野	服飾・家政分野	文化・教養分野	その他	合計	
専門学校在籍時の領域	医療分野	81.5	1.1	5.6	2.3	0.1	3.4	0.5	1.0	4.4	100.0
	衛生分野	2.8	54.0	5.5	9.1	1.4	8.5	3.0	2.8	12.9	100.0
	教育・社会福祉分野	5.9	4.2	69.0	7.0	0.0	4.2	1.0	2.1	6.6	100.0
	工業分野	1.9	3.3	2.9	67.2	1.1	7.4	0.8	2.3	13.0	100.0
	農業分野	2.9	8.6	2.9	21.4	31.4	14.3	0.0	4.3	14.3	100.0
	商業実務分野	22.4	2.5	5.0	7.7	4.4	34.2	2.3	2.5	18.8	100.0
	服飾・家政分野	13.6	1.9	3.9	12.6	2.9	8.7	35.0	8.7	12.6	100.0
	文化・教養分野	19.0	2.0	3.4	5.9	3.1	22.1	2.8	21.8	20.1	100.0

図 2-70 在学時の専門分野と関連する領域に就職している卒業生の比率（定着率）
【%】(N=3,771) 【卒業生調査】

(出所) ベネッセ教育総合研究所「専門学校での学びと社会への移行に関するふりかえり調査」調査レポート及びプレスリリース（平成28年度）

			全体 (3612人)	20代 (1171人)	30代 (1215人)	40代 (1226人)
資格系	医療分野	正規雇用率	79.9	84.3	82.7	71.1
		平均年収	353	310	373	378
	衛生分野	正規雇用率	40.3	57.4	31.8	26.8
		平均年収	228	208	215	266
	教育・社会福祉分野	正規雇用率	76.1	79.8	78.2	69.0
		平均年収	285	265	291	303
	工業分野	正規雇用率	78.0	78.2	81.2	75.1
		平均年収	378	295	366	445
非資格系	農業分野	正規雇用率	55.9	65.2	52.0	50.0
		平均年収	322	247	291	439
	商業実務分野	正規雇用率	60.6	61.0	63.2	57.6
		平均年収	307	239	318	361
	服飾・家政分野	正規雇用率	44.6	57.1	48.5	34.2
		平均年収	254	210	246	284
	文化・教養分野	正規雇用率	42.0	45.6	43.8	36.7
		平均年収	256	225	272	280
	全 体	平均年収	316	264	323	359

大学卒業生	大学卒業生 全体	N=13,352	平均年収 (万円)	418
※短大、4年制大の どちらか1つあるいは 両方を卒業した者	卒業大の入試難易度A群(おおむね偏差値45~45)	N=3,441	平均年収 (万円)	395
	卒業大の入試難易度B群(おおむね偏差値44以下)	N=826	平均年収 (万円)	356

図 2-71 正規雇用率、平均年収（職業領域・世代別） [%] [万円] 【卒業生調査】

(出所) ベネッセ教育総合研究所「専門学校での学びと社会への移行に関するふりかえり調査」調査レポート及びプレスリリース（平成 28 年度）

【15歳以上調査】専門学校卒業生の各種労働条件—他の学校体との比較

- 「高校」「専門学校」「短大・高専」「大学」「大学院」で「正規の職員・従業員」の割合及び「正規の職員・従業員数」「非正規の職員・従業員数」の合計値の割合に、大きな差は見られなかった。

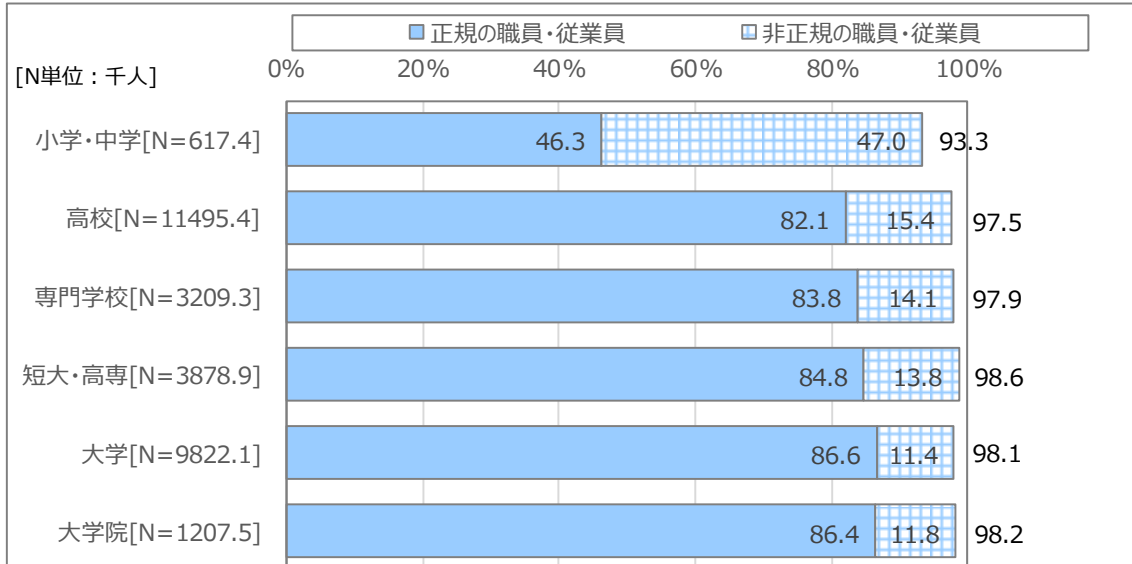


図 2-72 卒業から1年未満に就職した者の雇用形態（最終学歴別）【15歳以上調査】

(出所)「平成24年就業構造基本調査結果」(総務省統計局)

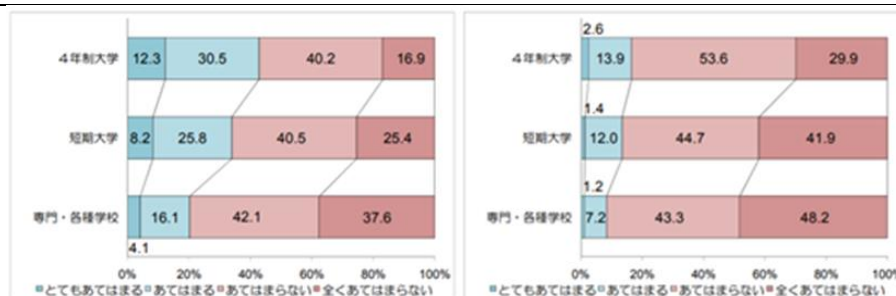
(<http://www.stat.go.jp/data/shugyou/2012/index2.htm#kekka>) を基に株式会社三菱総合研究所作成。

2) 専門学校全般に関する評価

前項目で専門学校教育の魅力を明確にする目的で、専門学校教育の効果を把握した。次に本項目では、教育効果に限らない専門学校全般に関する効果を把握した。

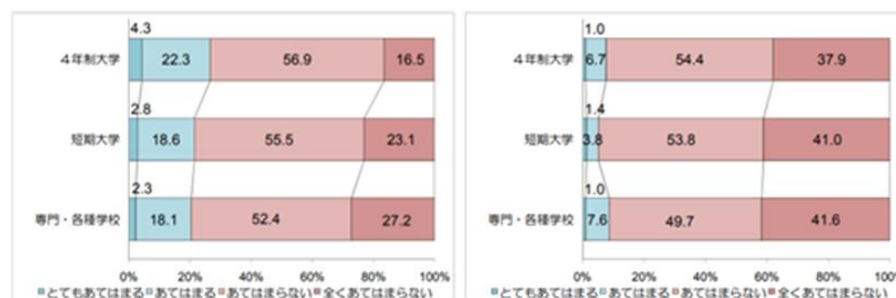
【在学生調査】

- 在学生が学校生活で感じていることとして、「やりたいことが見つからない」「学校になじめない」「授業についていけない」の項目について、「とてもあてはまる」「あてはまる」を選んだ人の割合は、「4年制大学」で最も多く、「専門・各種学校」で最も少なかった。
- 「卒業後の進路のことが今から不安だ」「いまの大学・学校を辞めたい」の項目について、「とてもあてはまる」「あてはまる」を選んだ人の割合は、「短期大学」で最も多く、「専門・各種学校」で最も少なかった。



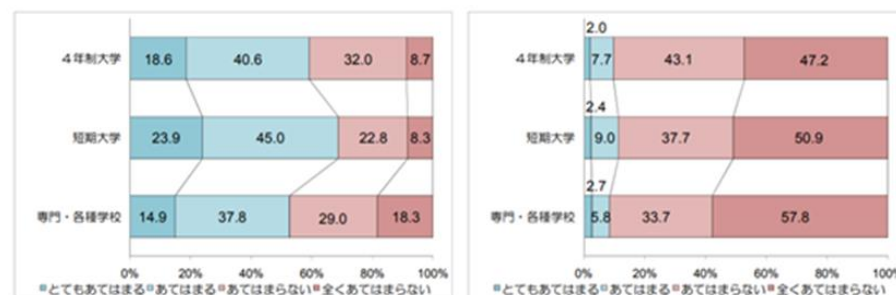
やりたいことが見つからない

学校になじめない



授業についていけない

経済的に勉強を続けることが難しい



卒業後の進路のことが今から不安だ

いまの大学・学校を辞めたい

図 2-73 学校生活で思うこと（無回答を除く）（N=2,906）【在学生調査】

（出所）東京大学大学院教育学研究科大学経営・政策研究センター「高校生の進路追跡調査 第1次報告書」（平成19年）

【卒業生調査】

- 在学中の充実度に関して、「専門学校卒 全体」の充実度は「大学卒 全体」の充実度と、同程度であり、「大卒 A 群（おおむね偏差値 45～54）」「大卒 B 群（おおむね偏差値 44 以下）」の充実度を上回っていた。
- 「資格系」の学科の充実度は、「非資格系」の学科の充実度を上回っていた。

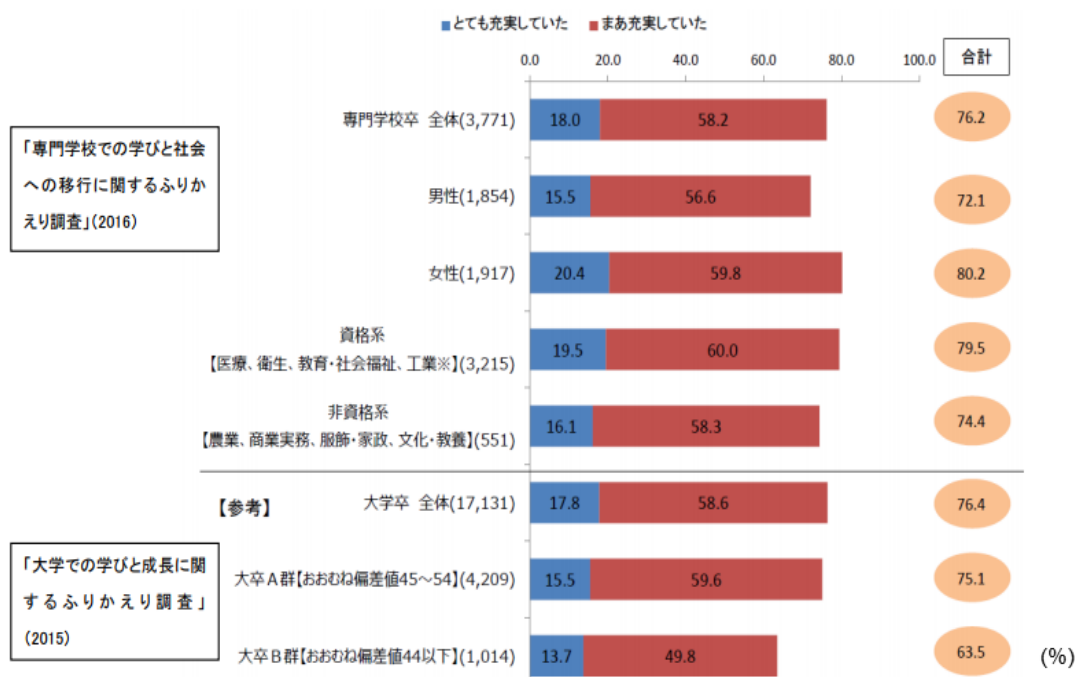


図 2-74 在学期間中の充実度⁶（大学との比較）（N=3,771）【卒業生調査】

（出所）ベネッセ教育総合研究所「専門学校での学びと社会への移行に関するふりかえり調査」プレスリリース資料

⁶（注 1）今回使用している大卒者データは、専門学校卒の調査対象（20～49 歳）にあわせて、大卒社会人約 2 万人の中から対象者（23 歳～49 歳、17,131 名）を再抽出、値を再算出しているため、発表済みの「大学での学びと成長に関するふりかえり調査」（2015）の数値とは異なる。

（注 2）偏差値帯による大学の分類には、「あなたをご卒業された大学の入試難易度にあてはまるものをひとつお選びください」の質問に対して「おおむね偏差値 65 以上」「おおむね偏差値 55～64」「おおむね偏差値 45～54」「おおむね偏差値 44 以下」「わからない」の 5 つの選択肢から回答者が選択した結果を用いている。

（注 3）オレンジ囲みの数値は「とても充実していた」＋「まあ充実していた」の％
※工業分野の一部の学科は、違う分類に位置することがある。

【卒業生調査】

- 卒業生による学校全般に対する評価について、自身が卒業した専門学校に対して「総合的に評価して良い学校だった」と考えている学生は、「非常にそう思う」「わりとそう思う」「ややそう思う」を合計すると77.3%であった。
- 自身が卒業した専門学校を勧めたいと考えている学生は、「非常にそう思う」「わりとそう思う」「ややそう思う」を合計すると72.5%であった。

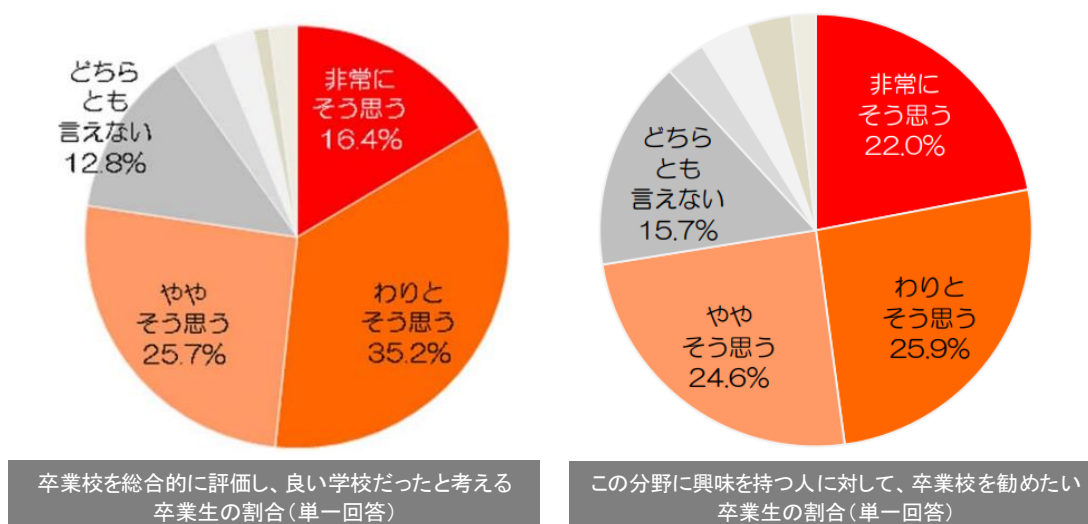


図 2-75 在学期間中の充実度⁷ (大学との比較) (N=1,260) 【卒業生調査】

(出所) 大阪府専修学校各種学校連合会「全国専門学校共同卒業生調査 プレスリリース」(平成 29 年)

⁷本設問は「非常にそう思う」～「まったくそう思わない」の7段階評価の選択肢となっている。これらの選択肢のうち、5%未満の選択肢は、グラフ内に文字を表記していない。

【卒業生調査】

- 「先生は教育・指導に熱意を持っていた」という項目に対して「非常にそう思う」「ややそう思う」という回答の合計値の割合は、73.1%であった。
- 「先生が親しみやすかった」という項目に対して「非常にそう思う」「ややそう思う」という回答の合計値の割合は、78.5%であった。
- 「本校（卒業校）に卒業したことによって成長した」という項目に対して「非常にそう思う」「ややそう思う」という回答の合計値の割合は、78.8%であった。
- 「本校（卒業校）での学校生活は充実していた」という項目に対して「非常にそう思う」「ややそう思う」という回答の合計値の割合は、71.4%であった。

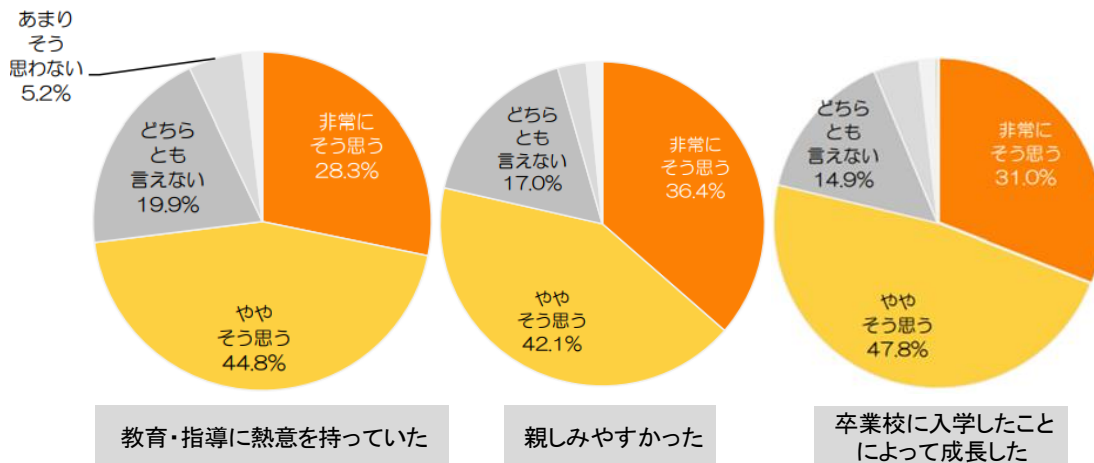


図 2-76 卒業校の教育に対する評価⁸（単一回答）（N=1,260）【卒業生調査】
（左：教育・指導に熱意を持っていた、中央：親しみやすかった、右：卒業校に入学したことによって成長した）

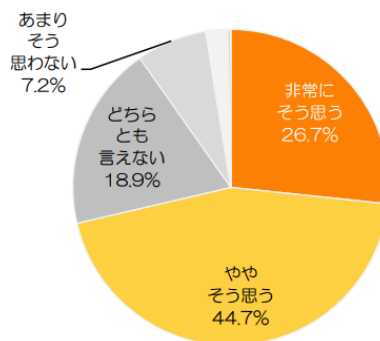


図 2-77 卒業校の学校生活に対する評価（単一回答）（N=1,260）【卒業生調査】

（出所）大阪府専修学校各種学校連合会「全国専門学校共同卒業生調査 プレスリリース」（平成 29 年）

⁸ 本設問は「非常にそう思う」～「まったくそう思わない」の 5 段階評価の選択肢となっている。これらの選択肢のうち、5%未満の選択肢は、グラフ内に文字を表記していない。

【卒業生調査】

- 専門学校卒業後の進路について、「就職した」と回答した人のうち、「学んだことを非常に生かせる分野」に就職する人の割合は 65.0%、「学んだことを少し行かせる分野」に就職する人の割合は 26.0%であり、学んだことを少しでも行かせる分野に就職する人の割合を示すこれらの合計値の割合は 91.0%であった。
- 卒業後の進路を「就職した」と回答した人のうちの 85.8%は、「正社員」として働いていた。

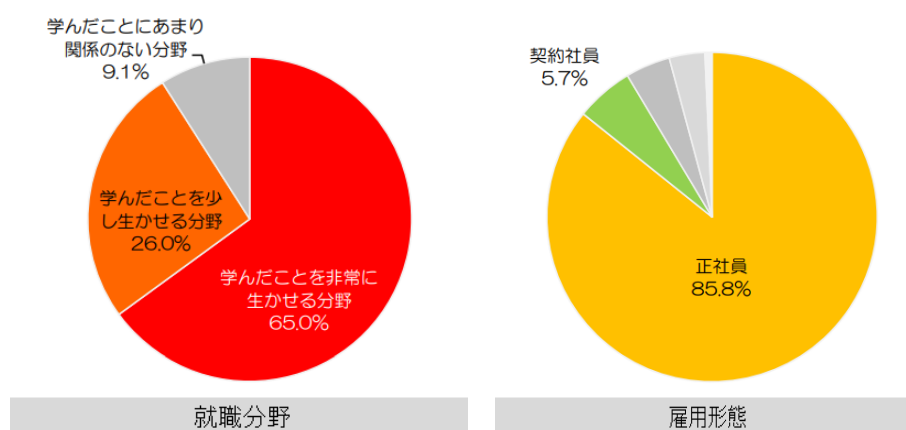


図 2-78 卒業後の進路⁹（単一回答、卒業後の進路を「就職する」と回答した人のみ）
（N=1,260）【卒業生調査】

（出所）大阪府専修学校各種学校連合会「全国専門学校共同卒業生調査 プレスリリース」（平成 29 年）を基に作成。

⁹ 5%未満の選択肢は、グラフ内に文字を表記していない。

2.3.3 考察

前項で示した調査結果から、情報発信上の課題を以下に整理した。

(1) 求められている情報を効果的に発信できていない

専門学校は、ホームページにおいて、学校の教育の特徴、沿革・歴史、入学者に関する受入れ方針・入試結果、就職支援等への取組支援、学校行事関連情報等、様々な情報を提供している（図 2-39）が、高等学校教員を対象とした調査では、必ずしもそのような情報が十分であるとはいえないといった評価が見られた（図 2-40）。この評価は主に、「情報量」に関するものと「情報の質」に関するものに大別できる。「情報量」に関しては、募集定員の充足率や、正規教員数、経営方針、就職支援等への取組支援等、求めている情報がないといった意見が聞かれ、「情報の質」に関しては、学校間での情報が統一されていないことや、データの根拠が不明確であること等が挙げられていた（図 2-40、図 2-51）。なお、不足しているという評価であった就職支援等への取組支援については、90%以上の専修学校がホームページで提供している（図 2-39）。このような結果から、情報は掲載しているものの、効果的に情報発信できていない可能性も考えられる。

一方、情報を提供する側である専門学校は、ホームページによる情報提供上の課題として、高校生等の各ステークホルダーに魅力あるコンテンツを作成することや、作成・運用費用の負担を挙げており（図 2-41）、この傾向は、特に在学生数の少ない学校で顕著であることが明らかとなった（図 2-42）。

(2) 「職業実践専門課程」の認知状況が十分でない

専修学校の魅力を社会に発信するためには、専攻分野における実務に関する知識、技術及び技能について組織的な教育を実施している「職業実践専門課程」に関する情報発信も重要であると考えられる。実際、進学相談・指導において「職業実践専門課程」制度が役に立つ¹⁰と回答している高等学校教員は 84.0%を超えている。しかしながら「職業実践専門課程」の内容まで知っている高等学校教員は 16.7%に留まっていた（図 2-44）。

(3) 大学等の他の学校種への進学との違いを明確にする必要がある

高校生の進路希望の変化について、高校 1～2 年時に希望と、受験予定を比較すると、専門学校は、「受験予定」を「高校 1～2 年時の希望」が下回っている（図 2-55、図 2-56）ことから、進級とともに専門学校が選択されなくなっているといえる。一方、進路についての満足度は、4 年制大学、短期大学、就職等と比較して、専門学校が最も高い傾向にあった（図 2-59）。満足度の高い進路である専門学校が、進級とともに選択されなくなっている理由は本調査では明らかになっていないが、理由の一つとして、専門学校を大学との比較の中で適切にアピールできていない可能性が考えられる。

教育面に関する専門学校と大学、短期大学との違いは、キャリア教育・職業教育、進路指導等を通して認知してもらう必要があるが、本調査では、教育効果や学校生活の充実度の面

¹⁰ 「役に立つ」「やや役に立つ」の合計値

に関する違いが明らかになっている。例えば、人との協力や、粘り強さ、学び続ける姿勢は偏差値 45～54 程度の大学と同等程度の教育効果が得られている（図 2-68）。また「やりたいことが見つからない」「学校になじめない」「授業についていけない」「卒業後の進路のことが今から不安だ」「いまの大学・学校を辞めたい」と感じる学生は、全ての学校種の中で専門学校・各種学校が最も低い結果であった（図 2-73）。さらに卒業後の雇用形態についても、専門学校は、短大・高専や、大学等とおおむね同等程度の分布であった（図 2-72）。一方で、平均年収は分野により大学卒業者を下回る結果となっていた（図 2-71）。

このような各学校種選択のメリット・デメリットを、各学校種の教育内容面での違いとともに生徒に伝えることで、適切な進路選択を促すことが必要であると考えられる。

2.4 都道府県協会における情報発信状況の調査

2.4.1 アンケート調査概要

(1) 目的

専門学校に関する社会のニーズを満たすような情報を効果的に発信するためには、個別の専門学校の取組だけでは不十分であり、専門学校全体の地位向上・魅力発信には結びつきにくい。情報発信をより組織的に行うためには、各都道府県に設置されている専門学校各種学校協会等（以下、都道府県協会）による情報発信や、都道府県協会と各専門学校との協働等が重要であると考えられる。

そこで本調査では、都道府県協会における情報発信状況を調査することにより、都道府県協会からの情報発信に関する実態・課題、また先進的な取組等を明らかにし、都道府県協会の効果的な情報発信方法についての示唆を得る。

(2) 調査方法・結果

1) 調査件名

都道府県協会における情報発信状況の調査

2) 調査対象

47 都道府県協会

3) 調査方法

調査票を郵送して実施（回収も郵送）

4) 調査期間

平成 29 年 12 月 4 日 ～ 平成 29 年 12 月 15 日（必着）

5) 回収結果

- 配布数：47
- 回収数：47
- 回収率：100.0%

2.4.2 アンケート調査結果

(1) 協会の職員数、会員校数

- 協会の職員数について、専任職員数（常勤）、兼任職員数（常勤）が0人である協会が48.9%約半数を占めていた。また、いずれの職員数も、1人～2人である協会が約4割を占めていた。
- 協会に所属している会員校数について、専門課程を有する専修学校が「20校以上」である協会は57.8%であった。また、高等課程を有する専修学校が「1～4校」である協会は58.1%、5校以上である協会は34.9%であった。

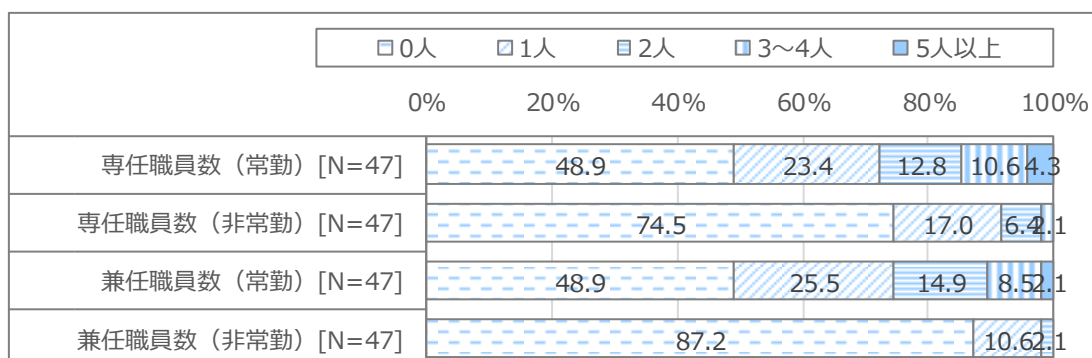


図 2-79 協会の職員数 (Q2)

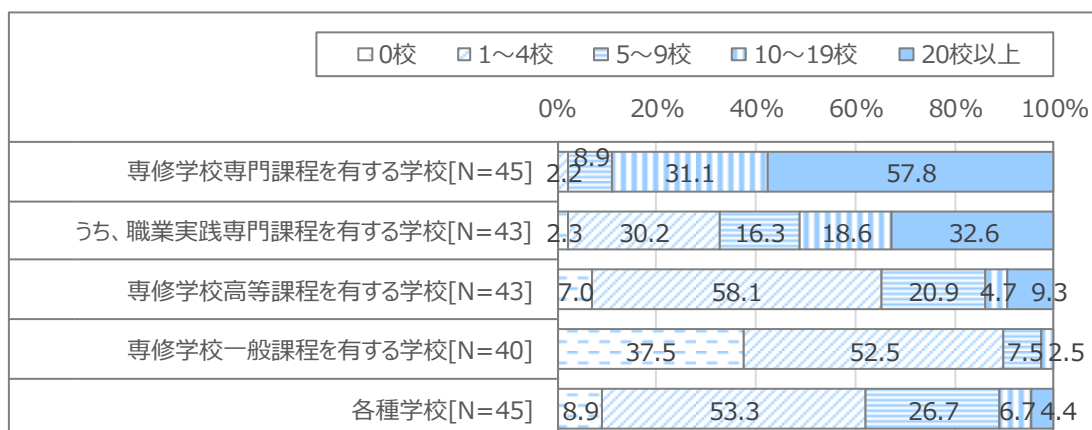


図 2-80 協会の会員校数 (Q4)

(2) 広報や情報提供に関する体制整備

- 広報や情報提供を主管とする会議体を「設置している」協会は 60.0%であった。

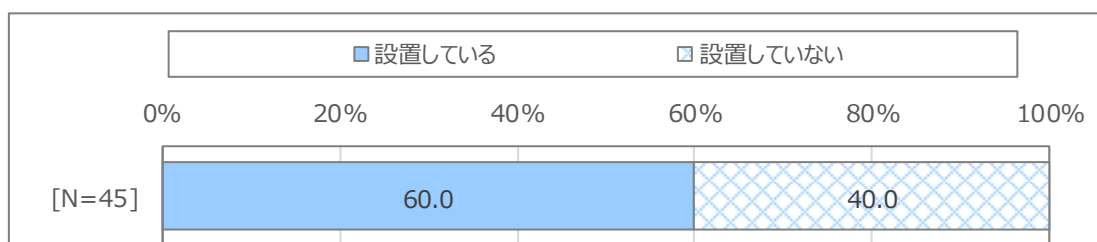


図 2-81 広報や情報提供を主管とする会議体設置の有無 (Q3)

会議体の名称としては「広報委員会」という名称が最も多く、会議体を設置している 27 協会のうち 14 協会がこの名称であった。その他の名称としては、進学ガイド編集委員（新潟県）、キャリア教育推進委員会、刊行物等編集委員会などがあつた。

- Web サイトの運営予算について、「50 万円以上」である協会は 30.3%であった。
- Web サイト以外に使用できる予算について、「500 万円以上」である協会は 30.6%であった。一方、「100 万円未満」である協会も同程度の 33.3%であった。

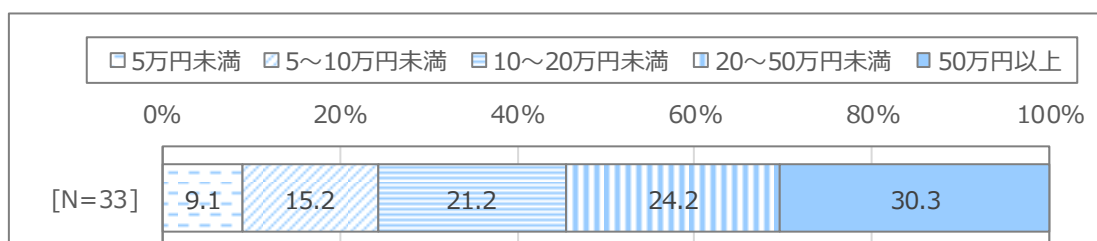


図 2-82 Web サイトの運営予算 (2017 年度) (Q5-1)

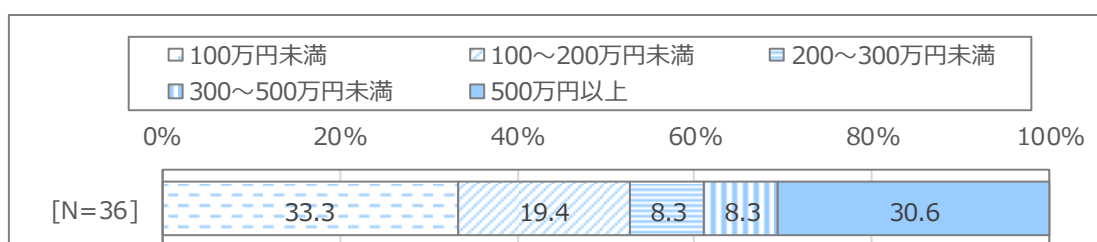


図 2-83 Web サイト以外（冊子作成やイベント開催）に使用できる予算 (2017 年度) (Q5-2)

(3) 広報活動・情報発信の状況

- 作成・運営している広報媒体について、「Web サイト」「高校生向け冊子、リーフレット等」が上位であった。
- 作成・運営している広報媒体がない協会は、10.6%であった。
- 職業実践専門課程の情報発信を行っていない協会は、16.0%であった。

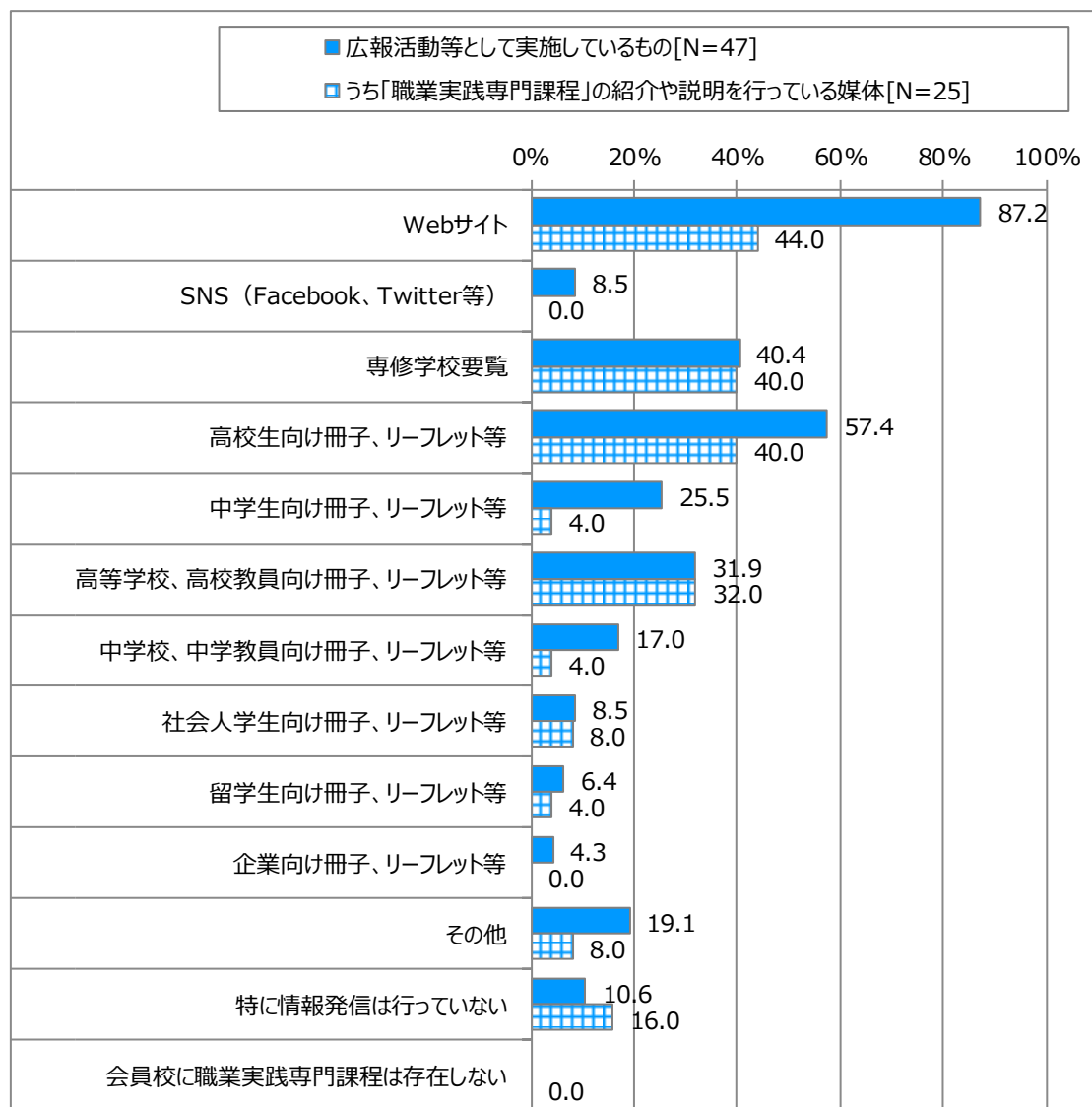


図 2-84 作成・運営している広報媒体 (Q6)

【「その他」の回答の一例】

- 対象を絞らない広報媒体
 - ✓ 進学ガイド
 - ✓ 会報
- 他の対象に対する広報媒体
 - ✓ 会員校名簿等を全高校の他、県内全図書館に送付
 - ✓ 日本語学校向け出前授業リーフレット

- 情報発信を行っていない理由について、「情報発信を行う必要性を感じるが、予算がない」が上位であった。

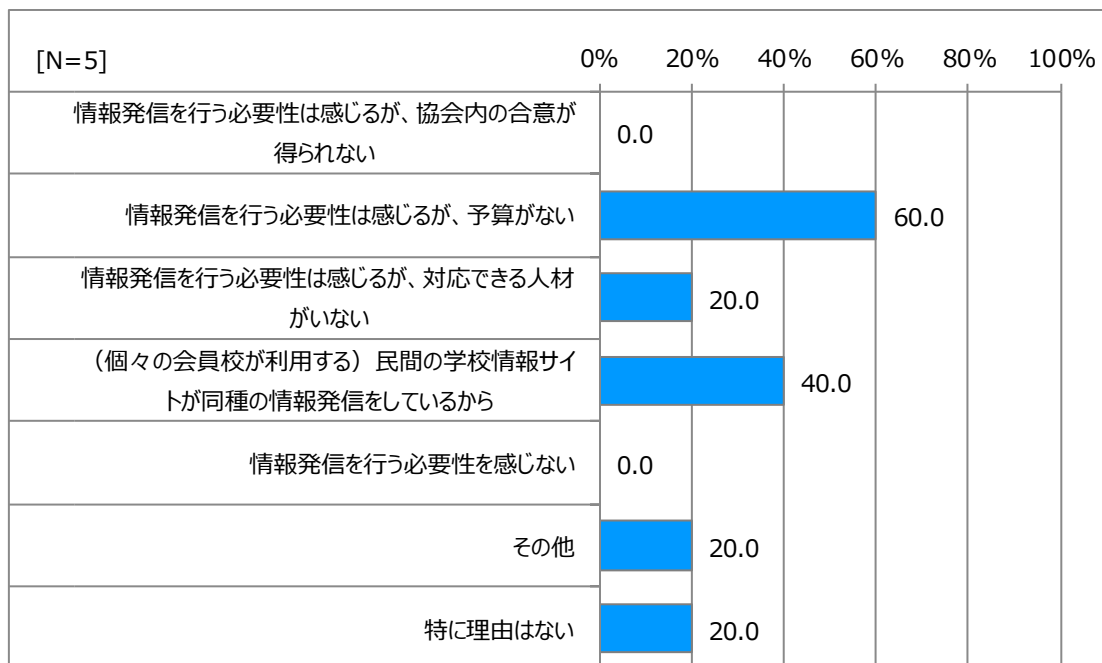


図 2-85 情報発信を行っていない主な理由 (Q6で「特に情報発信を行っていない」と回答した協会のみ) (Q7)

- 実施している職業教育・専修学校教育に関する説明会等について、「高校生向け職業教育（出前授業等）」「中学生向け職業教育（出前授業等）」「高校教員向けセミナー・説明会（個々の専修学校の紹介をしないもの）」が上位であった。
- 一方、中高生の保護者向けのセミナー・説明会を行っている協会は2.2%であった。



図 2-86 実施している職業教育・専修学校教育に関する説明会等（Q8）

【「その他」の回答の一例】

- 進学相談会（高校生向け）
- 高等専修学校展（中学生向け）
- 対象を絞らず無料開催している講演会、学校説明会

(4) Web サイトでの情報発信について

- Web サイトにおいて個々の専修学校の紹介を行っている協会は、86.0%であった。その中で協会会員校全校の紹介を行っているのは 86.1%であった。
- 個々の専修学校の掲載情報は「専修学校 Web サイト URL 等」「扱っている分野・職種」「住所」が上位であった。その他、「入試形態」は 19.4%、「学費」は 22.2%、「資格・免許の合格状況」は 5.6%、「就職実績」は 19.4%、「学校評価情報公開状況」は 2.8%であった。
- Web サイトを 1 ヶ月に 1 回以上更新している協会は、26.8%であった。

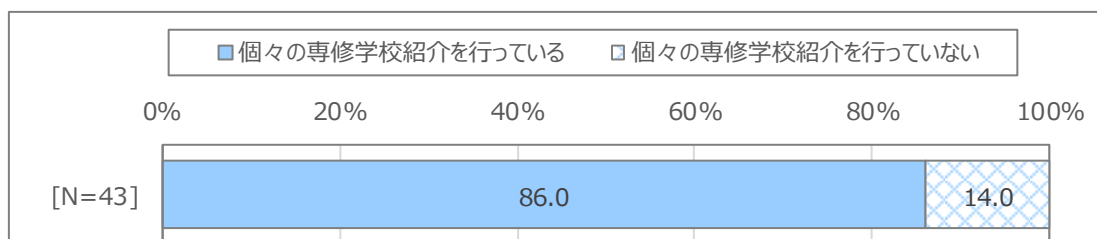


図 2-87 Web サイトにおける、個々の専修学校の紹介有無 (Q9)

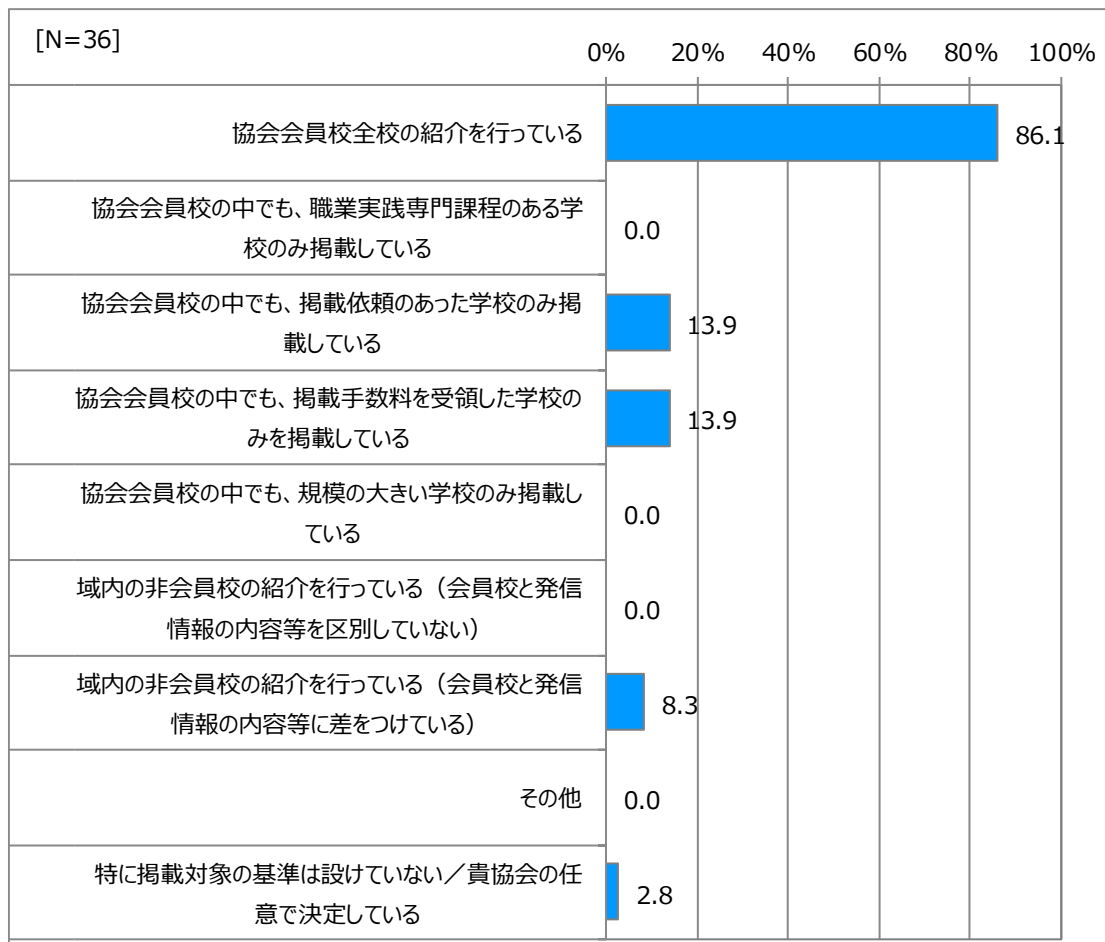


図 2-88 Web サイトの掲載対象校（Q9で「個々の専修学校紹介を行っている」と回答した協会のみ）（Q10）

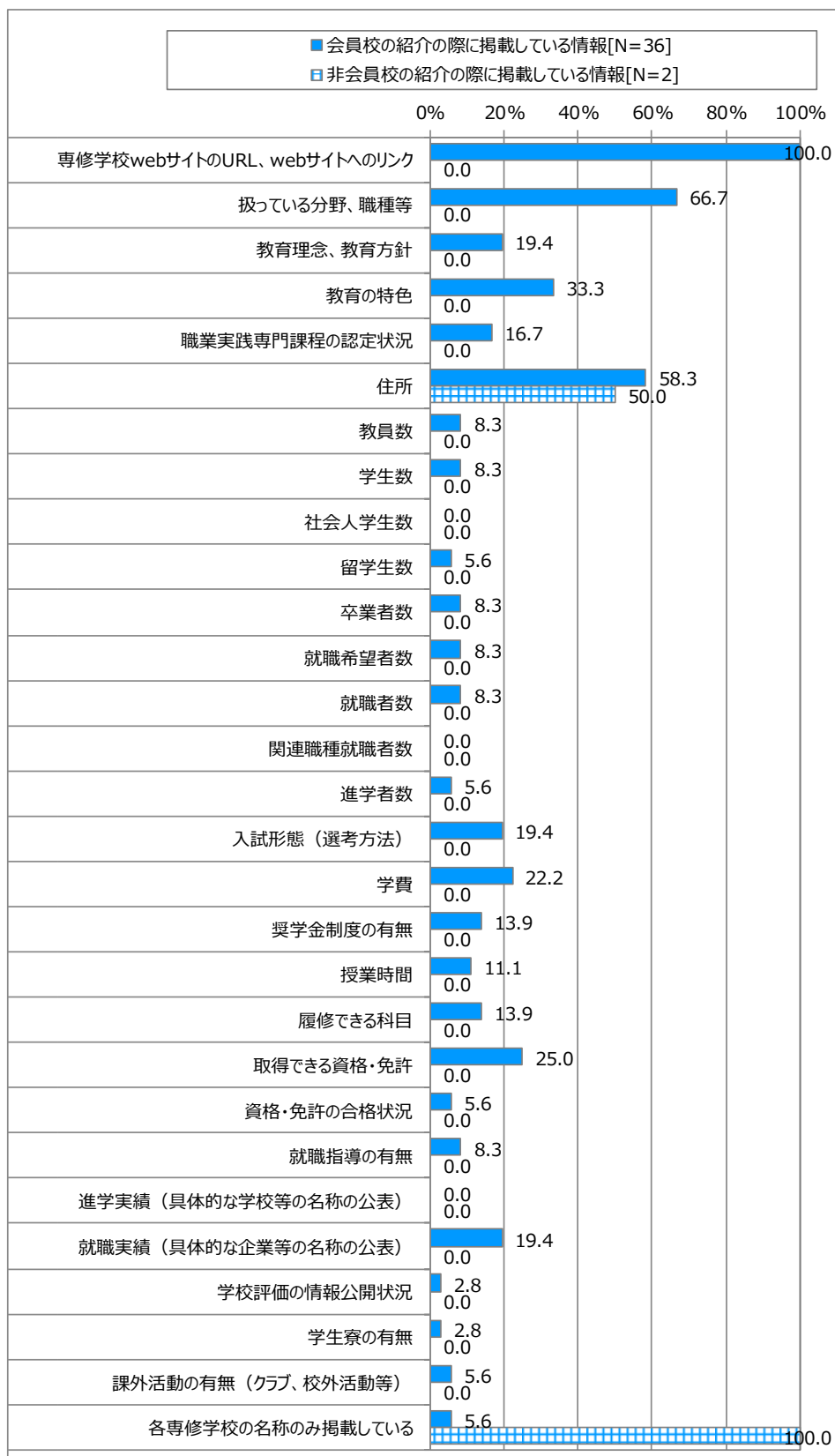


図 2-89 個々の専修学校に関する Web サイト掲載情報（Q9で「個々の専修学校紹介を行っている」と回答した協会のみ）（Q11）

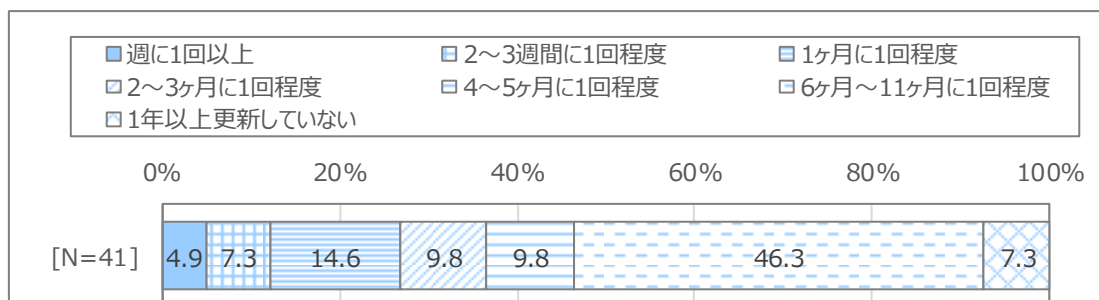


図 2-90 Web サイトの更新頻度 (Q12)

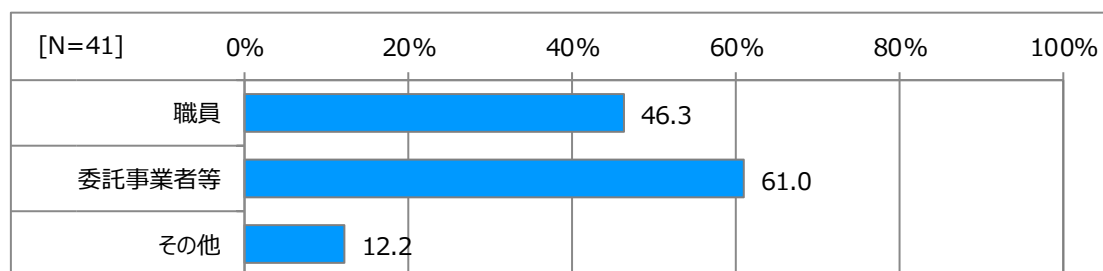


図 2-91 Web サイトの更新者 (Q13)

【「その他」の回答の一例】

- 各専修学校の担当者が自校分のみ更新
- 会員校担当者
- 会長

(5) 専修学校要覧について

- 専修学校要覧の掲載対象校は、「協会会員校全校の紹介を行っている」「協会会員校の中でも、掲載依頼のあった学校のみ掲載している」が上位であった。
- 個々の専修学校の掲載情報は「専修学校 Web サイト URL 等」「住所」「扱っている分野・職種」「取得できる免許・資格」が上位であった。その他、「入試形態」は 50.0%、「学費」は 70.0%、「資格・免許の合格状況」は 20.0%、「就職実績」は 50.0%、「学校評価情報公開状況」は 5.0%であった。
- 専修学校要覧の 1 次配布先は「高等学校」「専修学校」が上位であった。

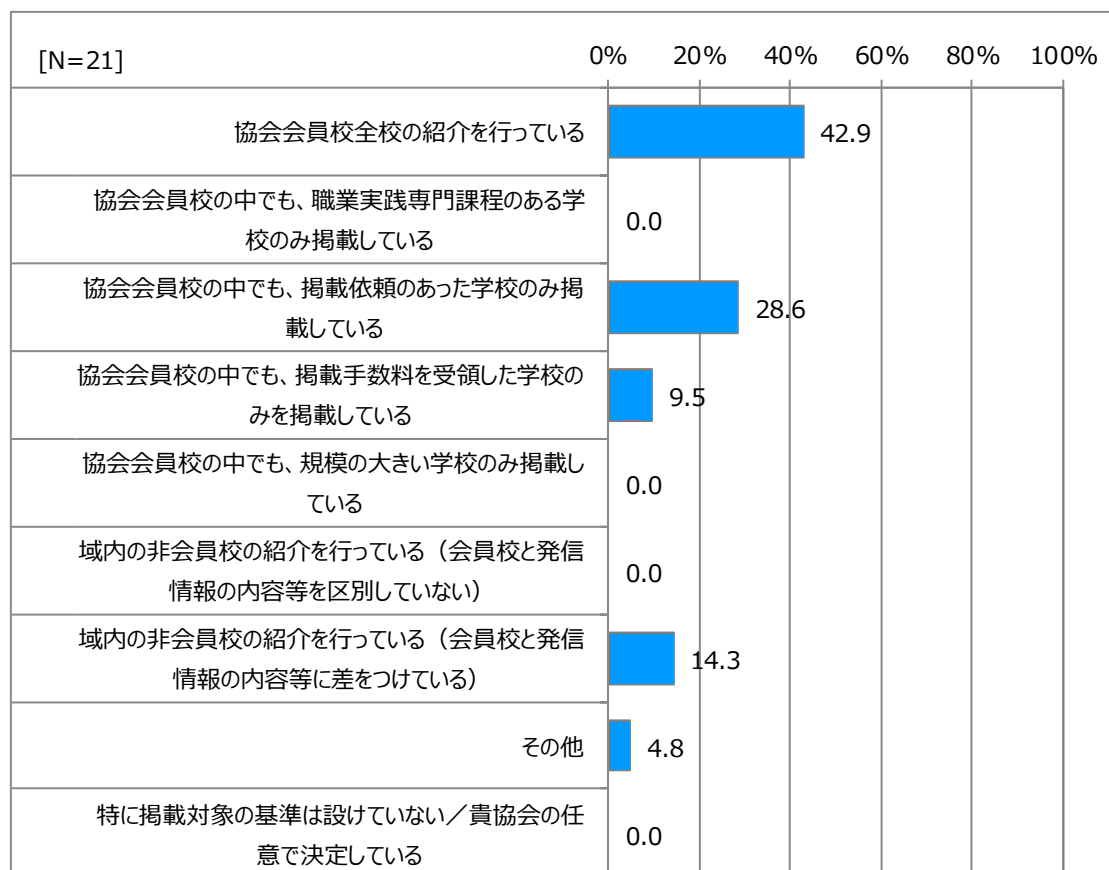


図 2-92 専修学校要覧の掲載対象校 (Q14)

【「その他」の回答の一例】

- 手数料を受領した学校を中心。その他は名簿掲載として校名、住所、分野、学科、定員を掲載している。

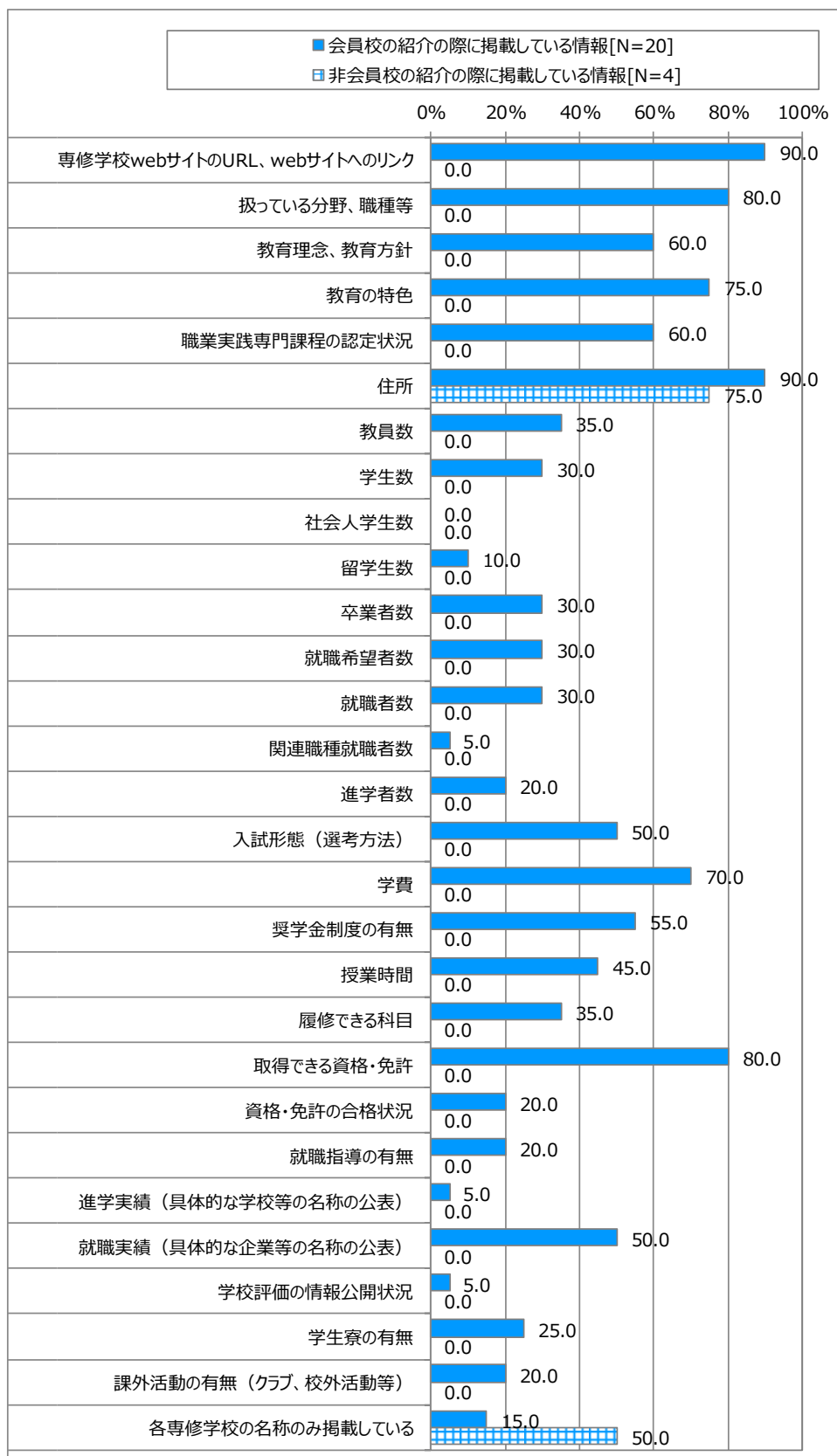


図 2-93 個々の専修学校に関する専修学校要覧掲載情報（Q15）

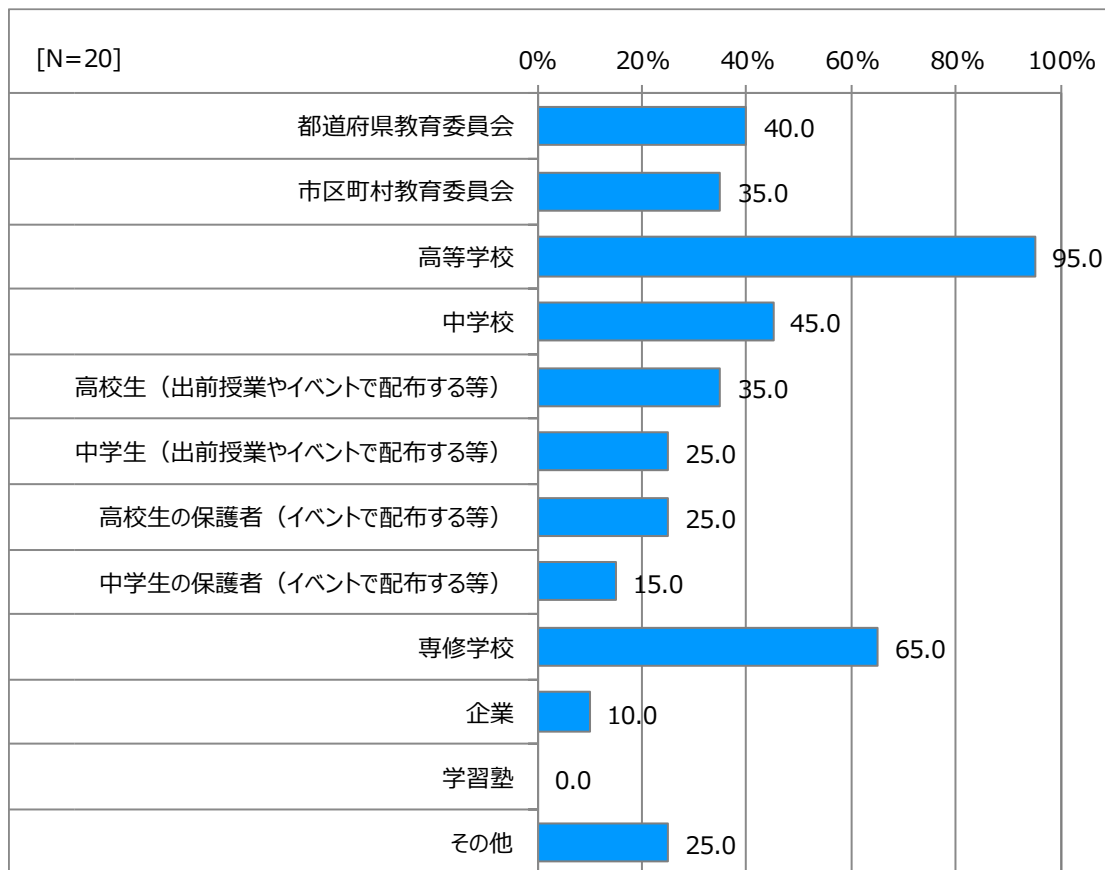


図 2-94 専修学校要覧の1次配布先 (Q16)

【「その他」の回答の一例】

- 県立図書館、許可を得た自動車教習所、他希望者
- 一般・県立図書館等

(6) 地域の教育委員会、中学校・高等学校の進路指導関連団体との連携状況について

● 連携対象としては「高等学校の進路指導研究会等の教員」が 47 協会中 32 協会と最も多く、その中で「連携対象主催の研修・会議（進路指導会議等）での説明時間の確保依頼」が 85.7%で最も多かった。

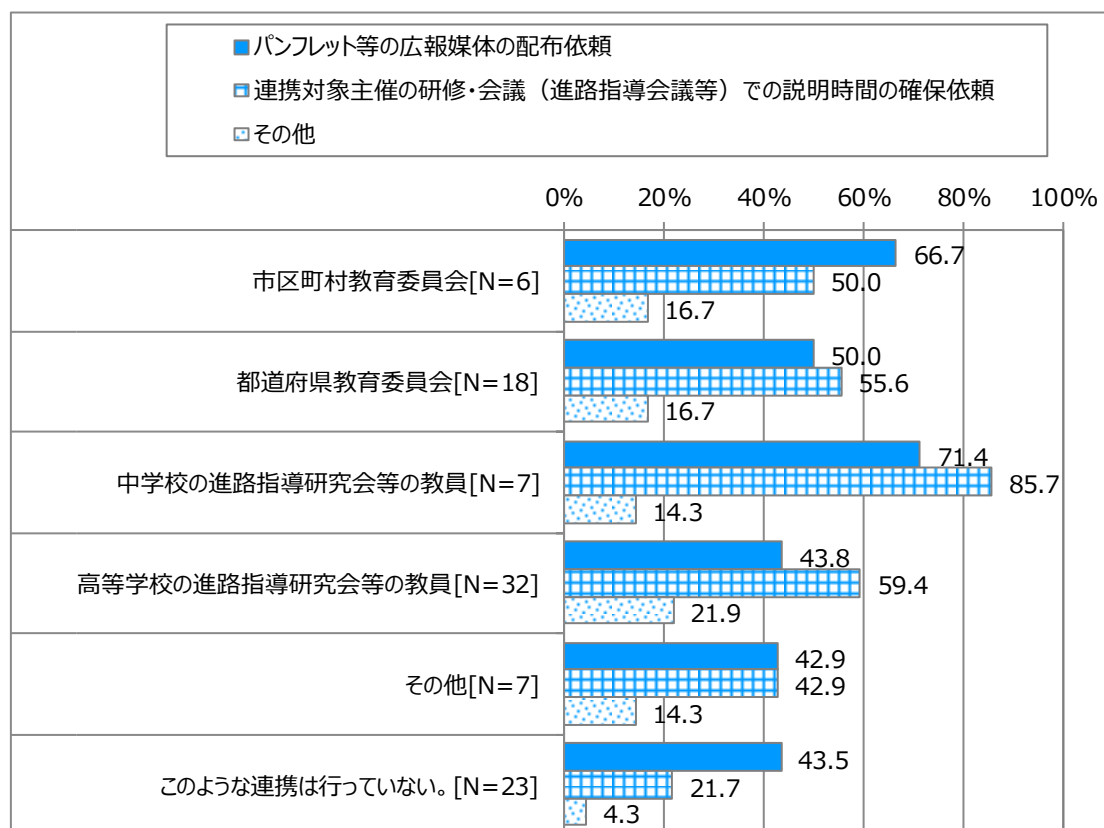


図 2-95 連携対象及び連携対象との連携方法 (Q17)

【「その他の連携先」の回答の一例】

- 高等学校長協会
- 公共施設等

【「その他の連携方法」の回答の一例】

- 《都道府県・市区町村教育委員会との連携》イベントや事業実施に伴う後援
- 《高等学校進路指導研究会教員との連携》合同協議会を共催で実施
- 《高等学校進路指導研究会教員との連携》進路セミナー研修会、専門学視察会への参加案内
- 《高等学校進路指導研究会教員との連携》高等学校と専修学校の進路指導連絡協議会の設置。年2回協議会を開催。

(7) 情報発信上の課題について

● 情報発信上の課題について、「高校生への広報機会、広報手段が限定的である」「工法に関する専修学校との連携がとりにくい」がいずれも 43.2%で上位であった。

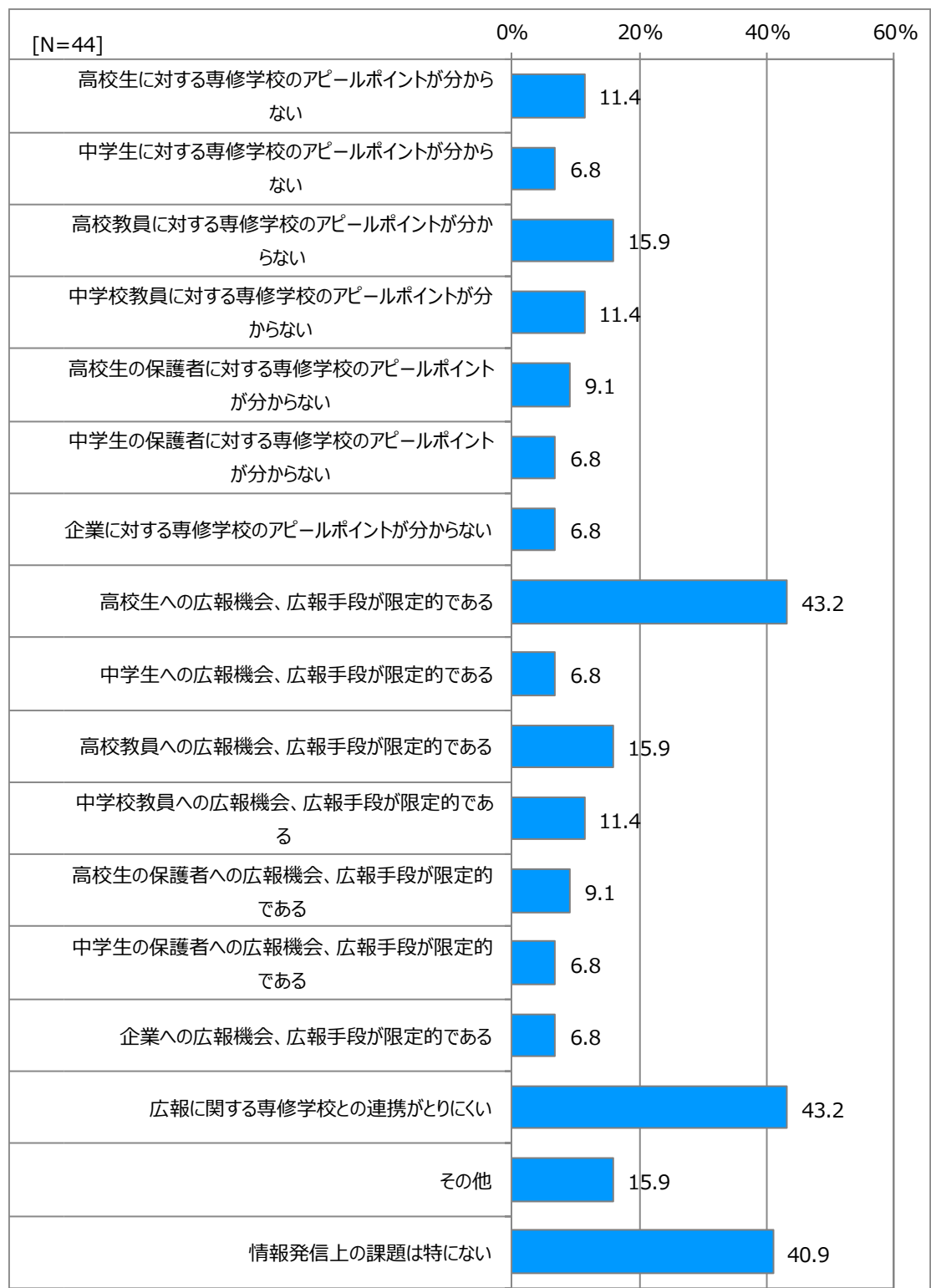


図 2-96 情報発信上の課題 (Q19)

(8) 情報発信のルール等（自由記述）

情報発信のルール等については「発行物等での情報発信上のルール・工夫」「説明会等での情報発信上のルール・工夫」「AO 入試に関するルール・工夫」の3つに大別された。特にAO入試については、47協会のうち17協会が独自のルールを設ける等の工夫を行っていた。

1) 発行物等での情報発信上のルール・工夫（回答例）

- 協会からの発行物や実施事業では個々の学校のPR色が強くなることのないよう専門学校・各種学校全体の啓蒙活動として情報を発信するようにしている。
- 専修学校、各種学校の表示に関する自主規約
- 専修学校要覧の用語統一
- 専修学校各種学校の広告等表示に関する自主規約を定めている。

2) 説明会等での情報発信上のルール・工夫（回答例）

- キャリア教育推進委員会の加盟校が各高校を回って日程調整し協会内のルールを守り、教育の一環として高校における学校説明会を行うよう努力している。

3) AO入試に関するルール・工夫（回答例）

- 「専門学校版AO入試」導入と学生募集時期に関する確認事項の変更についてのお願い
- 平成21年11月に協会加盟校に対しAO入試事務手続き（実施時期等）を周知している
- 本協会では昨年AO入試のルールづくりを行い、高校の進路指導研究協議会報告した。平成29年度から28校中12校がAO入試を実施することとなった。

(9) 情報発信・広報活動に関する要望・意見等（一例）

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">● 中、高校生対象のパンフレット及び事業を実施しているがまず担当となる先生方の興味・理解が得られておらず、生徒への情報が届きにくい。先生方に関心を持ってもらうことが課題。● 広報活動について、産業界と連携して取組が必要と思うが、難しい現況。 |
|---|

2.4.3 インタビュー調査概要

(1) 目的

各都道府県協会で行われている情報発信における先進的な取組に関して、当該取組の内容、実施に至った経緯、直面している課題、得られた効果等を把握・分析することにより、本事業で作成している「専修学校の魅力を訴求する戦略とアクションプラン」の充実化を図る。

(2) 調査対象

ヒアリング調査対象は、以下である。

- 福島県専修学校各種学校連合会（以下、福島専各）
- 東京都専修学校各種学校協会（以下、東専各）
- 富山県専修学校各種学校連合会（以下、富山専各）
- 山口県専修学校各種学校協会（以下、山口専各）
- 福岡県専修学校各種学校協会（以下、福岡専各）

表 2-2 ヒアリング対象の都道府県協会概要

	協会会員校数				職員数			
	専門 課程	高等 課程	一般 課程	各種 学校	専任		兼任	
					常勤	非常勤	常勤	非常勤
福島専各	30	8	6	3	0	1	1	0
東専各	302	32	11	30	7	0	1	0
富山専各	12	1	0	6	1	0	1	0
山口専各	16	3	0	3	0	0	2	0
福岡専各	96	2	1	4	3	0	0	0

(3) 調査対象選定理由及び調査内容

情報発信における先進的な取組を以下のように定義し、アンケート調査結果から以下の定義に該当する都道府県協会を選出した。

- 多様なステークホルダーに対する情報発信
- イベントにおける特徴的な情報発信
- Web サイトにおける特徴的な情報発信
- 専修学校要覧における特徴的な情報発信
- 他機関と連携した情報発信

上記の定義に該当する都道府県協会は、以下のとおりである。

表 2-3 特徴的な取組を行う都道府県

	該当する都道府県
多様なステークホルダー	宮城県、福島県、東京都、香川県、沖縄県
イベント	北海道、宮城県、富山県、東京都、神奈川県、山梨県、愛知県、山口県
Web サイト	埼玉県、東京都、大阪府、福岡県
専修学校要覧	北海道、東京都、愛知県、京都府、大阪府、福岡県
他機関との連携	東京都、愛知県、兵庫県、福岡県

上記の都道府県協会の中から、以下の観点をもとに調査対象を選定した。

- 複数の先進的な取組が行われている都道府県協会を優先的に選定
- 複数の先進的な取組が行われていない場合でも、他に類を見ない取組や、よく指摘されるような情報発信上の課題を克服し得る取組を行っている都道府県協会を優先的に選定
- 専門学校が多く存在する都道府県と、そうでない都道府県の協会をバランスよく選定

最終的にインタビュー対象とした都道府県と、特徴的な取組の定義との対応関係は下表のとおりである。

表 2-4 各インタビュー調査対象が実施する特徴的な取組¹¹

	福島県	富山県	東京都	山口県	福岡県
多様なステークホルダー	○		○		
イベント		○	○	○	
Web サイト			○		○
専修学校要覧			○		○
他機関との連携			○		○

2.4.4 インタビュー調査結果

(1) 特徴的な取組

1) 多様なステークホルダーに対する情報発信

a 各ステークホルダーへの適切な媒体を使った情報発信（東専各）

東専各は、外国人留学生に対する情報発信として **Facebook** アカウントを開設し、外国人留学生向け就職合同説明会等の情報発信を行っている。当初この取組は、外国人留学生同士

¹¹ 「○」印は、各都道府県協会が実施している先進的な取組を指す。

での Facebook における交流が活発であることを踏まえて開始したが、最近では協会事業全般の情報提供も行い、高校教員からのアクセスも多くなってきている。また、その他の SNS として、今年度より Twitter のアカウントも開設している。開設の理由は、①Twitter をよく使用していると考えられる高校生に対する情報発信を行うため、また②高校生、保護者、大学生、留学生等の様々なステークホルダーからのアクセスを解析するため、の 2 点である。特に②については、各ステークホルダーからのアクセスを解析することによって、今後の適切な情報発信方法を検討していきたい、というコメントが聞かれた。

また、東専各は数年前まで学生向けの広報冊子、保護者・高校教員向けの広報冊子に分けて作成・発行していたが、学生はスマートフォンを使って情報収集している傾向があることから、学生向け広報冊子を廃止し、Web サイトでの情報発信に注力することにしている。一方、保護者や高校教員に対しては紙媒体が有効であるため、引き続き、広報冊子の作成を行っている。

中学生、中学校教員向けの情報発信としては、高等専修学校に関する情報発信の他に、中学校からの依頼に応じて出前授業を年 10 回程度実施している。

b 小学校を対象とした出前授業の実施、高校を対象とした職業教育冊子の作成(福島専各)

福島専各では、福島県被災専修学校等復興支援事業として、専門学校の協力のもと、小中学校向けに出前講座を実施している。工業・衛生・医療・教育社会福祉・商業実務・服飾の分野から計 27 の職業体験講座を出前形式で開講しており¹²、申込の多くは小学校からである。参加費は、材料費等も含めて福島専各が負担するため、出前先の小学校・中学校の経費負担はない。なお、専門学校は自己負担で教員派遣を行っている。

一方、高校生に対しては同様の事業として「あなたにとって『働く』ってどういうこと？」という 170 ページ程度の職業教育冊子を 2011 年から作成・無償配布している。基本的に、中学校には 1 冊ずつ、高校にはクラスに 1 冊ずつ配布されている。

2) イベントにおける特徴的な情報発信

a 高校対象のキャリア講師派遣(東専各)

東専各では、平成 27 年度から高校を対象にキャリア講師派遣を行っている。専門学校教職員の他、在學生や卒業生に講師を依頼し、専門学校を選択するに至った経緯等を話してもらうものである。平成 29 年度は都立高校 7 校に対して実施し、実施後アンケートにおいて、進路選択の参考になったとの声が聞かれている。また、このような取組を行う中で高校教員の理解が深まる副次的効果も期待している。

専門学校に協力依頼を行う際は、このような取組を行うことで学校側のアピールに繋がることが伝えるが、専門学校の宣伝としての色が強くなりすぎないように注意している。また、高校から専門学校への直接の依頼ではなく、東専各が依頼をとりまとめるようにしていることも、宣伝の色を抑える効果につながっているとのことであった。

¹² 実施されている全 27 講座は、福島専各 web ページから確認することができる。

http://www.fukushima-senkaku.or.jp/demaeKouza/chirashi_rear.pdf (2018 年 3 月 7 日閲覧)

b 「職業教育の日」の記念事業として実施する職業体験イベント（富山専各）

富山専各では、平成 19 年度より「職業教育の日」である 7 月 11 日の記念事業として職業体験のイベントを実施している。イベントの目的を「職業を知ってもらう」とし、広く一般を対象としている。

イベントは、夏休み期間中に、県内の参加専修学校で開催する。当日の先生役は専修学校の教員である。費用については、一部県から補助が出ているが、富山専各の会員校より経費を徴収して運営している。開催に向けた学校間の調整や申込管理・問い合わせ対応は富山専各で実施し、当日の運営は学校側で行う。

実施プログラムは、開始当初は学校間の重複や参加者側のニーズを踏まえて専各が調整していたが、現在はほぼ固定となっている。開始後 3 年目から参加申込も安定しはじめ、現在は平均して定員に対して申込が 3 倍、という状況である。講座によって定員が異なるため、講座ごとに抽選を実施して当日の参加者を決定している。当落の判断時に、申込者の属性は見えていないため、結果として小学生ばかり、大人のみ、ということもある。

富山専各の把握している範囲では、年代を問わず人気のある講座はパン職人体験であり、10 倍の申込があった。小学生については、女子は美容系の講座、男子は食品やゲーム等の講座が人気で、夏休みの自由研究として活用している家庭もあるらしいとのコメントがあった。10 年実施していることもあり、体験をきっかけに、体験先の学校に進学した児童生徒もいる。

c 学校・自治体・産業界が一体となつて行う学校体験・職業体験イベント（山口専各）

山口専各では、高校生を対象に「県内 進学・仕事 魅力発信フェア in やまぐち」を開催している。本イベントは、山口県が周辺の県に比べ県内進学率が低い¹³ことに課題意識を持った山口専各が、山口県に提案することにより平成 25 年度に初めて実現し、現在までに 5 回実施している。本イベントの特徴は、専門学校他に大学、短期大学、各種学校も参加していること、山口県（総務部学事文書課、教育庁高校教育課）が本イベントの実行委員会に参加している点にある。開始当初は、参加した高校数が 12 校（参加者は 1,065 名）、企業紹介を行った企業数が 10 社であったが、これらの数は年々増加し、平成 29 年度は、参加高校数 21 校（参加者は 2,068 名）、企業紹介を行った企業数は 38 社であった。

イベント当日は、県内の参加高校（主に進路多様校）から 50 台を超えるバスで来場する。会場は大きく 7 つのエリアに分かれており、専修学校・大学・短期大学・各種学校の講義・実習等を各ブースで体験できる「学校体験コーナー」、企業の方から魅力ややりがいを知ることのできる「仕事紹介コーナー」、仕事の内容を実際に体験できる「仕事体験コーナー」、県内の専修学校・各種学校・短期大学・大学の紹介・入学案内を行っている「学校案内コーナー」、専修学校・各種学校・大学・短期大学の魅力のプレゼンテーションを行っている「学校魅力発信ステージ」、仕事に就くための進路や必要な資格・免許等についての相談ができる「進路相談コーナー」、各企業の紹介を知ることのできる「企業紹介コーナー」がある。

¹³ 学校基本調査を基に山口県が集計したデータ（インタビュー調査時に受領した資料）によると、平成 29 年度の県内進学率（県内高校から大学、短期大学に進学した割合）は、岡山県が 47.1%、広島県が 53.0%であるのに対し、山口県は 27.5%である。

3) Web サイト、専修学校要覧における特徴的な情報発信¹⁴

a 高校教員からのニーズに基づいた情報掲載（東専各）

東専各は、Web サイト及び専門学校概要において、各学校の卒業生の就職希望者数、就職者数、進学者数等の数値を公開している（公開するか否かは、各学校の判断による）。これらの数値の公開は、高校教員からのニーズに基づいて 3 年前から実施しており、現在でも継続的に高校教員からニーズを吸い上げて掲載項目に反映している。最近は学校評価の結果を公開するニーズが強かったため、掲載項目に「学校評価情報公開」を追加した。

また、掲載している情報に対する信憑性を向上させるため、用語統一のためのルールや、学校から情報を提供してもらう様式の記入要領等を策定している。

b 各専門学校における就職実績、進学実績等の公開（福岡専各）

福岡専各が発行している「福岡県専門学校案内」は、各学校の紹介が統一フォーマットに従って行われており比較が行いやすいように工夫されている。その中で特に特徴的なのは、各学校の就職・進学実績として「卒業生数」「就職希望者数」「関連職種就職者数」「関連職種アルバイト者数」「進学者数」を公開している。また、公務員試験の受験の指導を実施している専門学校は「卒業生数」「公務員試験受験者数」「公務員 1 次試験合格者数」「公務員最終合格者数」を公開している。

このような取組は、福岡専各が福岡県高等学校進路指導研究協議会（以下、福岡県高進協）事務局を訪問し、専門学校案内に対する要望をヒアリングした際、専門学校の広報に偏らない信頼できる冊子がほしいとの意見が聞かれたことにより、平成 24 年度に実現した。就職・進学実績等の欄の記載は、各専門学校の任意とし、初年度は約半数の専門学校が記載していた。しかし 2 年目は 7 割、3 年目は 8 割強、4 年目は 9 割強と増加し、現在は全ての専門学校が記載している。福岡専各は要因を、掲載希望校を集めた「専門学校案内発刊説明会」において、福岡県高進協の事務局から「高校側としてはこの情報を大変重視している」という主旨の挨拶を毎回いただくことであると認識していた。

また「福岡県専門学校案内」に掲載している情報は、以前は Web サイトと異なるものであった。しかし現在は、閲覧側が混乱しないよう、各専門学校から受け取った同一の情報を基にして「福岡県専門学校案内」及び Web サイトを作成している。

4) 他機関と連携した情報発信

a 高等学校の進路指導研究会との連携（東専各）

高等学校の進路指導研究会と連携して「専門学校研究協議会」等のイベントを開催している。「専修学校研究協議会」は、年に一度、アンケートで高校教員の興味関心の高い分野を取り上げ、当該分野の専門学校教員から、当該分野の特徴、就職先、業界の現状等を説明す

¹⁴ 「2.4.3 インタビュー調査概要」では、web サイトと専修学校要覧を分けて記載していたが、インタビュー調査を実施した東専各及び福岡専各は、いずれも web サイトと専修学校要覧の取組が関連づいていたため、1 つの項目にまとめて記載している。

るイベントである。最近ではデザイン分野、旅行分野、建築分野等を取り上げている。教育庁の周知協力を得て実施している「専門学校セミナー」は、進路指導担当の高校教員を対象に、東専各の協会校から各分野の特徴を説明するイベントである。これらのイベントに参加する教員は、進路多様校の進路指導担当教員がほとんどであるが、大学を主たる進路とする高校の教員も参加している。

※福岡専各も「2.4.4 (1)3) Web サイト、専修学校要覧における特徴的な情報発信」に記載したような取組を行うことで、福岡県高進協との連携を図っている。

(2) 情報発信上の課題

1) 情報発信側に関する課題

- 専門学校に入学している生徒の約 65%は高校新卒であるので、情報発信の対象が高校生に偏る傾向にあり、社会人向けの情報提供が手薄になってしまう。【東専各】
- 教育委員会との連携は、パンフレット等の広報媒体の配布依頼の他、教員対象の研修時間も確保してもらっているが、説明時間は5分程度に留まっている。【東専各】
- イベント開始初期は、講座を提供してくれる学校集めが大変だったが、現在は、県内の専修学校が廃校などの影響により減少傾向にあるため、学校集めが難しくなっている。【富山専各】
- 協力いただく学校には、経費も含めて負担をお願いしている部分がある。専各の職員が少ないこともあり、限られたスタッフで全ての事務を対応することは厳しい。【富山専各】
- 専修学校要覧や Web サイトは、掲載校の負担金により運営している。これらの媒体の広報効果を把握したいが、その効果把握方法を確立できていない。【福岡専各】

2) 情報の受け手側に関する課題

- 都立高校の進路指導は教員個人の知識に頼る部分もあり、担当教員が異動するとその高校からイベント出席がなくなる等のケースが存在する。【東専各】
- 夏休みに実施していることもあり、大会や部活が忙しい中高生の参加が相対的に少ない。また、高校生に対しての専修学校、各種学校の広報は厳しい状況にある。【富山専各】
- 福島専各で実施している出前授業は小中学校を対象としているが、中学生の時間割にゆとりがなくキャリア教育の重要性を理解しているものの参加が少なく残念である。【福島専各】

3. 情報発信の戦略及びアクションプランの検討

2. の調査結果、「社会のニーズにこたえる効果的な情報発信の推進検討会議」での議論を踏まえて、情報発信のための戦略及びアクションプランの検討を行った。検討した戦略及びアクションプランは参考資料としている。

まず、戦略では、情報発信によってどのような姿を目指すのか、それに対して、現状ではどのような課題があり、解決しなければならないのかを明確にした上で、どのようなターゲットに重点化し、何を訴求するか、どのような情報発信手法が考えられるかを整理した。

情報発信の対象と考える高校生、高校教員等は百万人規模の大きな集団であり、漫然と情報発信を行っても効果が期待できない。そこで、専修学校に進学するまでの意思決定プロセスや、STP (Segmentation、Targeting、Positioning) を明確にして、費用対効果が高い情報発信を行うよう留意した。

次にアクションプランとして、各々の情報発信手法別に、誰が何をいつまでに実施するのかを具体化した。戦略で示したターゲットと訴求点との関連を念頭に、効果検証方法(項目)についても示している。

戦略及びアクションプランについては平成 30 年度以降も効果検証結果を反映し、改善と具体化を進めることが必要である。

4. 情報発信素材の収集及び広報ツールの作成・評価

前章までの方向性を踏まえて、広報ツールを作成するための素材を収集・整理し、広報ツールを作成した。

4.1 広報ツールの作成方針

作成する広報ツールは、検討会議の議論を踏まえて作成内容を決定した。委員会での議論を踏まえ、今年度は高校生向け、高校教員向けに専門学校に関する資料を作成した。

委員会での議論において、広報ツールについては次の指摘があった。

- ・高校生に向けた「学校紹介」を目的としたツールは、学校が独自に作成していることもあり、既に流通している。
- ・教諭向けの資料も同様に多種多様なツールが作成されており、全てを活用することが難しい。進路に悩む高校生が最初に相談する「クラス担任教諭」等、専修学校に対する知識が豊富でない教師に資料が到達していない。
- ・「専修学校」という学校種に着目した広報ツールが少ない。学校種の魅力や意義、教育方法の特徴を整理して伝えているものがない。

上記指摘を踏まえ、本事業では以下の編集方針で広報ツールを作成することとした。

表 4-1 広報ツール編集方針

作成目的	<ul style="list-style-type: none">・ <u>専門学校種の理解を促進する</u>・ 専門学校ならではの学びの魅力を伝える・ 専門学校の教育コンテンツと教育の結果の結びつき（専門家として働く姿）を伝える・ 専門学校での職業教育によって将来のキャリアが広がることを伝える
想定する読者（受け手）	<ul style="list-style-type: none">・ <u>進路指導教諭以外の高校教諭（学年主任や専門学校志望者を持つ担任教諭）</u>を中心的な読者層とし、高校生が手に取ることも想定する
完成後の活用方法	<ul style="list-style-type: none">・ <u>使い方としては、専門学校に詳しくない高校教諭が自分自身で読むとともに、専門学校を志望する高校生に教諭が配布する（読むことを薦める）</u>などを想定する。・ 具体的な配布方法については、事業内で検討する魅力発信の戦略とアクションプランにおいて引き続き検討する。

4.2 広報ツールの内容

上記編集方針の下で作成した「高校生・高校教員向け広報ツール」の内容は、以下のとおりである。

表 4-2 広報ツール概要

タイトル	未来につながる専修学校 (教員向け：プロフェッショナルを育てる) (高校生向け：プロフェッショナルへの最初の一步)
体裁	<ul style="list-style-type: none"> ・ B5 タテ冊子形式 (カラー作成) ・ 56 ページ (表紙含む) ・ 高校生向けページを中心に、図表や写真を活用して、見やすいページ構成とする ・ Web サイトからの印刷時に「教諭用」「生徒用」として分冊での印刷も可能なページ構成とする

本広報ツールの作成においては、高校教員向け部分と高校生向け部分で分冊可能な体裁としたことを踏まえ、それぞれの掲載内容について、一貫性を持たせつつ異なる内容で作成することとした。

具体的には、高校教員向け部分については、

- ・ 専修学校への進学実態等、現在の高等教育における専修学校の位置づけの整理
- ・ 専修学校の学びの意義や特徴の紹介
- ・ 専修学校の教育内容の紹介

等、専修学校が専門家を育成する機関であることを前提に、「専修学校の教育内容」に着目した内容を掲載することとした。詳細は以下のとおりである。

表 4-3 高校教員向け掲載内容

掲載内容	具体的な記載内容
① 専修学校の意義	<ul style="list-style-type: none"> ・ プロフェッショナルを育てる場所であること ・ 大学との違いを説明する ・ 専修学校への進学割合 (2割) 等、現在の専修学校を取り巻く環境を説明する。
② 専修学校のカリキュラム	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専修学校での授業内容を紹介する。 ・ 特徴的なカリキュラムを4職種について掲載する。
③ 専修学校の教育の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・ 就職先となる各業界と学校の連携 ・ 入学から就職までの手厚いサポート ・ 人間教育 等、専修学校で実施される教育の特徴を紹介する

②専門学校のカリキュラムについては、委員会での議論を踏まえて、掲載する4職種を選定した。また、掲載にあたっては、新規に各分野一校に取材を実施した。

表 4-4 「専門学校のカリキュラム」掲載職業一覧

掲載する職業	選定の理由	取材先
保育士	<ul style="list-style-type: none"> ・国家資格を必要とする職業である ・専修学校においては、2年制を基本とし、資格取得を目指す分野である ・女子の進学が多い 	竹早学園 竹早教員保育士養成所
自動車整備士	<ul style="list-style-type: none"> ・国家資格を必要とする職業である ・専修学校においては2年制を基本とするが4年制でより難関資格にも挑戦できる分野である ・男子の進学が多い 	学校法人日栄学園 日本自動車大学校
ファッションデザイナー	<ul style="list-style-type: none"> ・国家資格を要しない職業である ・専修学校においては2年制を基本とする ・専修学校ごとに授業内容に特徴がある分野であり、企業との連携も行われている 	学校法人上田学園 上田安子服飾専門学校
技術者	<ul style="list-style-type: none"> ・国家資格を要しない職業である ・専修学校においては、2年制を基本とする ・専修学校ごとに授業内容に特徴がある分野で、民間資格の取得を支援することもある 	学校法人片柳学園 日本工学院専門学校

②専門学校のカリキュラムの広報ツールの掲載内容は、以下のとおりである。

表 4-5 「専門学校のカリキュラム」掲載内容一覧

掲載項目	掲載内容
目指す職業と就職先	<p>各職業を目指す際の基本的な情報を掲載する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目指す資格 ・目指す就職先
カリキュラム	<p>一般的なカリキュラムを基本に、取材学校の特色を紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容 ・実技／演習内容 ・課外活動・実習内容

専修学校の学びのポイント	取材学校によるコメントを紹介する。 ・学校取材内容
その他	取材学校の特徴的なカリキュラムを紹介する。 ・卒業生の声（保育士） ・イベント出展（自動車整備士） ・海外研修（ファッションデザイナー） ・産学連携（技術者）

高校生向け部分については、

- ・専修学校への「憧れ」を惹起するような卒業生の紹介
- ・専修学校卒業後のキャリアの多様性を紹介

の二点に着目し、専修学校卒業後の進路の多様性、活躍を紹介する冊子として作成することとした。詳細は以下のとおりである。

表 4-6 高校生向け掲載内容

掲載内容	具体的な記載内容
① トップランナーインタビュー	・各分野で活躍する卒業生のインタビューを掲載する
② 専門学校卒業生 100 人のキャリア事例	・本事業で実施した卒業生向けアンケート調査の結果及び卒業生インタビューをもとに、8 分野 100 名のキャリアリストを掲載する

①トップランナーインタビューについては、委員会での議論の結果、以下の 4 名について取材を実施した。

表 4-7 掲載卒業生一覧

氏名	職業	所属	卒業学校	選定理由
後藤 純 氏	カーデザイナー	株式会社本田技術研究所 四輪 R&D センター デザイン室 1 スタジオ 主任研究員	学校法人滋慶学園 東京コミュニケーションアート専門 門学校 自動車デザイン科	・世界的に活躍するカーデザイナーであること
野島 洋平氏	システムエンジニア	富士通株式会社 社会インフラビジネスグループ 第四システム事業本部 第一ソリューション事業部 第四ソリューション部	日本電子専門学校 情報処理科	・企業に所属して会社員として活躍されていること
喜田 健一氏	パティシエ	グランドハイアット福岡 副料理長 ペストリーシェフ	中村調理製菓専門学校 製菓技術科	・海外留学の経験をお持ちであること ・マネジメントを担当する職位であること
横山 正吾氏	スポーツトレーナー	テニスナショナルチーム トレーナー (フリーランス)	学校法人・専修学校 大阪社会体育専門学校 アスレティックトレーナーコース	・フリーランスで活躍されていること

広報ツールにおける、①トップランナーインタビューの掲載内容は以下のとおりである。

表 4-8 トップランナーインタビュー掲載内容一覧

掲載項目	掲載内容
現在の職業	現在の業務内容について掲載する
キャリアパスについて	現在の職業までのキャリアパスを掲載する <ul style="list-style-type: none"> ・現在の仕事を選択した理由 ・専修学校入学時から取材時現在までのキャリアステップ
専修学校の学びについて	卒業専修学校での生活を掲載する <ul style="list-style-type: none"> ・卒業学校を選択した理由 ・卒業学校で学んだこと

②100人専門学校卒業生100人のキャリア事例については、本報告書2.1に記載した卒業生アンケート調査の自由回答をもとに調査事務局にて編集作業を行い、100名のリストを作成した。100名の選定にあたっては、

- ・現在の職業
- ・性別
- ・年齢（年代）

の分布と回答内容を考慮した。

分野別の掲載職業は、以下のとおりである。

表 4-9 専門学校卒業生100人のキャリア事例掲載職業一覧

分野	掲載人数	掲載する職業 (回答内容に準拠)
工業	14名	<ul style="list-style-type: none"> ・建築設計 ・建築現場監督 ・建設業 ・プロパティマネジメント ・エクステリアプランナー ・航空整備士 ・自動車整備士 ・自動車開発 ・CADオペレーター ・システムエンジニア ・プロジェクトマネジャー ・配管工 ・オペレーター
農業	7名	<ul style="list-style-type: none"> ・造園業

	※4名については、 別途卒業生インタビューを実施	<ul style="list-style-type: none"> ・養殖業 ・植物品質管理 ・スーパーマーケット勤務 ・フラワーショップ勤務 ・洋菓子工場勤務 ・研究員（大学院生）
医療	16名	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師 ・ケアマネジャー ・理学療法士 ・作業療法士 ・臨床検査技師 ・臨床工学技士 ・柔道整復師 ・鍼灸師 ・歯科衛生士 ・歯科技工士 ・保健師 ・視能訓練士 ・機能訓練指導員 ・診療放射線技師
衛生	13名	<ul style="list-style-type: none"> ・美容師 ・理容師 ・アイリスト ・美容部員 ・エステティシャン ・調理師 ・パティシエ ・食品開発 ・製菓製造卸 ・管理栄養士 ・カフェ勤務
教育・社会福祉	10名	<ul style="list-style-type: none"> ・保育士 ・介護福祉士 ・ケアマネジャー ・施設管理者 ・相談員 ・塾講師
商業実務	14名	<ul style="list-style-type: none"> ・銀行員 ・会計事務 ・経理事務 ・財務

		<ul style="list-style-type: none"> ・雑貨販売員 ・医療事務 ・空港スタッフ ・トラベルコンサルタント ・ホテルスタッフ ・鉄道勤務 ・ウェブディレクター ・システムエンジニア ・営業職 ・バイヤー
服飾・家政	11名	<ul style="list-style-type: none"> ・婦人服企画 ・ファッションアドバイザー ・アパレル販売員 ・生地販売員 ・アパレル生産管理 ・ハンドメイド作家 ・洋服修理 ・靴職人 ・化粧品販売
文化・教養	15名	<ul style="list-style-type: none"> ・テレビ番組編集 ・放送プレビュー業務 ・ミキシングエンジニア ・ステージライティングテクニシャン ・ナレーター ・ギタリスト ・新人開発プロデューサー ・ゲームプランナー ・ゲーム演出 ・グラフィックデザイナー ・印刷製版進行管理 ・動物看護師 ・消防官 ・雑貨販売員 ・スポーツインストラクター

掲載した項目は以下のとおりである。専修学校の学びについては、回答記述量や内容を考慮して、掲載内容を決定した。

表 4-10 専門学校卒業生 100 人のキャリア事例掲載内容一覧

掲載項目	掲載内容
属性情報	<ul style="list-style-type: none"> ・ 性別 ・ 年代
現在の仕事について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職業名 ・ 現在の仕事内容
専門学校の学びについて	<ul style="list-style-type: none"> ・ 在籍中に取得した資格 ・ 現在の仕事と専修学校での学びの関係 ・ 卒業学校を選択した理由 ・ 卒業学校での一番の思い出 ・ 進路選択のアドバイス

4.3 広報ツールの評価

広報ツールについては、全国専門学校各種学校総連合会、都道府県協会、都道府県及び指定都市（高等学校設置者のみ）教育委員会及びインタビュー協力校に配布するとともに、平成30年度に高校教員の意見を収集し、改善を図る予定である。

5. 参考資料

- 5.1 専修学校の魅力を訴求する戦略とアクションプラン（別添）
- 5.2 プロフェッショナルを育てる未来につながる専門学校（別添）
- 5.3 卒業生アンケート調査データ集（別添）

5.4 都道府県協会調査票

貴協会の基本的情報についてお尋ねします。

問1 貴協会名を教えてください。

協会名

問2 貴協会の職員数を教えてください。(数値入力)

専任職員数(常勤)	専任職員数(非常勤)	兼任職員数(常勤)	兼任職員数(非常勤)
人	人	人	人

※「常勤」とは、貴協会における常勤職員の勤務時間数を勤務(フルタイムで勤務)する場合を指し、「非常勤」とは、貴協会における常勤職員の勤務時間数に満たない(フルタイムの時間未満で勤務する)場合を指します。なお、他の私学団体又は専修学校・各種学校の職員と兼職し、双方の勤務時間を合わせると学校の常勤職員の勤務時間数となる場合は「兼任職員(常勤)」とします。

問3 貴協会において、広報や情報提供を主管とする会議体を設置していますか。(○はひとつ)

1.設置している(会議体名称:)
2.設置していない

問4 貴協会の会員校数を教えてください。(数値入力)

専修学校専門課程を有する学校	校
うち、職業実践専門課程を有する学校	校
専修学校高等課程を有する学校	校
専修学校一般課程を有する学校	校
各種学校	校

問5 2017年度の広報に使用できる予算を教えてください。(数値入力)

Webサイトの運営予算	万円
Webサイト以外(冊子作成やイベント開催)に使用できる予算	万円

貴協会として実施する広報活動・情報発信の状況についてお尋ねします。

問6 下記の中で、貴協会が作成・運営しているものに○をおつけください。(○はいくつでも)

	1.広報活動等として実施しているもの	2.うち「職業実践専門課程」の紹介や説明を行っている媒体
1.Webサイト		
2.SNS(Facebook、Twitter等)		
3.専修学校要覧		
4.高校生向け冊子、リーフレット等		
5.中学生向け冊子、リーフレット等		
6.高等学校、高校教員向け冊子、リーフレット等		
7.中学校、中学教員向け冊子、リーフレット等		
8.社会人学生向け冊子、リーフレット等		
9.留学生向け冊子、リーフレット等		
10.企業向け冊子、リーフレット等		
11.その他 [※] (具体的に:)		
12.特に情報発信は行っていない		
13.会員校に職業実践専門課程は存在しない		

※本設問では、**セミナーや説明会等を除く**広報活動についてお尋ねしたいと考えておりますので、「11.その他」では、セミナーや説明会等は含めないでください。

問 7 問 6-1 (広報活動等で実施しているもの)で**選択肢 12.「特に情報発信は行っていない」**を選んだ方に伺います。情報発信を行っていない主な理由を教えてください。(〇はいくつでも)

- 1.情報発信を行う必要性は感じるが、協会内の合意が得られない
- 2.情報発信を行う必要性は感じるが、予算がない
- 3.情報発信を行う必要性は感じるが、対応できる人材がない
- 4.(個々の会員校が利用する)民間の学校情報サイトが同種の情報発信をしているから
- 5.情報発信を行う必要性を感じない
- 6.その他(具体的に:)
- 7.特に理由はない

問 8 職業教育・専修学校教育に関する説明会等について実施しているものを教えてください。(〇はいくつでも)

- 1.高校生向けキャリア教育※(出前授業等)の実施
- 2.高校生向け職業教育※(出前授業等)の実施
- 3.高校生向け高校内学校説明会への職員派遣の実施
- 4.中学生向けキャリア教育※(出前授業等)の実施
- 5.中学生向け職業教育※(出前授業等)の実施
- 6.中学生向け中学校内学校説明会への職員派遣の実施
- 7.高校教員向けセミナー・説明会(個々の専修学校の紹介をするもの)の実施
- 8.高校教員向けセミナー・説明会(個々の専修学校の紹介をしないもの)の実施
- 9.中学校教員向けセミナー・説明会(個々の専修学校の紹介をするもの)の実施
- 10.中学校教員向けセミナー・説明会(個々の専修学校の紹介をしないもの)の実施
- 11.高校生の保護者向けセミナー・説明会(個々の専修学校の紹介をするもの)の実施
- 12.高校生の保護者向けセミナー・説明会(個々の専修学校の紹介をしないもの)の実施
- 13.中学生の保護者向けセミナー・説明会(個々の専修学校の紹介をするもの)の実施
- 14.中学生の保護者向けセミナー・説明会(個々の専修学校の紹介をしないもの)の実施
- 15.産業界と連携した職業フェアの開催・出展
- 16.産業界と連携していない職業フェアの開催・出展
- 17.その他(具体的に:)
- 18.上記の取組は、特に行っていない

※「キャリア教育」「職業教育」の定義は、中央教育審議会答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育のあり方について」の定義(以下に記載)にしたがう。

(http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2011/02/01/1301878_1_1.pdf) 「キャリア教育」とは、一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育を指す。「職業教育」とは、一定又は特定の職業に従事するために必要な知識、技能、能力や態度を育てる教育を指す。

Web サイトでの情報発信についてお尋ねします。（問 5-1（広報活動等で実施しているもの）で**選択肢 1「Web サイト」**を選んだ方に伺います。）

問 9 貴協会の Web サイトでは、個々の専修学校について紹介をしていますか。（○はひとつ）

- | |
|---|
| 1. 個々の専修学校紹介を行っている
2. 個々の専修学校紹介を行っていない |
|---|

問 10 （問 9 で**選択肢 1「個々の専修学校紹介を行っている」**を選んだ方に伺います）
専修学校紹介掲載対象校について教えてください。（○はいくつでも）

- | |
|--|
| 1. 協会会員校全校の紹介を行っている
2. 協会会員校の中でも、職業実践専門課程のある学校のみ掲載している
3. 協会会員校の中でも、掲載依頼のあった学校のみ掲載している
4. 協会会員校の中でも、掲載手数料を受領した学校のみを掲載している
5. 協会会員校の中でも、規模の大きい学校のみ掲載している
6. 域内の非会員校の紹介を行っている（会員校と発信情報の内容等を区別していない）
7. 域内の非会員校の紹介を行っている（会員校と発信情報の内容等に差をつけている）
8. その他（具体的に： ）
9. 特に掲載対象の基準は設けていない／貴協会の任意で決定している |
|--|

問 11 （問 9 で**選択肢 1「個々の専修学校紹介を行っている」**を選んだ方に伺います）
個々の専修学校を紹介する際に掲載している情報を教えてください。（○はいくつでも）

（※問 10 で**選択肢 7「域内の非会員校の紹介を行っている（会員校と発信情報の内容等に差をつけている）」**を選んだ方は、会員校の紹介の際に掲載している情報に○、非会員校の紹介の際に掲載している情報に△をつけてください。（○・△は重複してもよい。○・△はいくつでも））

- | | |
|---|---|
| 1. 専修学校 web サイトの URL、web サイトへのリンク
2. 扱っている分野、職種等
3. 教育理念、教育方針
4. 教育の特色
5. 職業実践専門課程の認定状況
6. 住所
7. 教員数
8. 学生数
9. 社会人学生数
10. 留学生数
11. 卒業者数
12. 就職希望者数
13. 就職者数
14. 関連職種就職者数
15. 進学者数 | 16. 入試形態（選考方法）
17. 学費
18. 奨学金制度の有無
19. 授業時間
20. 履修できる科目
21. 取得できる資格・免許
22. 資格・免許の合格状況
23. 就職指導の有無
24. 進学実績（具体的な学校等の名称の公表）
25. 就職実績（具体的な企業等の名称の公表）
26. 学校評価の情報公開状況
27. 学生寮の有無
28. 課外活動の有無（クラブ、校外活動等）
29. 各専修学校の名称のみ掲載している |
|---|---|

問 12 Web サイトの更新頻度について教えてください。(○はひとつ)

- | | | |
|----------------|---------------|------------------|
| 1. 週に1回以上 | 2. 2～3週間に1回程度 | 3. 1ヶ月に1回程度 |
| 4. 2～3ヶ月に1回程度 | 5. 4～5ヶ月に1回程度 | 6. 6ヶ月～11ヶ月に1回程度 |
| 7. 1年以上更新していない | | |

問 13 Web サイトの更新を行っている方について教えてください。(○はいくつでも)

- | |
|---------------------|
| 1. 職員 |
| 2. 委託事業者等 |
| 3. その他(具体的に: _____) |

専修学校要覧についてお尋ねします。(問 6-1(広報活動等で実施しているもの)で選択肢 3.「専修学校要覧」**を選んだ方に伺います。)**

問 14 専修学校要覧では、どのような専修学校について紹介をしていますか。(○はひとつ)

(※専修学校要覧については、本アンケートとともに一部ご提供いただきますよう、お願いいたします。)

- | |
|--|
| 1.協会会員校全校の紹介を行っている |
| 2.協会会員校の中でも、職業実践専門課程のある学校のみ掲載している |
| 3.協会会員校の中でも、掲載依頼のあった学校のみ掲載している |
| 4.協会会員校の中でも、掲載手数料を受領した学校のみを掲載している |
| 5.協会会員校の中でも、規模の大きい学校のみ掲載している |
| 6.域内の非会員校の紹介を行っている(会員校と発信情報の内容等を区別していない) |
| 7.域内の非会員校の紹介を行っている(会員校と発信情報の内容等に差をつけている) |
| 8.その他(具体的に: _____) |
| 9.特に掲載対象の基準は設けていない/貴協会の任意で決定している |

問 15 個々の専修学校を紹介する際に掲載している情報を教えてください。(○はいくつでも)

(※問 14 で選択肢 7「域内の非会員校の紹介を行っている(会員校と発信情報の内容等に差をつけている)」**を選んだ方は、会員校の紹介の際に掲載している情報に○、非会員校の紹介の際に掲載している情報に△をつけてください。(○・△は重複可、○・△はいくつでも))**

- | | |
|----------------------------------|------------------------|
| 1.専修学校 web サイトの URL、web サイトへのリンク | 16.入試形態(選考方法) |
| 2.扱っている分野、職種等 | 17.学費 |
| 3.教育理念、教育方針 | 18.奨学金制度の有無 |
| 4.教育の特色 | 19.授業時間 |
| 5.職業実践専門課程の認定状況 | 20.履修できる科目 |
| 6.住所 | 21.取得できる資格・免許 |
| 7.教員数 | 22.資格・免許の合格状況 |
| 8.学生数 | 23.就職指導の有無 |
| 9.社会人学生数 | 24.進学実績(具体的な学校等の名称の公表) |
| 10.留学生数 | 25.就職実績(具体的な企業等の名称の公表) |
| 11.卒業者数 | 26.学校評価の情報公開状況 |
| 12.就職希望者数 | 27.学生寮の有無 |
| 13.就職者数 | 28.課外活動の有無(クラブ、校外活動等) |
| 14.関連職種就職者数 | 29.各専修学校の名称のみ掲載している |
| 15.進学者数 | |

- 11. 中学校教員への広報機会、広報手段が限定的である
- 12. 高校生の保護者への広報機会、広報手段が限定的である
- 13. 中学生の保護者への広報機会、広報手段が限定的である
- 14. 企業への広報機会、広報手段が限定的である
- 15. 広報に関する専修学校との連携がとりにくい
(情報を提供してもらえない、協会決定事項の情報発信に従わない等)
- 16. その他(具体的に: _____)
- 17. 情報発信上の課題は特になし

貴協会としての情報発信に関するルール、指導事項等の有無についてお尋ねします。

問 20 情報発信に関するルール、指導事項等の有無について、ご自由にお書きください。

(AO 入試の開始時期や、SNS を使った広報の方法に関するルール等、情報発信に関するルール等について)

情報発信・広報活動に関する、要望についてお尋ねします。

問 21 情報発信・広報活動に関する要望やご意見、その他別の課題等があれば、ご自由にお書きください。

問 22 差し支えなければ、ご回答いただいた方のお役職、ご連絡先をご記入ください。

お役職 :
ご連絡先電話番号 :

※氏名等の個人情報はご記入いただかないよう、おねがいたします。

アンケートは以上で終了です。ご協力いただき、誠にありがとうございました。

5.5 卒業生アンケート調査票

SC1.あなたの最終学歴をお答えください。

- | | |
|-------|---------------|
| 1. 大学 | 2. 専修学校（専門課程） |
|-------|---------------|

Q1.現在の就労形態について、当てはまるものをお答えください。

- | |
|------------------|
| 1 自営業／経営者 |
| 2 雇用されている（正社員） |
| 3 雇用されている（非正規社員） |
| 4 フリーランス |
| 5 現在は就労していない |

Q2.現在の職業（現在就業していない方は直近の職業）の業種について当てはまるものをお答えください。

- | |
|----------------------|
| 1 農業、林業 |
| 2 漁業 |
| 3 鉱業、採石業、砂利採取業 |
| 4 建設業 |
| 5 製造業 |
| 6 電気・ガス・熱供給・水道業 |
| 7 情報通信業 |
| 8 運輸業、郵便業 |
| 9 卸売業、小売業 |
| 10 金融業、保険業 |
| 11 不動産業、物品賃貸業 |
| 12 学術研究、専門・技術サービス業 |
| 13 宿泊業、飲食サービス業 |
| 14 生活関連サービス業、娯楽業 |
| 15 教育、学習支援業 |
| 16 医療、福祉 |
| 17 複合サービス事業 |
| 18 サービス業（他に分類されないもの） |
| 19 公務（他に分類されるものを除く） |
| 20 その他（具体的に） |

Q3.現在の職業（現在就業していない方は直近の職業）の職種について、当てはまるものをお答えください。

- | |
|-----------------|
| 1 管理的職業 |
| 2 専門・技術的職業 |
| 3 事務職 |
| 4 営業・販売職 |
| 5 サービス職 |
| 6 保安的職業 |
| 7 農林漁業作業者 |
| 8 生産工程従事者 |
| 9 輸送・機械運転従事者 |
| 10 建設・採掘従事者 |
| 11 運搬・清掃・包装等従事者 |
| 12 その他（具体的に） |

Q4.出身地についてお答えください。※出身地：高校卒業までに最も長い時間居住していた都道府県

1 北海道	11 埼玉県	21 岐阜県	31 鳥取県	40 福岡県
2 青森県	12 千葉県	22 静岡県	32 島根県	41 佐賀県
3 岩手県	13 東京都	23 愛知県	33 岡山県	42 長崎県
4 宮城県	14 神奈川県	24 三重県	34 広島県	43 熊本県
5 秋田県	15 新潟県	25 滋賀県	35 山口県	44 大分県
6 山形県	16 富山県	26 京都府	36 徳島県	45 宮崎県
7 福島県	17 石川県	27 大阪府	37 香川県	46 鹿児島県
8 茨城県	18 福井県	28 兵庫県	38 愛媛県	47 沖縄県
9 栃木県	19 山梨県	29 奈良県	39 高知県	48 国外
10 群馬県	20 長野県	30 和歌山県		

Q5.入学するまでのすべての学歴をお答えください。

1 高校卒
2 高等専修学校卒
3 専門学校卒
4 短期大学卒
5 高等専門学校卒
6 大学・大学院卒
7 高卒認定（大検含む）
8 その他

Q7.卒業学校の所在地をお答えください。

1 北海道	11 埼玉県	21 岐阜県	31 鳥取県	40 福岡県
2 青森県	12 千葉県	22 静岡県	32 島根県	41 佐賀県
3 岩手県	13 東京都	23 愛知県	33 岡山県	42 長崎県
4 宮城県	14 神奈川県	24 三重県	34 広島県	43 熊本県
5 秋田県	15 新潟県	25 滋賀県	35 山口県	44 大分県
6 山形県	16 富山県	26 京都府	36 徳島県	45 宮崎県
7 福島県	17 石川県	27 大阪府	37 香川県	46 鹿児島県
8 茨城県	18 福井県	28 兵庫県	38 愛媛県	47 沖縄県
9 栃木県	19 山梨県	29 奈良県	39 高知県	48 国外
10 群馬県	20 長野県	30 和歌山県		

Q8.現在の職業（現在就業していない方は直近の職業）の就職地をお答えください。

1 北海道	11 埼玉県	21 岐阜県	31 鳥取県	40 福岡県
2 青森県	12 千葉県	22 静岡県	32 島根県	41 佐賀県
3 岩手県	13 東京都	23 愛知県	33 岡山県	42 長崎県
4 宮城県	14 神奈川県	24 三重県	34 広島県	43 熊本県
5 秋田県	15 新潟県	25 滋賀県	35 山口県	44 大分県
6 山形県	16 富山県	26 京都府	36 徳島県	45 宮崎県
7 福島県	17 石川県	27 大阪府	37 香川県	46 鹿児島県
8 茨城県	18 福井県	28 兵庫県	38 愛媛県	47 沖縄県
9 栃木県	19 山梨県	29 奈良県	39 高知県	48 国外
10 群馬県	20 長野県	30 和歌山県		

Q9.修了した専修学校での専攻分野をお答えください。

- | |
|-------------|
| 1 工業関係 |
| 2 農業関係 |
| 3 医療関係 |
| 4 衛生関係 |
| 5 教育・社会福祉関係 |
| 6 商業実務関係 |
| 7 服飾・家政関係 |
| 8 文化・教養関係 |

Q10.卒業した専修学校の修業年限をお答えください。

- | | | | | |
|--------|--------|--------|--------|-------|
| 1.1 年制 | 2.2 年制 | 3.3 年制 | 4.4 年制 | 5.その他 |
|--------|--------|--------|--------|-------|

Q11.卒業学校で在学中に取得した資格をお答えください。

- | | |
|-----------------|--------------------|
| 1 国家資格（受験資格を含む） | 2 業界・民間資格（受験資格を含む） |
| 3 その他（ ） | 4 資格は取得していない |

Q12. 卒業学校で在学中に取得した主要な資格名（受験資格含む）をお答えください。

--

Q13.卒業後、母校とどのくらいかかわりがありますか。

- | |
|-----------------------------|
| 1 卒業後、母校で研修やセミナーを受講した（している） |
| 2 卒業後、母校で講師をした（している） |
| 3 卒業後、母校の同窓会に参加している |
| 4 卒業後、母校とは特にかかわっていない |

Q14.卒業後に働いて収入を得た期間の総数をお答えください。

--

Q15.現在のキャリアパス（職位）で当てはまるものをお答えください。

- | |
|---------|
| 1 一般職 |
| 2 主任 |
| 3 係長 |
| 4 課長 |
| 5 部長 |
| 6 役員 |
| 7 わからない |

Q16.現在までに所属した組織の数をお答えください。※正規雇用、非正規雇用を問わず、大学/専修学校卒業後の所属組織の数をお答えください。

- | | | | | |
|----------|-----------------|--------|--------|--------|
| 1. 1 社 | 2. 2 社 | 3. 3 社 | 4. 4 社 | 5. 5 社 |
| 6. 6 社以上 | 7. 組織に所属したことがない | | | |

Q17.現在の職業（現在就業していない方は直近の職業）と大学/専修学校で学んだ内容の関連性について、当てはまるものをお答えください。

- | |
|-------------------------|
| 1 日々の業務で専門性を発揮している |
| 2 日々の業務で専門性を発揮することがある |
| 3 日々の業務で専門性を発揮することは殆どない |
| 4 業務と専門性は関連がない |

Q18.現在の職業と大学/専修学校で学んだ内容の関連性について、自由に回答してください。

--

Q19.現在の職業（現在就業していない方は直近の職業）に就くことを意識した時期はいつですか。もっとも当てはまるものをお答えください。

- | |
|------------------|
| 1 小学校入学以前 |
| 2 小学校在学中 |
| 3 中学校在学中 |
| 4 高等学校／高等専修学校在学中 |
| 5 卒業学校在学中 |
| 6 卒業学校卒業後 |
| 7 その他（具体的に） |

Q20.進路希望についてお答えください。

	1.4年制大学	2.短期大学	3.専門学校	4.就職	5.決まっていない
高校進学時の進路希望	1	2	3	4	5
高校2年4月の進路希望	1	2	3	4	5
高校3年4月時の進路希望	1	2	3	4	5
高校3年9月の進路希望	1	2	3	4	5

Q21.専門学校という学校種を知った時期について、最も近いものをお答えください。

- | |
|-------------|
| 1 高校入学以前 |
| 2 高校1年生次 |
| 3 高校2年夏休み以前 |
| 4 高校2年夏休み後 |
| 5 高校3年夏休み以前 |
| 6 高校3年夏休み後 |
| 7 大学入学後 |
| 8 現在まで知らない |

Q22.高等学校等における進路指導において、専門学校を希望する選択に関し、どのような指導がありましたか。

- 1 専門学校の特徴について説明してくれた
- 2 学校研究の方法について説明してくれた
- 3 具体的な専門学校を紹介してくれた
- 4 専門学校の選択について指導はなかった
- 5 大学進学を勧められた
- 6 短期大学進学を勧められた
- 7 就職を勧められた
- 8 その他

Q23.ご自身として、よい大学/専門学校を選択して、進学できたと思いますか。

- 1 とてもそう思う
- 2 どちらかというと思う
- 3 どちらともいえない
- 4 どちらかというと思わない
- 5 まったく思わない

Q24.ご家族についてうかがいます。※二親等（例：親・兄弟姉妹・祖父母）まで

	1.いる	2.いない
ご家族の中に、最終学歴が中学校卒の方はいますか。	1	2
ご家族の中に、最終学歴が高等学校卒の方はいますか。	1	2
ご家族の中に、最終学歴が専門学校卒の方はいますか。	1	2
ご家族の中に、最終学歴が短期大学の方はいますか。	1	2
ご家族の中に、最終学歴が大学卒・大学院卒の方はいますか。	1	2

Q25.高校等の在学時に、クラスメイトに専門学校進学者はどの程度いましたか。

- 1 ほとんどいない
- 2 1割程度
- 3 2割程度
- 4 3割程度
- 5 3割を超える

Q26.進路に決定した理由で、当てはまるものをすべてお答えください。

- 1 専門性を身につけることができるから
- 2 幅広い教養を身につけたいと思ったから
- 3 研究したい学問があったから
- 4 就職に有利だと思ったから
- 5 地元で就職したかったから
- 6 修業年限が短かったから
- 7 実習が多いなど学習内容が魅力的だったから
- 8 好きなことを集中的に学修できるから
- 9 大学に行きたくなかったから
- 10 大学進学が難しかったから（学力不足）
- 11 大学進学が難しかったから（資金面）

- 12 大学進学が難しかったから（家族の反対）
- 13 地元の高等教育機関は専門学校しかなかったから
- 14 なんとなく
- 15 就職先の選択肢が広がると感じたから
- 16 就職前に自由な時間がほしかったから
- 17 周囲がみな行くから
- 18 その他（具体的に）

Q27.進路決定において一番影響を受けた存在は誰ですか。

- 1 親や家族・親戚
- 2 学校の先生
- 3 クラスメイトなどの友人
- 4 卒業者
- 5 その他（具体的に）

Q28.進路選択の際、重視した媒体についてお答えください。

Q28-1.進路選択において、進学先を選ぶ際に参考にした媒体をすべてお答えください。

- 1 一般的な進学情報誌
- 2 大学/専門学校に関する進学情報誌
- 3 大学/専門学校が出している学校案内
- 4 インターネット等のウェブ情報
- 5 オープンキャンパスなどの対面でのコミュニケーション
- 6 その他 1（具体的に）
- 7 その他 2（具体的に）

Q28-2.進学において、進学分野を選ぶ際に参考にした媒体をすべてお答えください。

- 1 一般的な進学情報誌
- 2 大学/専門学校に関する進学情報誌
- 3 大学/専門学校が出している学校案内
- 4 インターネット等のウェブ情報
- 5 オープンキャンパスなどの対面でのコミュニケーション
- 6 その他 1（具体的に）
- 7 その他 2（具体的に）

Q29.進路選択の際、重視した情報についてお答えください。

Q29-1.進学先を選ぶ際に重視した情報は何か。当てはまるものをすべてお答えください。

- 1 修了者の割合
- 2 就職率
- 3 進学率
- 4 資格取得率
- 5 就職先（企業名や分野など）
- 6 進学先（大学名など）
- 7 卒業生の声
- 8 指導内容
- 9 課外活動/実習内容
- 10 学費（奨学金の設置含む）
- 11 学校設備
- 12 その他1（具体的に）
- 13 その他2（具体的に）

Q29-2.進学分野を選ぶ際に重視した情報は何か。当てはまるものをすべてお答えください。

- 1 修了者の割合
- 2 就職率
- 3 進学率
- 4 資格取得率
- 5 就職先（企業名や分野など）
- 6 進学先（大学名など）
- 7 卒業生の声
- 8 指導内容
- 9 課外活動/実習内容
- 10 学費（奨学金の設置含む）
- 11 学校設備
- 12 その他1（具体的に）
- 13 その他2（具体的に）

Q30.卒業学校を選んだ決め手は何ですか。自由にお答えください。（例：家から徒歩で通えたから）

Q31.卒業学校在籍時の一番の思い出は何ですか。印象に残っている授業や学んだことなど、具体的にお答えください（例：インターンシップで・・・に苦労したが、・・・を経験することができて、楽しかった）

Q32.進学後、高校等に在籍時に取り組んでおけばよかったと思うことはありますか。

1 主要教科の学習
2 専門分野に関係する学習
3 基本的な生活習慣の確立
4 社会のルールやマナーの習得
5 様々な職業（選択）があることへの理解（職業調べやインターンなど）
6 部活動・クラブ活動
7 課外活動（生徒会、文化祭等）
8 アルバイト
9 その他（具体的に）
10 特に当てはまるものはない

Q33.就職した後、他の学校種を卒業した人と比較して、強みを感じたことはありますか。

	とても強みを感じる	どちらかというと強みを感じる	どちらともいえない	どちらかというと弱みを感じる	とても弱みを感じる
専攻分野に直接関わる専門知識	1	2	3	4	5
専攻分野の関連領域の知識	1	2	3	4	5
専攻分野の技能	1	2	3	4	5
挨拶や身だしなみなどの社会人としての基本的な動作ができること	1	2	3	4	5
優先順位をつけてスピード感を持って物事をこなせること	1	2	3	4	5
正確に物事をこなせること	1	2	3	4	5
相手の状況や考え方を考慮して話ができること	1	2	3	4	5
報告、連絡、相談など仕事で求められるコミュニケーションができること	1	2	3	4	5
人との関係を大切に、協調・協働して行動できること	1	2	3	4	5
筋道を立てて考え、具体的に表現できること	1	2	3	4	5
問題を発見し、原因を考え、解決に向け取り組めること	1	2	3	4	5
困難に直面してもあきらめずにやりぬけること	1	2	3	4	5
様々な情報を活用しながら、自分の将来にわたっての働き方を考えられること	1	2	3	4	5
専攻分野の業界や企業等とのネットワークが得られること	1	2	3	4	5
その他1（具体的に）	1	2	3	4	5
その他2（具体的に）	1	2	3	4	5

Q34.卒業時の就職先の決定理由は何ですか。当てはまるものをすべてお答えください。

- | |
|-------------------|
| 1 専門性を活かせる場である |
| 2 好きなことができる環境である |
| 3 給与水準 |
| 4 労働時間が短い |
| 5 休みが多い、休暇が取得しやすい |
| 6 キャリアパスが明確になっている |
| 7 人間関係がよい |
| 8 その他（具体的に） |

Q35.現在の勤務先の決定理由は何ですか。当てはまるものをすべてお答えください。

- | |
|-------------------|
| 1 専門性を活かせる場である |
| 2 好きなことができる環境である |
| 3 給与水準 |
| 4 労働時間が短い |
| 5 休みが多い、休暇が取得しやすい |
| 6 キャリアパスが明確になっている |
| 7 人間関係がよい |
| 8 その他（具体的に） |

Q36.あなたの進学先の選択は、成功したと思いますか。就職時点と現在（現在就業していない方は直近の職業）の状況をそれぞれお答えください。

	とても成功した	どちらかという と成功した	どちらともい えない	どちらかとい うと失敗した	とても失敗し た
学校卒業後、就職時点	1	2	3	4	5
現在	1	2	3	4	5

Q37.現在（現在就業していない方は直近の職業）の勤務先の満足度をお答えください。

	とても成功した	どちらかとい うと成功した	どちらともい えない	どちらかとい うと失敗した	とても失敗し た
給与	1	2	3	4	5
やりがい	1	2	3	4	5
労働条件	1	2	3	4	5
人間関係	1	2	3	4	5

Q38.大学に進学すればよかったと思うことがありますか。

- | |
|------------------|
| 1 とてもある |
| 2 どちらかという
とある |
| 3 どちらともい
えない |
| 4 どちらかとい
うとない |
| 5 まったくない |

Q39.大学に進学すればよかったと思ったのはどのような時ですか。

- 1 他の職業を目指したくなかったが、専門外の職種への転職がしにくい
- 2 他の職業を目指したくなかったが、大学卒業が条件（資格、採用等）になっている
- 3 大卒者との業務内容に差がある
- 4 大卒者との処遇に差がある
- 5 専門分野の知識・理論の不足を感じる
- 6 教養の不足を感じる
- 7 その他（具体的に）

Q40.専門学校の魅力は何だと感じますか。当てはまるものをすべてお答えください。

- 1 専門性が身につく
- 2 好きなことを集中的に学修できる
- 3 就職に有利である
- 4 就職支援が手厚い
- 5 教師と生徒の距離が近い
- 6 実習が多い
- 7 資格が取得できる
- 8 その他（具体的に）

Q41.専門学校各校の特徴を判断するためには、どのような情報を発信すべきだと思いますか。当てはまるものをすべてお答えください。

- 1 修了者の割合
- 2 就職率
- 3 進学率
- 4 資格取得率
- 5 就職先（企業名や分野など）
- 6 進学先（大学名など）
- 7 卒業生の声
- 8 指導内容
- 9 実習内容
- 10 学費（奨学金の設置含む）
- 11 学校設備
- 12 その他（具体的に）

Q42.専門学校の魅力として発信すべき情報は誰宛に発信すべきだと思いますか。当てはまるものをすべてお答えください。

- 1 高校生
- 2 保護者
- 3 高校の教員
- 4 企業人事担当者
- 5 専門学校卒業生
- 6 社会一般
- 7 その他（具体的に）

Q43.高校等在学時に、発信してほしかった専門学校に関する情報は何ですか。当てはまるものをすべてお答えください。

- 1 修了者の割合
- 2 就職率
- 3 進学率
- 4 資格取得率
- 5 就職先（企業名や分野など）
- 6 進学先（大学名など）
- 7 卒業生の声
- 8 指導内容
- 9 実習内容
- 10 学費（奨学金の設置含む）
- 11 学校設備
- 12 その他（具体的に）

Q44.自分の仕事に対する考え方のうち、近いものはどれですか。2つ選んでお答えください。

- 1 困っている人を支える仕事がしたい
- 2 お客様の役に立つ仕事がしたい
- 3 最新の技術に関わる仕事がしたい
- 4 自然や動物に関わる仕事がしたい
- 5 芸術に関わる仕事がしたい
- 6 世界で活躍できる仕事がしたい
- 7 有名になる仕事がしたい
- 8 クリエイティブな作業が好き
- 9 事務作業が好き
- 10 人前で話す業務が好き
- 11 接客業務が好き
- 12 チームで仕事をすることが好き
- 13 個人で作業することが好き

アンケートは以上で終了です。ご協力いただき、誠にありがとうございました。

社会のニーズにこたえる効果的な情報発信の推進 報告書

2018年3月

株式会社三菱総合研究所
科学・安全事業本部
TEL (03)6705-6051